２０１９年度
八戸らしいモビリティ・マネジメント教育推進事業

報告書

令和２年３月

八戸市

【 目 次 】

第１章 業務の概要 1

第２章 プラットフォームの構築 9

1. 八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会 9

(1) 検討委員会構成員 9

(2) 第１回検討委員会 10

2. 八戸らしいモビリティ・マネジメント教育ワーキンググループ 47

(1) WG 構成員 47

(2) 第１回ワーキングループ 47

第３章 八戸市における社会科学習目標・内容等の整理・検討 64

1. ２学年（生活科）での取扱い 64

2. ３学年（社会科）での取扱い 65

3. ４学年（社会科）での取扱い 69

4. ５学年（社会科）での取扱い 71

5. ６学年（社会科）での取扱い 73

第４章 新学習指導要領における学習目標・内容等の整理・検討 75

1. 新学習指導要領のポイント 75

2. 新学習指導要領における社会科の「内容」にみる「交通」 77

3. 新学習指導要領における総合的な学習の時間の「内容」にみる「交通」 79

第５章 他地域事例の整理・学習 84

1. 北海道札幌市の事例 84

2. 北海道帯広市の事例 96

3. 神奈川県藤沢市の事例 100

第６章 今後の進め方 108

第1章 業務の概要

(1) 業務の名称

2019年度小中学校におけるモビリティ・マネジメント教育支援事業業務

(2) 業務の目的

市では、これまでも小学校における公共交通に関する出前教室の実績を多数有するだけでなく、いくつかの小学校においては継続的な取り組みとなっており、発展的な学習の場に進化している学校も存在していることから、今後も一層の普及・進化が期待されるところである。

一方で、これらのMM教育に関して関係者が意見交換をする場、理解を深める場、意義を共有する場は平成29年度に1度開催されたばかりであり、各学年・各学科の学習目標、そして八戸らしい「伝え方・学び方」についての精査も十分とは言えない。これは、これまでは「八戸市公共交通会議の事業」を「委託先の業者」が実施する形式となっていたこと、つまり「現場教諭の主体的な関与」は限定的なものであったことが理由として考えられる。

そこで、本事業では、教育委員会とも連携しながら「公共交通学習の意義」を共有するプラットフォームを構築し、これをベースとした「八戸らしい授業プログラムの開発」、およびその授業実践をサポートする教材として「副読本（既存のものを補完する別冊を予定）」の作成を行うことを目的とする。

(3) 業務の内容

①プラットフォームの構築

八戸市の教育委員会（指導主事及び研究授業担当教諭）、交通政策担当部署、八戸での公共交通政策を支えてきた学識経験者、MM教育の先進地で中心的存在であった有識者、バス事業者、市内外で小学校での公共交通出前教室の実績を有するNPO法人らによる「八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会（仮）」を新たに設置し、関係機関におけるMM教育（公共交通学習）の意義の共有、深化を企図したプラットフォームを構築する。

あわせて、具体の授業内容や副読本内容の検討の機動性を高めるために、教育委員会（指導主事）と研究授業担当教諭、交通政策担当部署、バス事業者、バス利用促進員らによるワーキンググループを設置する。

②八戸市における社会科学習目標・内容等の整理・検討

「八戸らしいMM教育プログラム＝授業の在り方」を検討するために、八戸市で採用している社会科教科書、および八戸市社会科教育研究会が作成し、市内小学校で使用されている社会科副読本から「公共交通」および「公共」に関する項目・内容、学習目標との関連等にについて整理・検討する

③新学習指導要領における学習目標・内容等の整理・検討

MM教育を将来的に授業の中に位置づけることを目指すにあたっては、「八戸らしくあること」もさることながら、学習指導要領の内容に合致することが不可欠である。

そこで、来年から全面実施される新学習指導要領の目標・項目・内容における「公共交通」または「交通」、および「公共」に関する項目を整理し、「八戸らしいMM教育プログラム」を実施する学習指導要領的文脈・位置づけ等を検討する。

④他地域事例の整理・学習

八戸市教育委員会において現場教諭が主体となって実施している「教科等研究委員制度社会科部会」において、公共交通学習をテーマとして扱う。

その、教科等研究委員制度社会科部会での取組がスムーズに開始できるよう、他地域事例の収集や勉強会の開催、既存資料の整理等を行う。

⑤報告書の作成

成果品は、以下のとおりとする。

・業務全体の成果品としての報告書（紙媒体Ａ４版縦型により正副各１部）
・成果一式（ＰＤＦ及び編集可能な状態のもの。電子記録媒体にて１部）

(4)　業務の履行期間

2020年1月30日から2020年 3月31日まで

(5)　委託者

名　　称：八戸市（担当：八戸市都市整備部都市政策課）
住　　所：〒031-8686　八戸市内丸1丁目1番1号
電話番号：0178-43-2111（内線4712）

(6)　受託者

名　　称：特定非営利活動法人まちもびデザイン
住　　所：〒031-0075　八戸市内丸3丁目3番21号　秋田屋ビル1F
電話番号&FAX番号：0178-22-1601

(7)　実施計画書

2019年度小中学校における
モビリティ・マネジメント教育支援事業
実施計画書

業 務 計 画 書

令和２年２月

特定非営利活動法人 まちもびデザイン

〈目　次〉

第１章 業務概要..... 4

第２章 業務内容..... 6

第３章 業務実施体制等..... 7

第４章 業務スケジュール..... 7

第1章 業務概要

1. 業務の目的

八戸市では、これまでも小学校における公共交通に関する出前教室の実績を多数有するだけでなく、いくつかの小学校においては継続的な取り組みとなっており、発展的な学習の場に進化している学校も存在していることから、今後も一層の普及・進化が期待されるところである。

一方で、これらのモビリティ・マネジメント（以下：MM）教育に関して関係者が意見交換をする場、理解を深める場、意義を共有する場は、平成29年度に1度開催されたばかりであり、各学年・各学科の学習目標、そして八戸らしい「伝え方・学び方」についての精査も十分とは言えない。これは、これまでは「八戸市公共交通会議の事業」を「委託先の業者」が実施する形式となっていたこと、つまり「現場教諭の主体的な関与」は限定的なものであったことが理由として考えられる。

そこで、本事業では、教育委員会とも連携しながら「公共交通学習の意義」を共有するプラットフォームを構築し、これをベースとした「八戸らしい授業プログラムの開発」、およびその授業実践をサポートする教材として「副読本（既存のものを補完する別冊を予定）」の作成を行うことを目的とする。

2. 業務の内容

(1) プラットフォームの構築

八戸市の教育委員会（指導主事及び研究授業担当教諭）、交通政策担当部署、八戸での公共交通政策を支えてきた学識経験者、MM教育の先進地で中心的存在であった有識者、バス事業者らによる「八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会（仮）」を新たに設置し、関係機関におけるMM教育（公共交通学習）の意義の共有、深化を企図したプラットフォームを構築する。

あわせて、具体の授業内容や副読本内容の検討の機動性を高めるために、教育委員会（指導主事）と研究授業担当教諭、交通政策担当部署、バス事業者、バス利用促進員らによるワーキンググループを設置する。

(2) 八戸市における社会科学習目標・内容等の整理・検討

「八戸らしいMM教育プログラム＝授業の在り方」を検討するために、八戸市で採用している社会科教科書、および八戸市社会科教育研究会が作成し、市内小学校で使用されている社会科副読本から「公共交通」および「公共」に関する項目・内容、学習目標との関連等について整理・検討する。

(3) 新学習指導要領における学習目標・内容等の整理・検討

MM教育を将来的に授業の中に位置づけることを目指すにあたっては、「八戸らしくあること」もさることながら、学習指導要領の内容に合致することが不可欠である。

そこで、来年から全面実施される新学習指導要領の目標・項目・内容における「公共交通」または「交通」、および「公共」に関する項目を整理し、「八戸らしいMM教育プログラム」を実施する学習指導要領的文脈・位置づけ等を検討する。

(4) 他地域事例の整理・学習

八戸市教育委員会において現場教諭が主体となって実施している「教科等研究委員制度 社会科部会」ぶおいて、公共交通学習をテーマとして扱う。

その、教科等研究委員制度 社会科部会での取組がスムーズに開始できるよう、他地域事例の収集や勉強会の開催、既存資料の整理等を行う。

3 履行期間

令和２年１月３０日から令和２年３月３１日まで

第2章 業務内容

(1) プラットフォームの構築

実施時期	・八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会（仮）の開催：3月上旬 ・ワーキンググループの開催：3月下旬
実施上の留意点	・八戸市教育委員会との連携を密に行っていきます。 ・会議の円滑な進行において、資料の整理は重要であるため、「伝わる・わかりやすい資料」作りをいたします。

(2) 八戸市における社会科学習目標・内容等の整理・検討

実施上の留意点	・MM教育の先進地で中心的存在であった有識者と情報交換を行いながら内容の整理と検討を行います。

(3) 新学習指導要領における学習目標・内容等の整理・検討

実施上の留意点	・MM教育の先進地で中心的存在であった有識者と情報交換を行いながら内容の整理と検討を行います。 ・必要に応じて、総合的な学習の新学習指導要領も確認し整理を行います。

(4) 他地域事例の整理・学習

実施上の留意点	・国内事例に留まらず、海外の事例についても整理・学習します。

第3章 業務実施体制等

1. 業務体制

本業務は、下記の体制により実施する。

管理技術者（工程管理・技術指導） 工程管理 各種ツールコンセプト設計・作成 伊地知　恭右	発注者との連絡調整 各業務の実施 各種ツール作成 主担当：関下　和裕

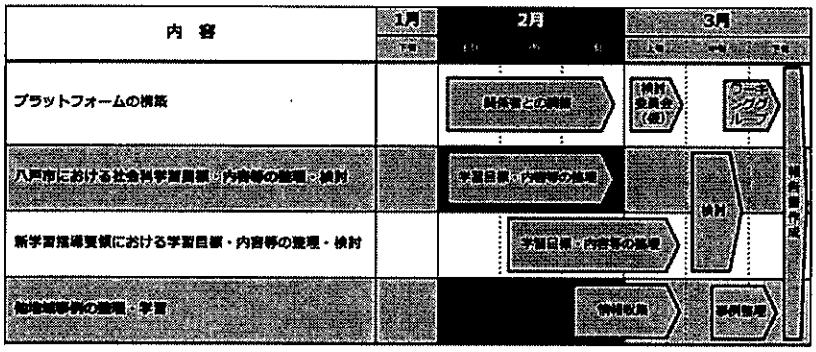
2. 成果品の提出

受託者は、本契約で定める所定様式による報告等のほか、本業務の完了を証する成果品として、業務の経過や成果をまとめた報告書を以下のとおり委託者まで提出する。

(1) 業務全体の成果品として成果報告書（紙媒体Ａ４版縦型により正副各１部）
(2) 成果一式（ＰＤＦ及び編集可能な状態のもの。電子記録媒体にて１部）

第4章 業務スケジュール

以下のスケジュールに従い、業務を遂行する。



第2章 プラットフォームの構築

八戸市でのモビリティ・マネジメント教育の在り方を検討するために、教育委員会（指導主事及び研究授業担当教諭※）、交通政策担当部署、八戸での公共交通政策を支えてきた学識経験者、MM教育の先進地で中心的存在であった有識者、バス事業者らによる「八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会」（以下、検討委員会と略記）設置した。

あわせて、具体の授業内容や副読本内容の検討の機動性を高めるために、教育委員会（指導主事）と研究授業担当教諭、交通政策担当部署、バス事業者らによるワーキンググループ（以下、WGと略記）を設置した。

本章では、これら検討委員会とWGの構成および議事で使用した資料、議論内容について整理する。

1. 八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会

(1) 検討委員会構成員

検討委員会は、八戸市において十数年にわたり公共交通の調査、検討、各種利用促進策に通じている八戸市地域公共交通会議アドバイザー（福島大学経済経営学類国際地域経済専攻准教授）の吉田樹先生を委員長とし、教育委員会、交通事業者、本事業の助成団体である（公財）交通エコロジー・モビリティ財団により構成した。

※敬称略

構成団体	役職名	氏名
学識経験者	福島大学経済経営学類国際地域経済専攻准教授 八戸市地域公共交通会議アドバイザー	吉田　樹 （委員長）
	NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム 理事長	新保　元康
教育委員会	八戸教育委員会総合教育センター主任主導主事	大野　勉
交通事業者	八戸市交通部運輸管理課営業グループＧＬ	阿部　敏彦
	岩手県北自動車株式会社南部支社乗合部部長	佐藤　欽一
アドバイザー	公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部交通環境企画課調査役	岡本　英晃
行政 （委託者）	八戸市都市整備部次長兼都市政策課課長	畠山　智
	八戸市都市整備部都市政策課交通政策グループＧＬ	石橋　正一
	八戸市都市整備部都市政策課交通政策グループ主査	相模　将喜
事務局 （受託者）	特定非営利活動法人まちもびデザイン事務局長	伊地知恭右
	特定非営利活動法人まちもびデザイン事務局	関下　和裕

(2)　第１回検討委員会

第１回検討委員会は、本事業の背景として、八戸市における（MM 教育と同様の）公共交通出前教室の８年に渡る実績を概覧した上で、実績をベースとした MM 教育の意義を確認し、本事業に取り組む上での「現在地」の確認と、事業を通じて「目指す場所」を議論した。あわせて、MM 教育の本来的な意義、他地域の事例を共有すると共に、MM 教育の先進地である北海道札幌市の事例について、新保委員の発表を行い、各種意見交換を行った。

【日　時】令和元年２月１８日（火）　９：００～１１：００
【場　所】八戸屋内スケートリンク　大会議室
【議　事】・公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団助成事業
「八戸らしいモビリティ・マネジメント教育推進事業」の事業概要
・モビリティ・マネジメント教育の特徴と他地域事例
・モビリティ・マネジメント教育の先進事例
「札幌市におけるMM教育の取り組み」

写真 2-1　第１回検討委員会

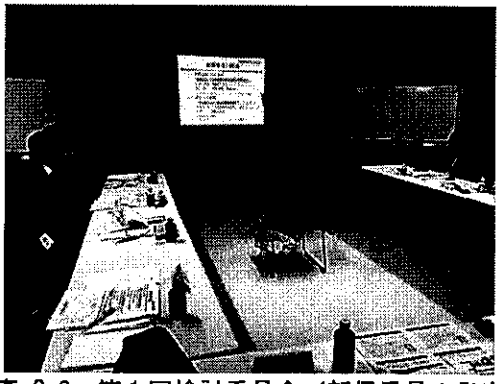


写真 2-2　第１回検討委員会（新保委員の発表）

①第１回検討委員会資料

第１回　八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会

次　第

令和２年２月18日（火）
八戸屋内スケートリンク　大会議室

１．開会挨拶
　八戸市　都市政策課　次長兼課長　畠山　智

２．委員紹介

３．議　事
（１）公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団助成事業
「八戸らしいモビリティ・マネジメント教育推進事業」の事業概要　【資料１】

（２）モビリティ・マネジメント教育の特徴と他地域事例　【資料２】

（３）モビリティ・マネジメント教育の先進事例
『札幌市におけるMM教育の取組み（仮題）』新保委員　【資料３】

４．意見交換

５．閉　会

令和元年度第1回　八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会
令和２年２月１８日（火）

資料１

「八戸らしいモビリティ・マネジメント教育推進事業」の事業概要

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団助成事業

１.八戸におけるこれまでのモビリティ・マネジメント教育の変遷

※モビリティ・マネジメント教育（以下、MM教育と略記）

そもそも、MM教育とは…

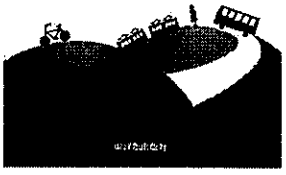
われわれ一人ひとりの移動手段や社会全体の交通流動を「人や社会、環境にやさしい」という観点から見直し、改善していくために自発的な行動を取れるような人間を育成することを目指した教育活動。交通環境学習。
※出典『モビリティ・マネジメント教育』東洋館出版社

※資料２に詳述

モビリティ・マネジメント教育

具体的には…

- 『移動・交通』の視点から、自分自身の生活、暮らしと社会との関わりを学ぶ。
- その上で、よりよい社会を築くための行動を主体的に考え、実践することを目指す。
- 例えば…
  - ➢ 公共交通ネットワークの広がりとまちの形の変化
  - ➢ 移動手段と環境問題の関わり
  - ➢ 物流ネットワークの広がりと暮らしの変化
  - ➢ 公的な場所（バス車内など）でのマナー　etc…



書籍『モビリティ・マネジメント教育』
監修：藤木清志先生（筑波大学人間系教授）
藤井聡先生（京都大学都市社会工学専攻教授）

2

（1）八戸市がMM教育（公共交通出前教室）に取り組んだ背景

・全国的に続く、路線バスの利用者減、サービス低下、路線廃止という悪循環
・近年ではバス運転手不足による減便・廃線問題も全国的な課題
・**行政として「市民の足／貴重な交通インフラ」である公共交通の意味を考えると共に、どのように維持していくのか**、政策と実践が問われる時代

・八戸市地域公共交通会議では、これまでもバス利用者の拡大＝交通インフラの維持・確保のために精力的に施策を展開してきた。

- **運賃の見直し**：わかりやすく使いやすい運賃体系の導入
- **案内機能の充実**：はっち案内所の活用／八戸公共交通アテンダントはちこ／マチニワモニターの活用等
- **目的地提案型の利用促進**：日帰り路線バスパックの造成／バスさんぽマップの配布　等

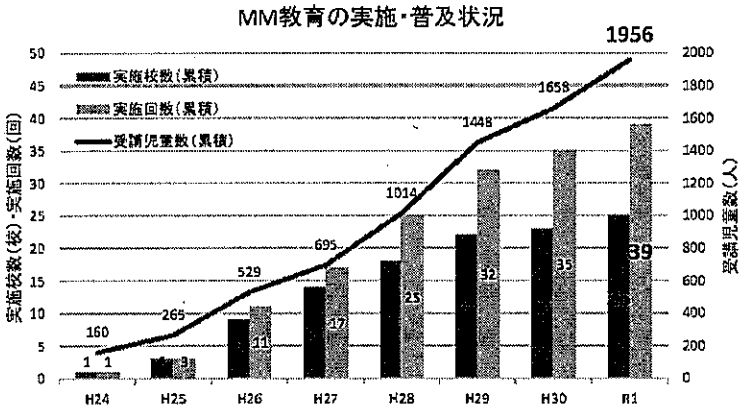
・その一環として、**平成２４年度から、小学生を対象として、バスの乗り方・バスの必要性・バスと社会問題の関わり等を学ぶ公共交通出前教室を実施**
→ねらい：（親世代がバスを利用しないことから）子どもたちのバス離れが進む中、**小さい頃から少しでもバスに慣れてもらいたい！**その延長で、**高校進学時に「バスで＝自分で」通学**してもらいたい！

➔ **公共交通・バスの利用促進（都市政策課的な目線）**からはじまった。

3

（2）MM教育の広がり

・平成24年度の開始から、令和元年度まで**8年間、継続的に実施**してきた。
・実施回数だけなく、『実施校数』も増加し続け、MM教育は市内の小学校で広がってきた。
・実績（累積）：**実施回数39回、実施校数25校、受講児童数1,956名。**



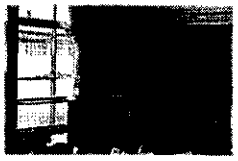
（具体例：図南小学校）

経 緯

・平成29年度から3か年連続で実施【3学年・総合】
・南部バス営業所が近いことから、以前から社会見学などを通じて、バスについての関心が高かった。
・学校側から、公共交通出前教室についての問い合わせがあった。

学習内容の発展

「バス利用促進」ではなく「学校・教育サイト」からの要望がきっかけ！



・1年目から、複数回での実施要望があり、多面的な学習を期待されていた。
・2年目以降は、座学2回＋バスでのおでかけ1回＋「学習したことを基に考えたこと」の発表1回、の計4回の授業となり、段階的な学習へと発展していった。

年度	内容	時期
H29	第１回）八戸市のバスの現状と取組み内容／生活とバス 第２回）運転手さんのお話（南部バス運転手）／バスの乗り方・マナー	H29.9.11 H29.9.22
H30	第１回）八戸市のバスの現状と取組み内容／生活とバス 第２回）運転手さんのお話（南部バス運転手）／バスの乗り方・マナー 第３回）バスを使ったおでかけ 第４回）バスを応援する活動の提言（参加日に実施）	H30.10.5 H30.10.29 H30.11.14 H30.11.30
R1	第１回）八戸市のバスの現状と取組み内容／生活とバス 第２回）運転手さんのお話（南部バス運転手）／バスの乗り方・マナー 第３回）バスを使ったおでかけ 第４回）バスを応援する活動の提言（参加日に実施）	R1.9.18 R1.10.4 R1.11.11 R1.12.17

5

・図南小学校での取組みは、学校で作成する「総合つうしん」にも記載された。

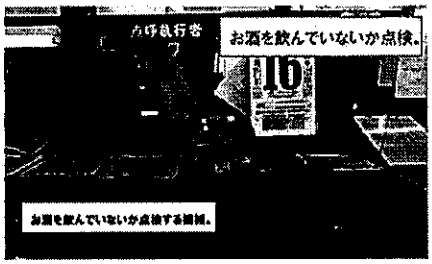
6

（具体的な学習内容の一例）

前回の勉強のまとめ

① 公共交通の種類は色々ある！
② 図南小学校の地区は路線バスでのお出かけも便利！
③ 公共交通（バスなど）の移動手段は私たちの生活に欠かせない！
④ 八戸のバス利用者はわずかに増えているがまだまだ利用者は少ない！
⑤ 八戸市はバスを利用してもらうための様々な活動をしている！

バスを運転する前に



A 1番 200円

八戸市内なら、
1回の乗車で運賃の最高は
300円！
更にラピアやまちから、五戸町や
三戸町までは最高500円！
とってもお得！！

乗っている間は…

● お年寄り、体の不自由な人、
妊婦さんや子供連れには席を譲ろう！

7

（先生・児童の反応）

※小学生向け公共交通出前教室実施支援業務（H30年度）報告書参照

・児童がバスででかけたという報告が増加。
・授業参観日に成果発表を行ったことで、保護者とバスを利用したという声も増加。
　➔出前教室の波及効果、特に**保護者への波及**という望ましい効果あり！
・「子どもたちに三年生の思い出を書かせたところ、バスの授業が楽しかったと書いている子がたくさんいた」（図南小）
　➔一過性に留まらず「確かな思い出＝学び」としての学習効果があった！
・実施が望まれる学年・科目について、3・5・6学年の総合的な学習、3学年の社会科と学年も科目も複数に及んでいる。

先生の反応	・バスがとても便利だとわかり、実際に利用するようになった（新井田小）	
（先生から見た）生徒の反応	・バスでかけたという児童からの報告が増えた（図南小） ・冬休みに親子でまちへ出かけた子もいた（新井田小）	
波及効果	・（授業参観日に出前教室に関する成果発表を行ったことから）保護者とバスを利用したという声が増えた（図南小）	
授業での活用可能性	・体験にまさるものはない。講座のあとに実際にバスに乗ることができるのぜひ（授業で）活用したい（新井田小）	
教育における公共交通の重要性	・車社会なので、地域活性化のためにも有意義だと感じた。身近にあるが乗ったことのない児童も多かったので、探究活動の題材としても良かった（図南小） ・子どもたちは便利な生活をしていて、一人でも生きていけるような自信をもっていると思います。そんな中、公共交通は、広く世の中を見る上でも、体験する上でもとても大切だと思う（新井田小） ・正しい乗り方やマナーを知ることはとても大事なことだと思う（西白山台小）	
望ましい学年・科目	・3学年の総合的な学習（図南小）	理由）内容、これから利用する可能性等を考え、適切だと感じた。
	・5、6学年の総合的な学習 ・2学年の生活科（新井田小）	理由）郷土愛の上でも、地域を知ることでも、必要な教育だと思う。学習したことをもとに、地域のことを自主的に調べられると思う。
	・3学年の社会科（西白山台小）	理由）公共施設等、市内の様子が教科書にでてくるのでちょうどよかった。

8

（児童・先生の反応）

※対象者を絞った各種モビリティ・マネジメント業務（H29年度）報告書参照

・出前教室を実施した学校の先生に参集いただき、意見交換を実施。

・社会科の学習でも「まちなかの学習」をした。そこでもバスを話題にした。総合学習で「地域を調べる」学習もあり、その一環でバスに乗ったり、鮫地区に出かけた。**それぞれの学習が繋がったので、やったかいがあった。**

・作文を書かせたところ、**「また乗ってみたい」という子供がほとんど**で、「バスで色々な所に行ける」「150円は安い」「遠くまで行ける」との感想があり、出前教室を**「やる」「やらない」では大きな違いがある**と思った。

・5年生の生徒でも、バスに乗ったことがなく、「降りる時どうする」「おばあさんいたらどうしたらいい」など**頭でわかっていても実際には出来ない。**バス停で待っているときに、**一般の人に迷惑をかけ叱られたりした。**頭でわかっていても、マナーなど教えてもらっていても出来なかった。**それも勉強になった。**バスを利用して学習に出かけることはとても必要だと思いました。

・バスに乗って新井田から櫛引や八戸駅、八食センターに行って、**バスに乗って移動して初めて「八戸が広い」ということを感じた様子**であった。いい勉強になった。

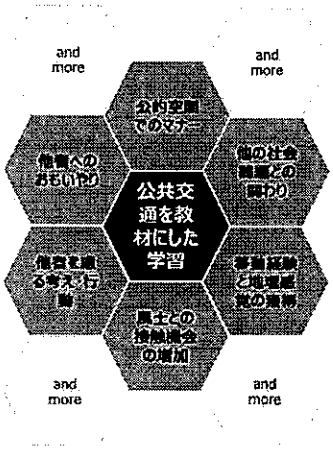
◆ （複数回の学びの実施、自学要素を加えることで）**思い出深い学び**に！
◆ **保護者への波及効果**も！
◆ **世の中を広い視野でみる**きっかけにも！
◆ 総合学習、社会科学習などの**分野横断的なつながり**を実感！
◆ **児童の主体性・自主性が育つ**きっかけとしても！
◆ （自動車移動では、実感しにくい）**地元・八戸の広さ**を実感！
◆ 地域を知る、**郷土愛の醸成のためにも、必要**な教育！！

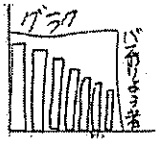
9

（3）MM教育を実施してきた中での“実感・気づき”

公共交通を教材とした出前教室を実施する中で、乗り方やマナーだけでなく、
多様な学習効果が得られることを実感！

※多様な教育的効果、学習効果は、他地域の事例・教育学的研究でも確認されています／参考：『モビリティ・マネジメント教育』





多様な学習効果が期待でき、かつ「市民の足／貴重な交通インフラ」を維持することにつながる
取り組みは、出前教室形式ではなく
学校の授業で、先生方によって継続的に行われること
で、より一層**生徒のためになり、今後の八戸の発展につながる**のではないか！

10

2．『現在地』の確認と本事業の目的・目標

現在地：これまでの実績と課題

・八戸市では、これまでも小学校における公共交通に関する出前教室の実績を多数有するだけでなく、いくつかの小学校においては継続的な、発展的な学習の場に進化している学校も存在している。

・児童の反応、先生方からの評価を踏まえれば、**公共交通を題材とした教育「MM教育」は、公共交通の利用促進、社会資本としての公共交通の維持だけでなく、八戸の発展・活性化につながる学びの場**になると思われる。

・MM教育については、H29年度に1度だけ、関係者（教諭・交通事業者・他利用促進団体）が意見交換をする機会があったが、その後の継続的な開催はできていない。

・そのため、**現場教諭からの目線、各学年・各学科との学習目標との合致、教材としての活用可能性の検討**などを、充分に精査できていなかった。

教育委員会との連携が必須！

本事業の目的・目標

◆ **教育委員会との連携を深めながら「MM教育・公共交通学習の意義」を共有するプラットフォームを構築する。**

◆ プラットフォームをベースとして**「八戸らしい授業プログラムの開発」**、およびその**授業実践をサポートする教材として「副読本**（既存のものを補完する別冊を予定）**」の作成**を行う。

11

3．事業概要

3つの事業を通じて、MM教育の進化、そして（事業終了後の）普及・拡大を目指した取り組みを行う。

① プラットフォームの構築

・関係機関におけるMM教育の意義の共有、進化を企図したプラットフォームを構築する。【検討委員会】

・具体の授業内容や副読本内容の検討の機動性を高めるために、教育委員会（指導主事）と研究授業担当教諭、交通政策担当部署、バス事業者らによるワーキンググループを設置する。　【ワーキンググループ】

構成団体		検討委員会	WG
学識経験者	八戸市地域公共交通会議アドバイザー	委員長	
	NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム	○	座長
小学校関係	八戸市教育委員会　総合教育センター	○	○
	社会科研究会担当教諭	○	○
交通事業者	八戸市交通部	○	○
	岩手県北自動車株式会社南部支社	○	○
アドバイザー	公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団	○	
行政（委託者）	八戸市都市整備部都市政策課	○	○
事務局（受託者）	特定非営利活動法人まちもびデザイン	○	○

12

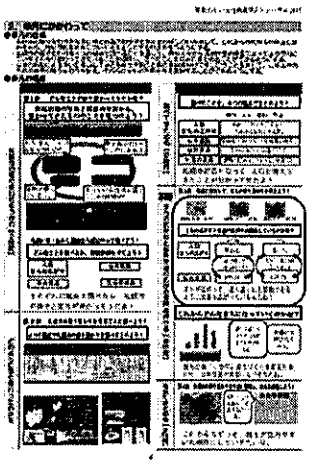
② 八戸らしいMM教育の研究と授業プログラムの作成

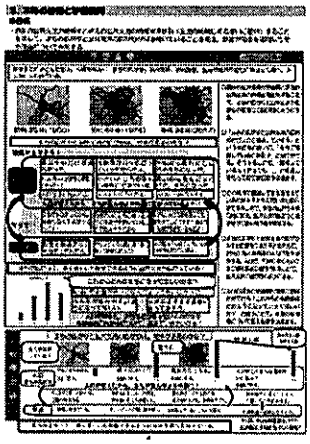
・八戸市教育委員会において現場教諭が主体となって実施している**「教科等研究委員制度／社会科部会」において、公共交通学習をテーマとして扱う。**令和2年度から2か年に渡り、2名の教諭がそれぞれ年に1回（計4回）の研究授業を行う。

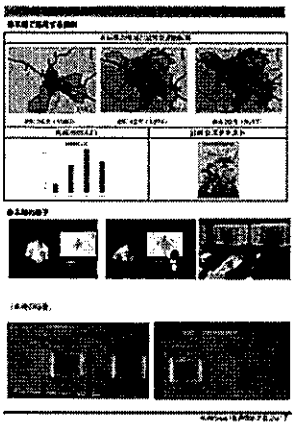
・これまでの実績、および他地域の事例も参考にしながら、**研究授業の組み立てと授業後のフィードバックを行い、その成果を踏まえた上で**「八戸らしいMM教育プログラム＝授業のひな型」を作成する。

・**『八戸の公共交通について何を学ぶのか／八戸の公共交通を通じて何を学んで欲しいのか』を整理・研究**し、公共交通がもつ多様な教材的価値の中から**『八戸らしいアプローチ、八戸らしい公共交通の取り扱い方＝八戸らしいMM教育』のあり方を見定める**

※札幌市HP「交通環境学習／学習プログラム／指導案」より







13

・本事業では「社会科」の枠組みでの検討を主とするが、公共交通を素材とした学習は多様な科目の学習目標に寄与することから、社会科に捉われない検討も**あわせて行う。**

科目	単元／視点	内容	公共交通を教材とした具体内容
社会科（小学校）	わたしたちのまち みんなのまち	身近な地域や市の地形、土地利用、公共施設などの様子	・学校最寄バス停位置の確認 ・最寄バス停からいける場所の確認 ・乗車体験での公共施設等見学
	住みよいくらしをつくる	地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動	・「生活の移動」を支えるバスの重要を学ぶ（生活インフラとしての役割）
	きょう土の発展	地域の発展に尽くした先人の具体的事例	・人々の移動を支えてきたバス会社・路線の歴史を学ぶ
道徳（小学校）	他の人とのかかわり	幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする／相手のことを思いやり、進んで親切にする	・バスを利用するときのマナーを学ぶ ・高齢者擬似体験
道徳（中学校）	自分とのかかわり	望ましい生活習慣を身につけ、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする	・健康と移動方法の関係を学ぶ ・自律心と移動方法の関係を学ぶ
総合的な学習の時間（小学校）	くらしと環境	自然環境と日常の暮らしの関係	・移動手段と環境問題の関わりを学ぶ
総合的な学習の時間（共通）	くらしとまち	生活環境、まちの構造と日常の暮らしの関係	・過度な自動車利用と公共交通の衰退、まちの郊外化の関係を学ぶ
中学生	（進路検討）	高校への通学方法を知る	・市内の高校への「公共交通で通学方法（路線・運賃・所要時間目安）」を通学カタログと地図帳で掲載

出典：弘前市地域公共交通会議資料

地理
くらし
歴史
マナー
健康
環境
まち

14

③ＭＭ教育を支える副読本の作成

・**八戸市内の学校教育カリキュラム**におけるバスや公共交通の取り扱いは、「３・４学年：住みよいくらし（社会科）」における「わたしたちの県」で「交通のひろがり」として、**県内の幹線道路網や県外との空路・航路等のつながりに触れられている程度**である。

・この他、6学年修学旅行の前準備とした公共交通体験、課外活動のための公共交通利用などがあるが、いずれにしても体系的に公共交通について知る、考える、学ぶための機会やツールは存在していない。

・加えて、「八戸らしい教育プログラム＝授業のひな型」の実施・普及を目指すには、**他の学校や教諭においてその意義や内容の理解を促すためにも、「意義を共有し、かつ授業内容がイメージできるツール」があることが望ましい。**

・そこで②の授業プログラムに応じた副読本を新たに作成（既存の副読本とは別冊）する。

▲札幌市の3年生社会科副読本（一部）　※札幌市ではこの副読本を活用するための指導案もある）

15

R3年度までの事業全体の流れ（スケジュール）

時期	研究授業&副読本	ワーキンググループ	検討委員会
R2年2月			・事業概要の確認 ・他地域事例の整理／先進事例の学習
3月		・八戸市及び新学習指導要領における社会科学習目標・内容等の整理	
5月	社会科部会担当教諭2名の決定		
7月		・研究授業内容の検討	
9月	★第1回研究授業		
10月	★第2回研究授業		
11月		・研究授業の成果と課題の整理	・研究授業の成果と課題のフィードバック方法 ・副読本トライアル版の内容検討
12月	（研究委員会発表会） ◆副読本トライアル版の作成		
R3年6月		・研究授業内容の検討 ・副読本トライアル版の精査	
8月	★第3回研究授業		
10月	★第4回研究授業		
11月	札幌公共交通学習フォーラム参加	・研究授業の成果と課題の整理 ・副読本の内容検討	
12月			・研究授業の成果と課題のフィードバック方法 ・副読本の内容検討
R4年1月	◆副読本作成		
2月	◆副読本作成 （研究委員会発表会）	・副読本の精査	
3月	◆副読本の製本・配布		・八戸らしい授業プログラム及び副読本の精査 ・事業終了後の展開、フォローについて

16

令和元年度第1回　八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会
令和２年２月１８日（火）

資料２

モビリティ・マネジメント教育の特徴と他地域事例

１．MM教育の一般的なねらい・理念の整理

そもそも、モビリティ・マネジメントとは…

『社会的ジレンマ』
短期的（とりあえず）、利己的に（自分にとって）メリットのある行動をとることにより
長期的（長い目でみて）、社会的（みんなの）メリットが低下してしまう　ような状況

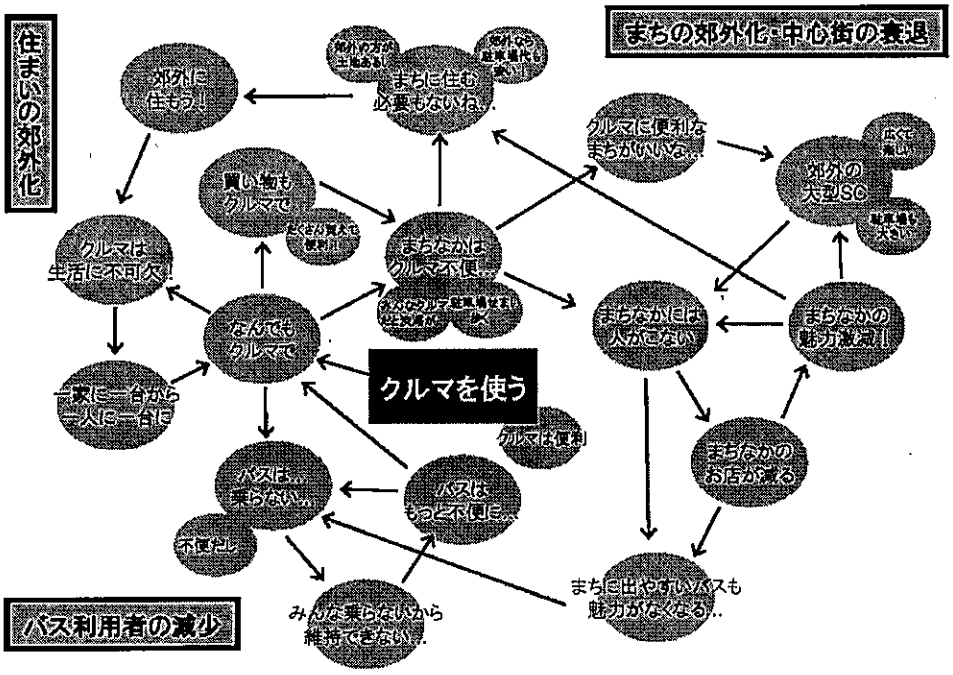
『いま・ここ』だけの利益／利便／快楽　を追及すると
結果的に、**「全員＝社会」が損** をして、
結果的に、**「自分＝個人」も損** をしてしまう。
例）　社会の「損」；渋滞、環境問題、路線バスの衰退、交通弱者が暮らしにくいまち
　　個人の「損」；渋滞による時間のロス、移動手段選択肢の減少

節度のある行動（協力行動）こそが
個人的にも、社会的にも求められている
（＝自分もみんなも幸せになる）

**ここを目指すのが
モビリティ・マネジメント**

2

（例：クルマとまちと暮らし）

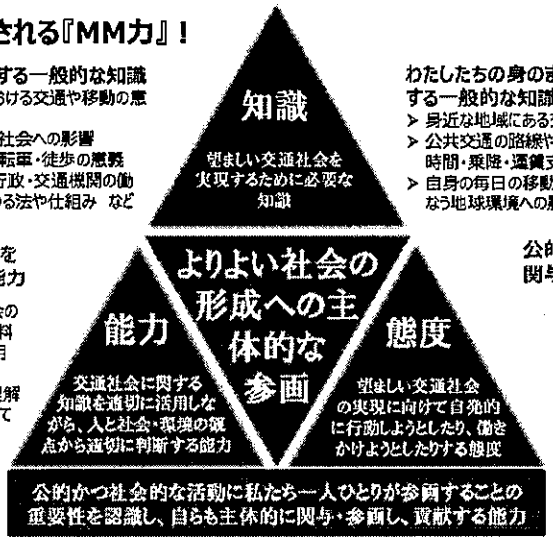


3

改めて、MM教育とは…

われわれ一人ひとりの移動手段や社会全体の交通流動を 「人や社会、環境にやさしい」 という観点から見直し、改善していくために自発的な行動を取れるような人間を育成することを目指した教育活動。交通環境学習。 ※出典『モビリティ・マネジメント教育』東洋館出版社

MM教育で育成される『MM力』！



交通社会に関する一般的な知識
- 生活と社会における交通や移動の意義や働き
- 自動車利用の社会への影響
- 公共交通や自転車・徒歩の意義
- 交通に係わる行政・交通機関の働き、交通に係わる法や仕組み など

わたしたちの身のまわりの交通に関する一般的な知識
- 身近な地域にある交通の様子
- 公共交通の路線や料金・時刻・所要時間・乗降・運賃支払い方法
- 自身の毎日の移動の特長やそれにともなう地球環境への影響 など

自分と交通社会の関係性を調べたり、検討したりする能力
- 交通社会や自分と交通社会のかかわりについて、必要な資料を収集・選択し、適切に活用する能力
- 自分の交通移動の特徴を理解し、その社会への影響について洞察・ 検討する能力

公的な社会活動に主体的に関与し、貢献しようとする態度
- 自分や身近な人々の移動が個人にも社会にも望ましい移動になるように自発的に行動しようとしたり、働きかけようとしたりする態度
- 望ましい交通システムの在り方について多角的に追及し考察しようとする態度
- 公共心、道徳心、シティズンシップ など

『モビリティ・マネジメント教育のすすめ』公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 より作成

4

★札幌市の事例は、新保委員の詳細な資料を参照

2．他地域の事例（実施内容と普及の状況）

（1）滋賀県の取組み

・若年層の意識変革を行うことで、周囲の成年層、高齢層にも効果が波及することを期待し、特に小学生を対象としたMM教育を実施。
・**「交通環境学習」の実施、「近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会」**での検討を行っている。

エコモ財団
自治体支援事業

① 交通環境学習の普及・検討研究会

・「交通素材が、学校教育の質的向上に資するものとなるように提供する」「学校・教師によるカリキュラムの検討、実施を支援する形を作る」「交通事業者を中心とした地域連携により推進する」ための組織（行政・交通事業者・有識者・教育関係者で構成／H29年度～）。

・**小学2年生から6年生までの継続的な学習機会を提供**することを目指して、**教材の作成やモデル授業、サポート体制の構築を検討中。**

・**地域性を活かした学び**の提供として、琵琶湖を活用した教材づくりを実施中。

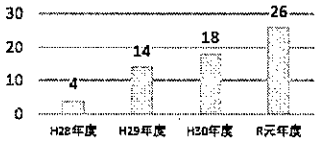
低学年	高学年
● 自動車の保有率が高い滋賀県で、自動車以外の乗り物（鉄道・バス）について学習する ● 自動車と公共交通（鉄道・バス）での移動の違いについて学習し、移動手段で公共交通を選択するきっかけをつくる ● バスの乗り方や乗車マナーを学習する	● 環境問題と自動車の関係について学習する ● 自動車と公共交通での移動の違いを、環境問題の観点から考える ● 地域社会における公共交通の役割を学習する ● 自動車と公共交通を上手に使い分ける生活を学ぶ ● バスの路線図や時刻表の見方とバスの乗り方や乗車マナーを学習する

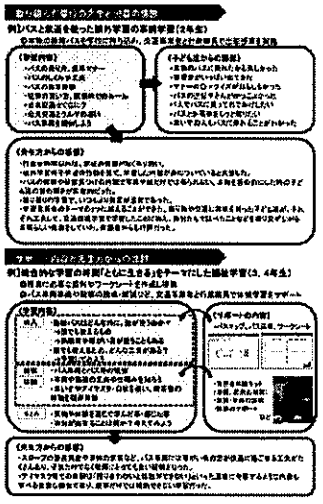
5

② 交通環境学習

・小学生等を対象
・基本プログラム：1コマ45分／公共交通や県単位の広域交通についての座学（20分）、バスの実車を用いた体験乗車（20分）
・学校の立地や学習状況、要望等により、コマ数も含め柔軟に内容を変更して授業を行っている。
・役割分担：テーマごとに**県交通戦略課員、市町交通担当部局職員、滋賀県バス協会事務局員、バス事業者従業員**で分担

実施校数の推移
（H28年度から事業開始）





6

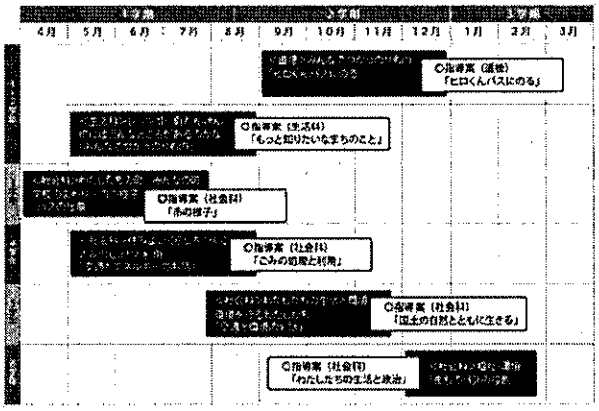
（2）帯広市の取組み

エコモ財団
自治体支援事業

・平成19年度から、環境教育を軸としながら、公共交通の出前教室を実施。
・エコモ財団の自治体支援事業を活用して、学校の先生が使える教材・指導案等を作成

帯広らしい交通環境学習プログラム

・プログラムのテーマは、身近な「クルマ」と「交通」。
・教材は**学習指導要領に沿う内容**となっている。
・生活科・社会科・総合・道徳、各教科の**「地域学習教材」としての観点**を採り入れて作成。



▲帯広市HP「帯広らしい交通環境学習」より

7

◆学年別の指導案

市HPからDL可

低学年（1・2学年）「ヒロくんバスにのる」

<狙い>道徳
初めてバスに乗るヒロくん。
公共の乗り物を安全に使えるように、自分と「みんな」のことを考えます。
1・2学年での実践を想定しています。
指導案ダウンロード（PDF：[illegible]KB）

低学年（1・2学年）「まちたんけん・みんなでつかうのりもの」

<狙い>生活
身近のまちを走るバスは、いろいろな人が使える乗り物です。
自分地域を安全に正しく活用できるようになる生活科での実践です。
指導案ダウンロード（PDF：[illegible]KB）

3学年「バスの仕事」

<狙い>社会
身のまわりにはなぜ「のりば」があるのでしょう？
地図の見方やバスと街的様の違いから、
「みんなで使う乗り物」の役割を考えます。
「バスの仕事」の写真集なども掲載。
指導案ダウンロード（PDF：[illegible]KB）

4学年「乗り物とエネルギーの話」

<狙い>社会
昔にくらべると便利になった「くらし」。
資源をたくさん使って、早く目的地に着くことができるクルマには、
「代償」があります。
地球ならではの「再生エネルギー」を通じて、
暮らしとクルマのつながりを考えます。
指導案ダウンロード（PDF：[illegible]KB）

5学年「交通と環境の話」

<狙い>社会
「地球温暖化」と「クルマ」には深い関係があります。
「温暖化のしくみとクルマ」の関係から、
よりよいくらしとクルマの使い方を考えます。
指導案ダウンロード（PDF：[illegible]KB）

6学年「まちとバスの役割」

<狙い>社会／総合
もし、町からバスがなくなったら？
クルマがあるから、困らない？
バスの役割、環境面でのメリットを通じて、
まちと「公共交通」のようすを考えます。
指導案ダウンロード（PDF：[illegible]KB）

指導案（4学年） 社会科

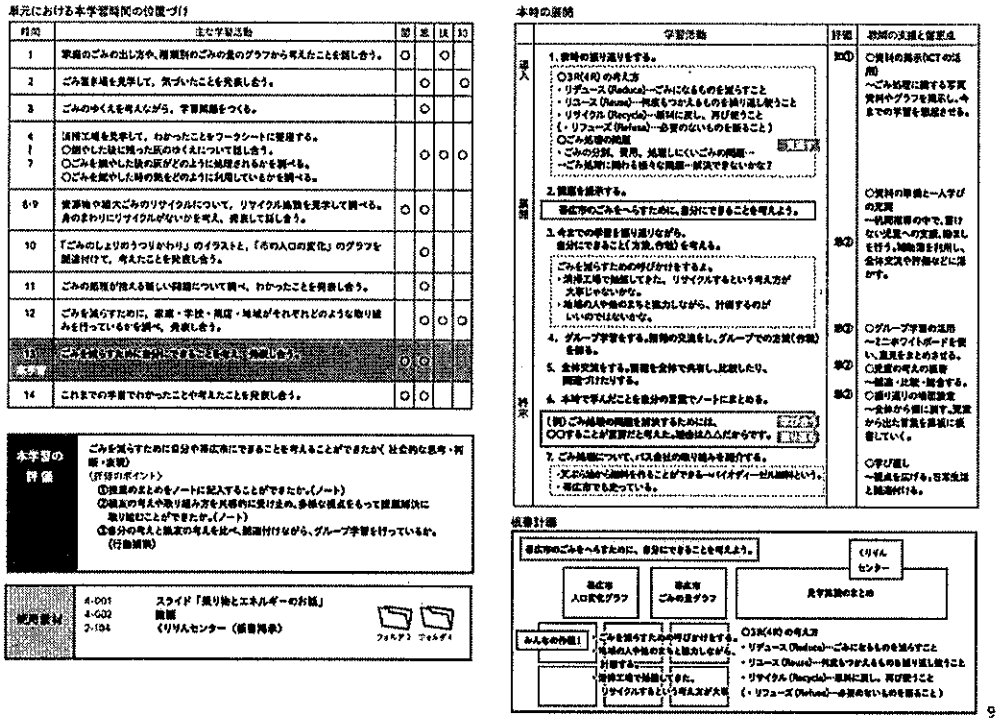
学習名：**ごみの処理と利用**

目標	<教師の目標> ごみの処理や利用にかかわる対策や事業に関心をもち、ごみの処理や利用と自分たちの生活や産業が深くかかわっていること、これらにかかわる人や事業が相互に協力が図られ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解するとともに、地域社会の一員としてごみの減量やリサイクルなど自分ができることを考え、進んで協力しようとする。 <本時の目標> ごみを減らすために自分や帯広市にできることを考える。 （社会的な思考・判断・表現）
概要	<教師の概要> ごみの処理や利用の活動から学習問題を見いだし、施設・設備を調査・見学したり、資料を活用したりして調べたことをノートや作品などにまとめることを通して、その対策や事業が地域の人々の健康の維持・向上に役立っていることを自分たちの生活と関連づけて考え、適切に表現できるようにする。 <本時の概要> 単元をつかむ段階で「分別して出された、しゅう集されたごみは、どのようにしてしょりされるのだろう」という学習課題を設定し、問題解決のための見学学習や調べ学習、そして、資料の読み取りを行ってきた。本時の学習は今までの授業で得た知識や情報をもとに、「ごみの処理」について自分なりの考えをもつ場面となっている。グループ学習のなかでは、「仮説の考えを聞き」「話し合いながら」「信頼の修正や書き込み」という時間を設定した。一人等びの充実はもちろんのことではあるが、仮説の考えと自分の考えを比べることで、見方や考え方が広がり、より学びが深まることを期待している。

●単元全体の評価

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
①ごみの処理にかかわる対策や事業に関心をもち、意欽的に調べている。	①ごみの処理にかかわる対策や事業について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。	①調べたことをノートや作品などにまとめている。	①ごみの処理と自分たちの生活や産業とのかかわりを理解している。
②地域社会の一員として、ごみの減量や資源の再利用などの取り組みに協力しようとしている。	②ごみの処理にかかわる対策や事業が、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを自分たちの生活と関連づけて考え、適切に表現している。	②施設・設備などを観察に基づいて見学・調査聞り調査を行ったり、地域や役所などの資料を活用したりして、ごみの処理にかかわる対策や事業について適切に読み取っている。	②ごみの処理にかかわる対策や事業は相互に協力が図られ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。
行動観察・記述分析	発言・記述分析	発言・記述分析	発言・記述分析

8



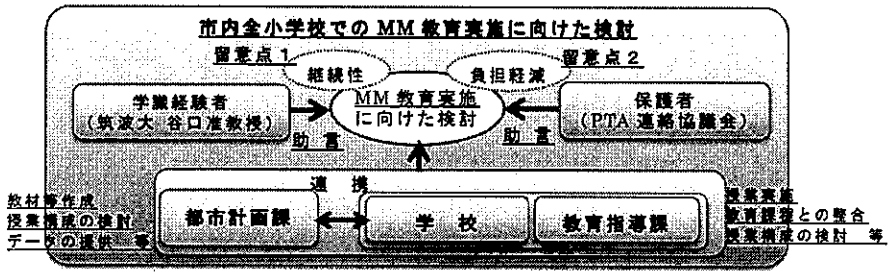
（3）藤沢市の取組み

・「藤沢市交通マスタープラン」において、自動車から環境負荷の小さな交通への利用転換を促すために学校、市民、企業に向けたMMの推進を掲げられている。
・特に子ども達を対象とした学校における MM は、大人の交通行動の転換を期待するよりもはるかに効果的だ、という認識の下、環境問題を学習し始める小学生を対象とした MM 教育を検討・実施。

MM教育検討会

エコ財団 自治体支援事業

・モデル校で実施した MM 教育検討授業を踏まえ、藤沢市にふさわしい MM 教育の進め方や教材等を検討。
・構成委員：学識経験者、PTA 連絡協議会委員、小学校長会副会長、小学校教育研究会社会科部顧問、モデル校校長、教育指導課長、都市計画課長



▲「藤沢市モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）」の導入について／藤沢市資料 より

10

◆藤沢市のMM教育の「６つのプロセス」

プロセスに沿った学習を進めていくことで学習の深度化が進み、全てのプロセスを経ると目的が達成できる仕組み

- プロセス１　公共交通の知識を学習する
- プロセス２　移動ルートを調べ利用する（計画・実践）
- プロセス３　移動が及ぼす効果・影響を学習する
- プロセス４　クルマと公共交通の対比を学習する
- プロセス５　設定した状況下での移動計画（移動プラン）を学習する
- プロセス６　選択した移動（計画）を評価・共有する

学習の深度化

「子ども達のめざす姿」が達成されます

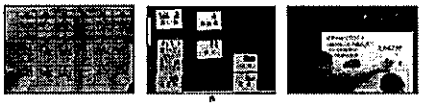
◆多様な実施例

②歩くことと健康の関係を知る取組み

【授業概要】
・万歩計を使用し、児童が日常の生活でどのくらい歩いているかを学習します。
・歩数と健康との関係を学習し、健康のためにどのくらい歩く必要があるか、公共交通を使うとどのくらい歩くのか、を学習します。

③環境にやさしい移動方法を考える

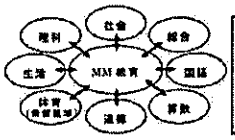
【授業概要】
・公共交通やクルマを使うと、どのくらいの時間やお金がかかるのか、また二酸化炭素をどのぐらい出すのかを知り、時と場合に応じて、どのような移動手段がよいのか、環境にやさしい移動手段はなにか、を学習します。



◆MM教育の特徴の整理

特徴２：教育課程と連携したMM教育

様々な教育課程と連携が可能なため、従来カリキュラムを大幅に変更する必要はありません。



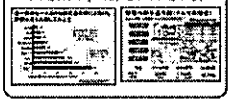
（例）
公共交通の学習をする　→　【社会】
旅行に行くなら「公共交通」か「クルマ」かを題材としたディベート　→　【国語】
歩くことと健康の関係を知る
→　【体育（保健領域）】
環境にやさしい移動方法を考える　→　【理科】
校外学習の行き方を学習する
→　【総合的な学習の時間】

特徴３：児童の公共交通の利用状況を踏まえたMM教育

→地域特性等から児童の公共交通の利用状況を考慮した授業です。

<授業の実施例>

公共交通を利用する機会が多い場合…
→公共交通利用の実践、それによる手段間での消費、CO_2の比較をメインとする。

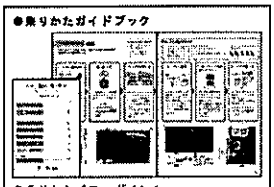


公共交通を利用する機会が少ない場合…
→公共交通の使い方の知識習得、公共交通利用の実践をメインとする。

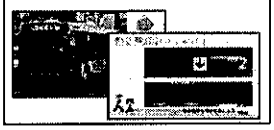
◆豊富な授業教材

学校PCでDL可
実施事例集も配布

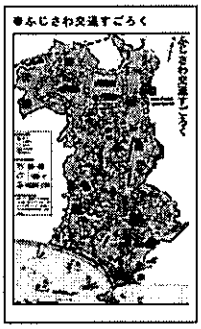
●乗りかたガイドブック



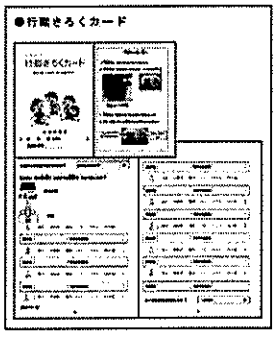
●乗りかたパワーポイント



●ふじさわ交通すごろく



●行動さろくカード



●ふじさわ公共交通まっぷ

◆役割分担の明確化

① 先生がMM教育を行う。しっかりとした位置付けがある。
② 授業を行った先生の意見を反映し、進め方や教材等の改善を図る。
③ 進め方や教材は適宜更新を行う。
④ 先生がMM教育に関する最新の情報を得る機会がある。

これらのことを踏まえ、本格実施時の役割分担を次のとおりとしています。

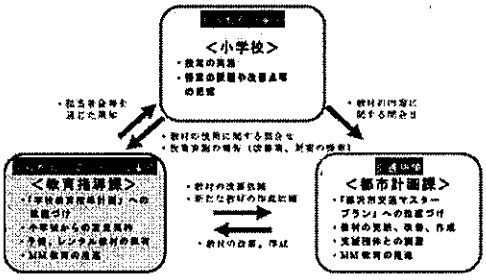


図　MM教育の役割分担

12

（新保委員資料）

資料３

札幌におけるMM教育

2020年（令和2年）2月18日
第1回八戸らしいモビリティ・マネジメント教育検討委員会
NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム
理事長　新保　元康

1

自己紹介

新保元康（しんぼ もとやす）

【現職】
- 一般社団法人北海道開発技術センター（dec）
  地域政策研究所　参事
- NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム　理事長

【出身など】
- 昭和33(1958)年　小樽市生まれ
- 小樽潮陵高等学校　北海道教育大学札幌分校卒

【前職など　2019年3月まで】
- 札幌市立屯田小学校長（定年退職）
- 北海道社会科教育連盟　札幌市社会科教育連盟（委員長）

【文部科学省・道教委関係他】
- 札幌市の交通環境学習PJ　座長　アドバイザー
- （文科）次世代学校支援モデル構築事業推進（2017～）
- （文科）統合型校務支援システム導入実証研事業推進委員（2018～）
- （文科）ICT活用教育アドバイザー（2019～）
- （道教委）学校力向上に関する総合実践事業アドバイザー（2019～）
- NPO法人全国初等教育研究会（JEES）フェロー

2

小学校における札幌らしい交通環境学習推進事業概要

札幌市のMM教育

1　目的

私たち一人ひとりの移動手段や社会全体の交通を「人や社会、環境にやさしい」という観点から見直し、改善していくために自発的な行動を取れるような人間を育てる

2　位置付け

（1）　札幌市まちづくり戦略ビジョン

自家用車から公共交通への利用転換を促進するため、学校や地域などで、公共交通について学ぶ機会を設けることなどにより、「自動車の過度な利用を控え、公共交通を皆で支える」という市民の意識醸成を図る。

（2）　札幌市総合交通計画

モビリティ・マネジメントの推進

（3）札幌らしい特色ある学校教育「雪」「環境」「読書」

札幌市のMM教育

事業推進の経過

（1）　平成 23～25 年度

「札幌らしい交通環境学習検討委員会」

「小学校教員で構成するワーキンググループ」

MLを使った情報交換・授業造り

※公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団のご支援

（2）　平成 26 年度～

「札幌らしい交通環境学習プロジェクト」

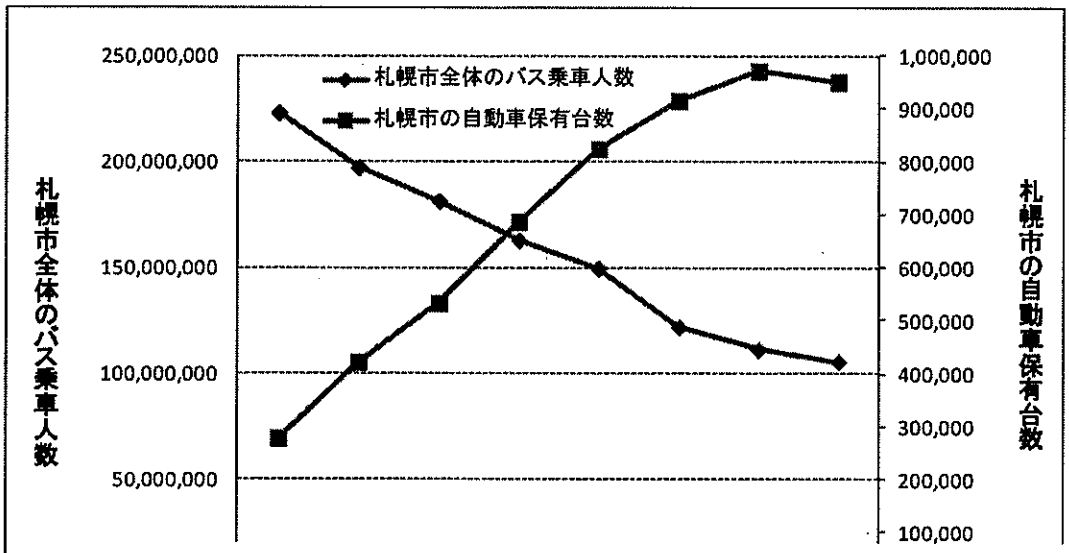
市内小学校で交通環境学習が広く実践されることを目指して、取組を継続

※札幌市の自主事業

※2019年度は、（1）（2）合わせて8年目

背景

札幌市のバス乗車人数と自動車保有台数の推移

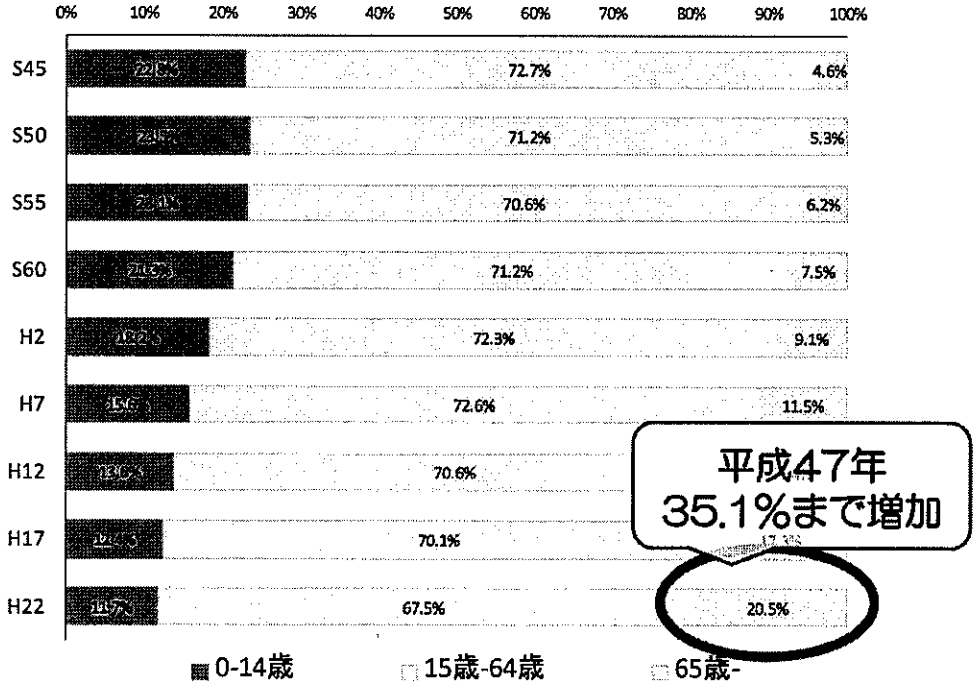


過度な自動車依存…

5

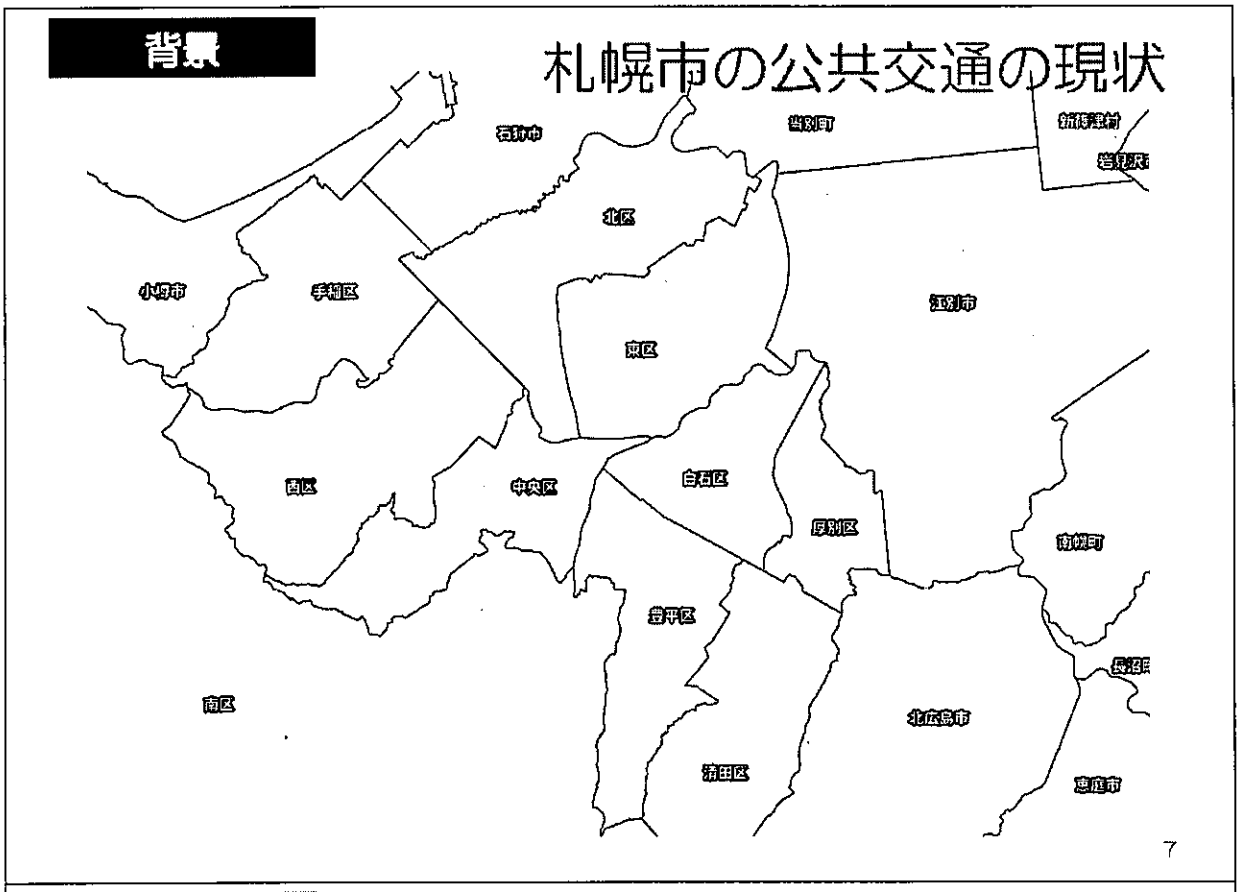
背景

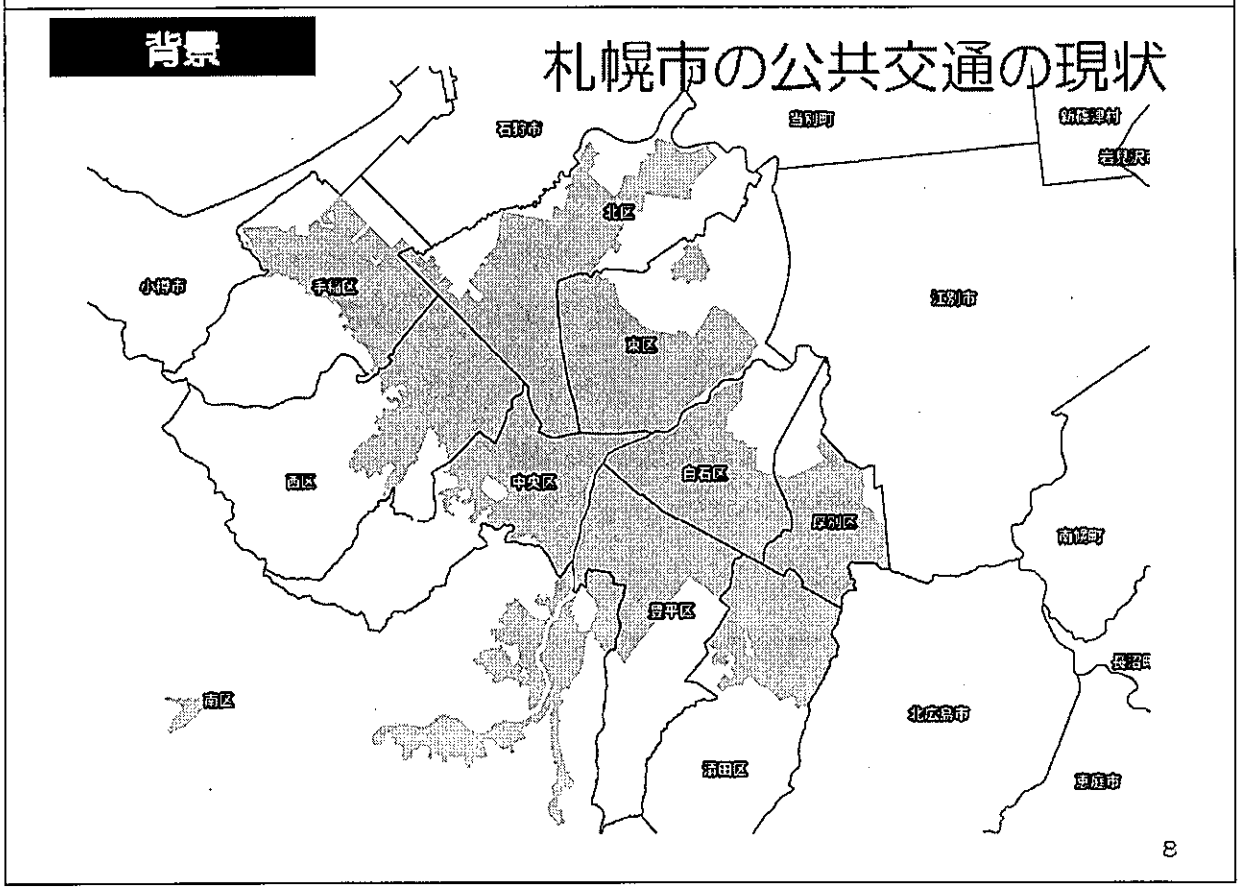
札幌市の人口構成の推移

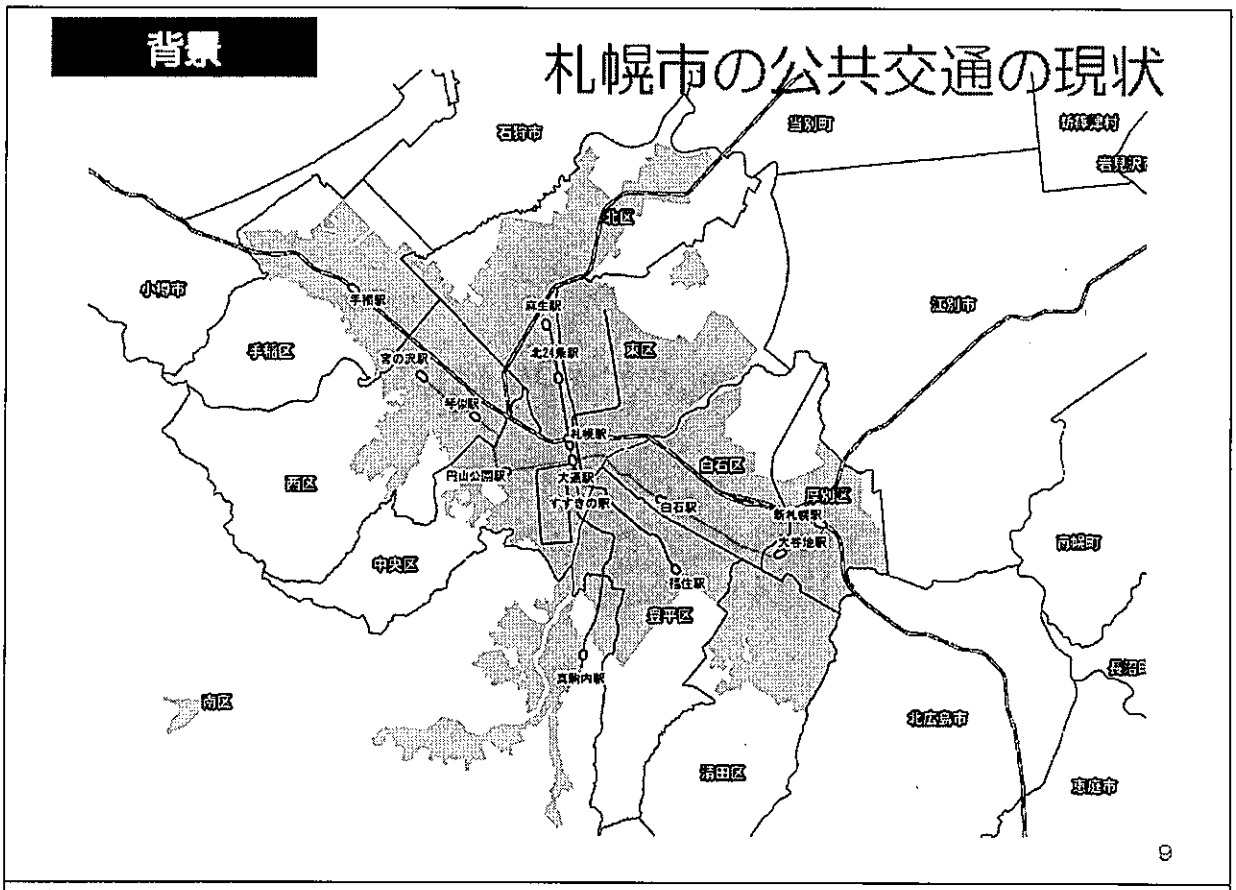


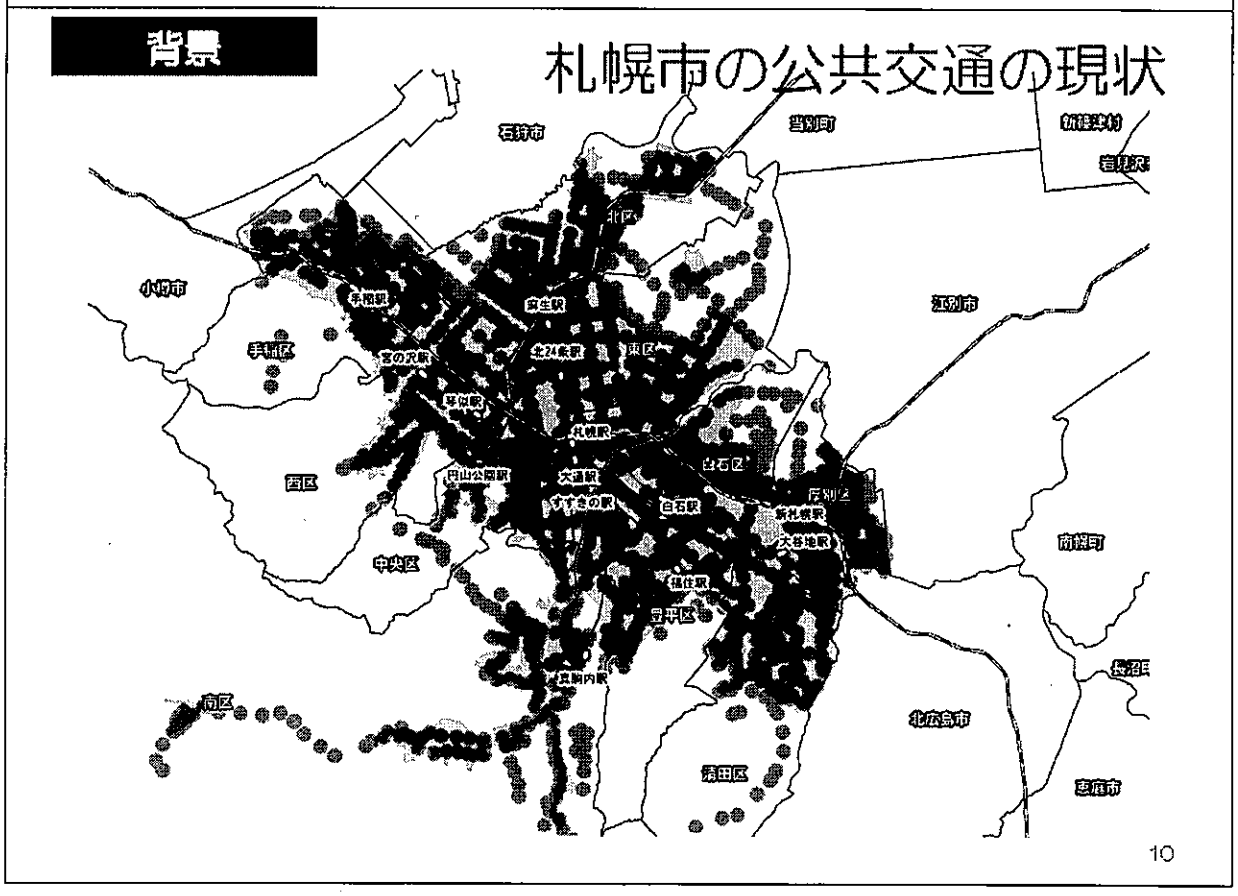
平成47年
35.1%まで増加

6


背景
札幌市の公共交通の現状
石狩市
当別町
新篠津村
岩見沢市
北区
小樽市
手稲区
江別市
東区
西区
中央区
白石区
厚別区
南幌町
豊平区
長沼町
南区
北広島市
清田区
恵庭市
7

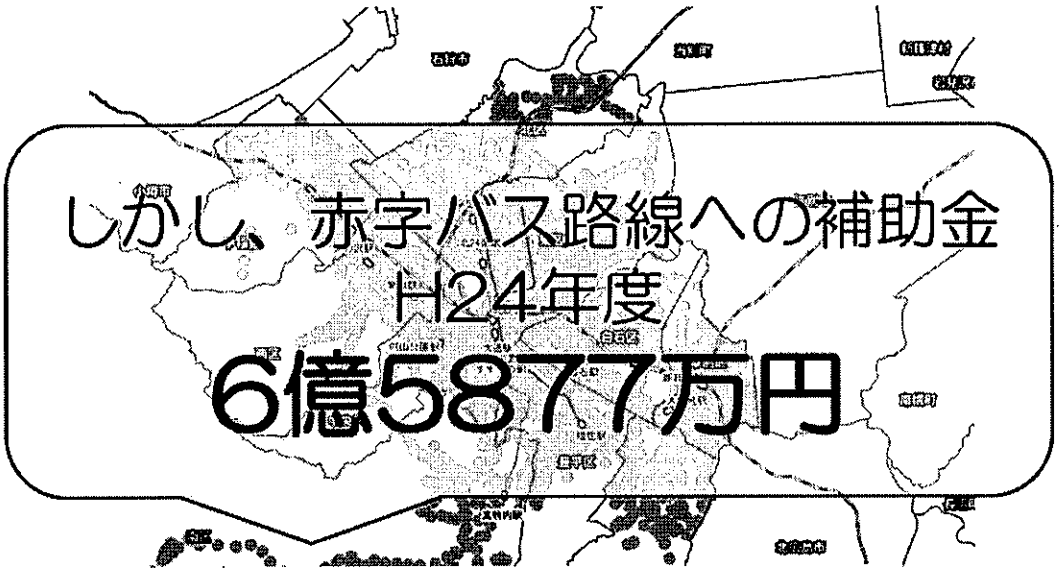

背景
札幌市の公共交通の現状
石狩市
当別町
新篠津村
岩見沢市
北区
小樽市
手稲区
江別市
東区
西区
中央区
白石区
厚別区
南幌町
豊平区
長沼町
南区
北広島市
清田区
恵庭市
8


背景
札幌市の公共交通の現状
石狩市
当別町
新篠津村
岩見沢市
北区
小樽市
手稲区
麻生駅
北24条駅
東区
宮の沢駅
琴似駅
札幌駅
白石区
西区
円山公園駅
大通駅
すすきの駅
白石駅
厚別区
新札幌駅
大谷地駅
中央区
福住駅
豊平区
真駒内駅
南区
江別市
南幌町
長沼町
北広島市
清田区
恵庭市
9


背景
札幌市の公共交通の現状
石狩市
当別町
新篠津村
岩見沢市
北区
小樽市
手稲区
麻生駅
北24条駅
東区
宮の沢駅
琴似駅
札幌駅
白石区
西区
円山公園駅
大通駅
すすきの駅
白石駅
厚別区
新札幌駅
大谷地駅
中央区
福住駅
豊平区
真駒内駅
南区
江別市
南幌町
長沼町
北広島市
清田区
恵庭市
10

背景

今は、どこでも行ける！



営々と築き上げた市民の財産

11

背景

今も未来もどこでも行けるために

子供のうちから公共交通への関心を！

12

しかし…

13

～壁～

教科書にない学習は
実施してもらえない

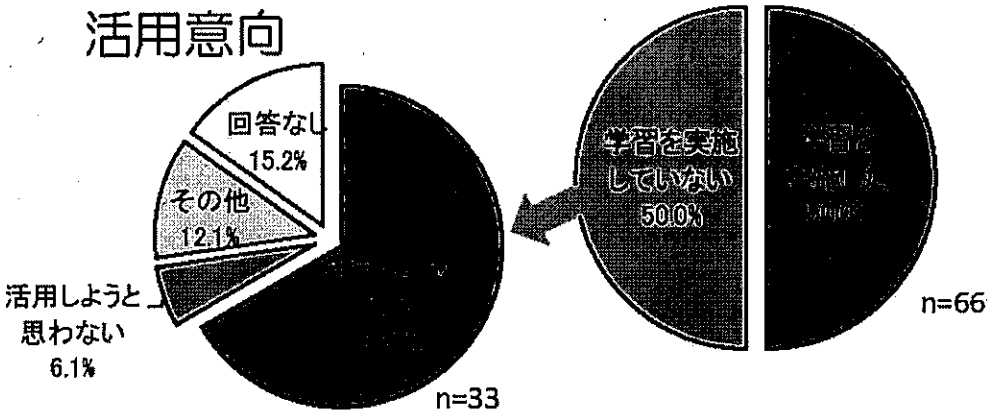
※学校に押し寄せる「○○学習」
中には、副読本配布して終わりの場合も…

14

札幌では75%が実施

■副読本使用した学習
（H28年7月現在）

■今後の副読本の活用意向



着実に浸透中

JCOMM賞　2回受賞

JAPANESE CONFERENCE ON MOBILITY MANAGEMENT AWARD 2014

JCOMM AWARD

JCOMM賞
JCOMMマネジメント賞
The JCOMM Management Award 2014

事業名　小学校における札幌らしい交通環境学習推進事業

札幌らしい交通環境学習検討委員会 殿
札幌市市民まちづくり局総合交通計画部都市交通課 殿
一般社団法人北海道開発技術センター 殿
株式会社アドバコム 殿
対象者　公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 殿

2014年　マネジメント賞
2018年　デザイン賞

16

札幌市のMM教育の特色

1）学習指導要領に準拠した授業・教材開発
2）1年～6年全学年での授業開発
（一般化できる学年を探る、教材の検証）
3）教師が主体となった授業実施
4）一般教師をサポートするシステム
（副読本、教師用指導書、指導案、WEB…）
5）札幌市の標準カリキュラムへの搭載
（H26～「教育課程編成の手引」3年に搭載）
6）専門家・関係団体との強力な連携

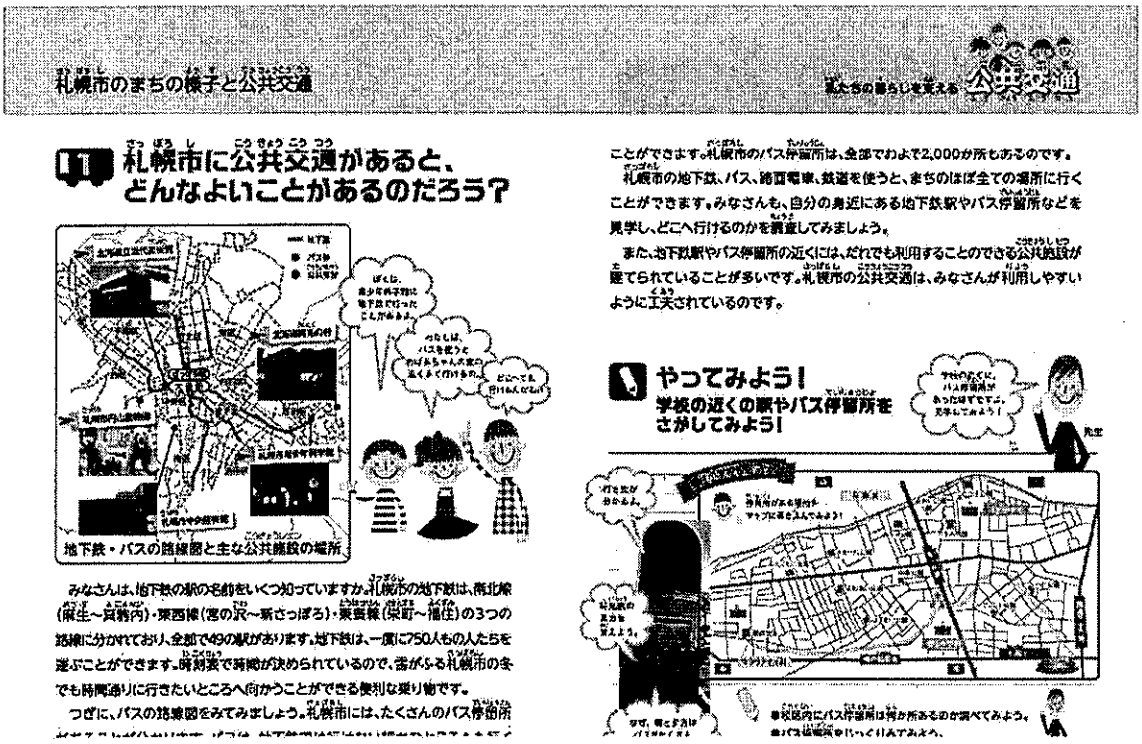
全教室で行われることを目指す！

学習指導要領＋札幌市標準カリキュラム＋指導を支援する教材の提供

18

充実の副読本　H26年10月～

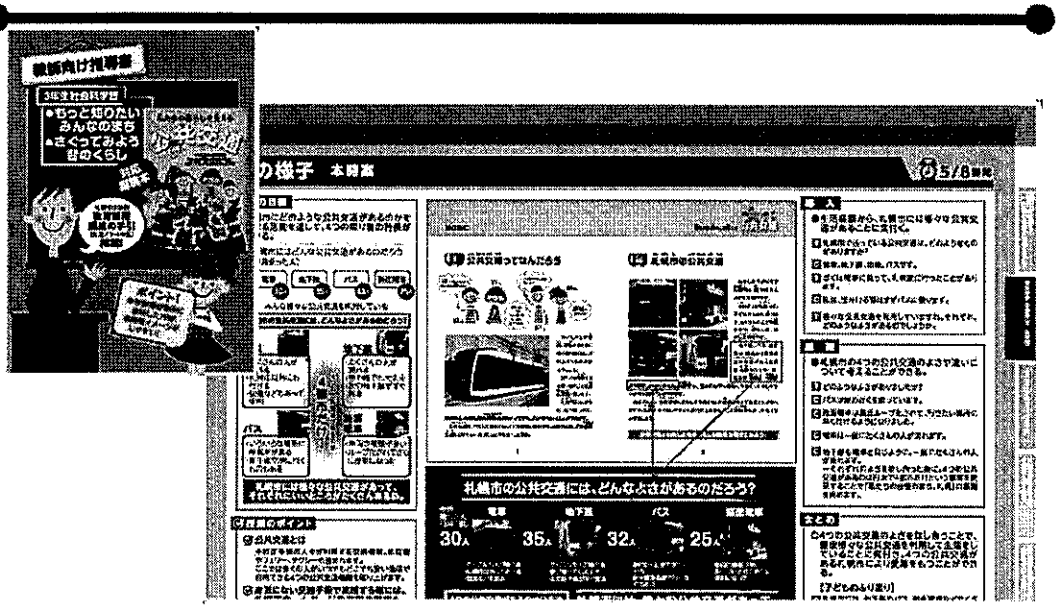
19



【テキスト：教師】＋【構成：事務局】

20

教諭向け指導書も配布



板書・発問の例も示す

21

WEB上で指導案提供

社会科

学年	単元名	指導案
3年生	もっと知りたい　みんなのまち	PDF ダウンロード(PDF:251KB)
3年生	わたしたちの市のようす	PDF ダウンロード(PDF:594KB)
3年生	昔の道具とくらし	PDF ダウンロード(PDF:923KB)
5年生	くらしを支える情報	PDF ダウンロード(PDF:396KB)
6年生	暮らしの中の政治(1)	PDF ダウンロード(PDF:954KB)
6年生	暮らしの中の政治(2)	PDF ダウンロード(PDF:496KB)
6年生	暮らしの中の政治(3)	PDF ダウンロード(PDF:329KB)

総合的な学習の時間

学年	単元名	指導案

市役所HPで公開

4年生	わたしたちのくらしと公共交通	PDF ダウンロード(PDF:357KB)

22

札幌らしい交通環境学習　指導案［社会科01］

札幌らしい交通環境学習とは、「MaaS社会」に着目し、「交通」の中に存在する「社会的ジレンマ問題」を通じ、広く、環境意識や公共の精神を涵養することを目的としています。初等教育における学習材として提案することが、これまでの研究多角的に明らかとなっています。

■実施例

■実施校 札幌市立中田小学校　■実施学級 6年1組（男：19、女：17　計36名）

■実施日 2012年11月27日（火）　6校時　■指導者 西藤　誠一

■教材/単元名 社会「暮らしの中の政治～身近な暮らしと政治～」

［指導計画］

1 教材にかかわって

①学習指導要領の位置づけ

［小学校学習指導要領解説　社会編］

●目標と内容（2）

ア　家庭生活には地方公共団体や国の役割が関係していること。

●内容の取扱い（2）

イ　安全などの観点から道路の整備、警察や消防、税金と利用者負担の区別等関係諸機関、住民の共通参画、地域の安全などについても扱うようにすること。

「税金の役割」については、国や県、市によって行われている社会保障、災害復旧の取組、地域の開発などに必要な費用は税金によってまかなわれていること、それらは国民によって納められていることなどを理解し、税金が大切な役割を果たしていることを考えることができるようにする。（中略）国民の義務については、納税の義務を取り上げ、税金が国民生活の向上と安定に使われていることを理解できるようにする必要がある。

②モビリティ・マネジメント教育の視点から

バスや鉄道などの公共交通機関は、車を運転できない子どもや高齢者にとって必要不可欠な移動手段である。特に札幌では冬期の厳寒時に公共交通機関が大きな役割を果たしている。

重要な役割があるはずの公共交通機関であるが、近年のモータリゼーションの影響で利用者は減少の一途をたどっている。その中でもバス利用者数の減少率は他の公共交通機関と比較しても大きい。現在、税金で赤字を補填しているからバス路線が維持できている。

このままの状況では将来的に現在と同じバス路線を維持できないのは明らかである。これは、子どもや高齢者だけの問題ではない。将来、自分が高齢者になった時、公共交通機関が無くなっている可能性がある。

誰もが札幌市民一人ひとりなのである。

そ　こで、赤字のバス路線に税金を補填している事例を取り上げ、その必要を明らかにする。すると、子どもは公共交通機関の重要性を改めて見出すことができる。バスという公共交通機関を取り扱うことで、税金が国民生活の向上と安定に使われていることを理解することができるのである

③教材観の活用

本教材は「税金につい
るのか」をおさえそ
ることを学び、税金

2 単元にかかわって

●単元の目標

・日常生活における政治の働きと公共に関心をもち、協力的に調べている。

・社会は国民生活の安定と向上を図るために人が協働きをしていることを考え、適切に表現している。

・国民生活と地方公共団体や国が政治とのかかわりについて調べたり、資料を活用して調べている。

・国民生活には、地方公共団体や国の役割の大きさが関係していることを理解している。

●単元の概要

なぜ宿泊者税では新BOPの制度を始めたのだろう

宿泊者税の使われ方・使い方について検討

宿泊者税の使われ方・使い方について検討

宿泊者税の使い方を実現するには誰が、どのように関わるのかを考える

宿泊者税の使い方を実現するには誰が、どのように関わるのかを考える

住民や議員はどのようなはたらきをしているのだろう

●計画案を検討

●予算案を検討

・ゴミ処理・防災・交通・福祉・財政

「それは本当に必要なの？」

「それは本当に安全なの？」

議員は、住民の生活にかかわることを話し合い、検討して議決している。

新BOPはどのようにして実現したのだろう

住民の要望

区役所
・計画案をつくる
・予算案をつくる

区議会
・計画案を議決
・予算案を議決

計画の決定

住民の願いから、計画案や予算案ができ、議会で議決され実現する

住民の積極的な参加が大切

●国分寺議会

・住と公共が協力を守る政策を一緒に考えて

税金はどのように納められ、どのように使われているのだろう

所得税・法人税・消費税・住民税・固定資産税

納める

・公共施設・安全で健康な暮らし

・平等に税金を受けられるように

なぜ札幌市は、利用者ウンぬい赤字路線に税金を投入するのか

札幌市
・移動手段の確保
・暮らしやすいまちづくり

市民
・生活の不便
・富山市の移動手段が良い

2000万円も使われるのは不公平？

貧しもがどこかで税金の恩恵を受けている

「暮らしやすい社会を

オープンな研究

23

26回の研究授業！2020年2月18日現在

授業から作り、授業で検証

24

問する。

○調べて分かったことを表にまとめることで、場所によって違いがあることを捉える。

○札幌市の公共施設が地下鉄沿線に多いことから、公共施設の働きと公共交通機関のよさを関連付けて考える。

公共施設は、どうして地下鉄の近くに多いのかな。

いつでも	だれでも
・雨や雪の日でも ・数分間隔で	・いろいろな利用客 ・一度に多くの人を

・地下鉄やバスなどの公共交通機関を使えば、札幌

育の指導展開

資「私たちのくらしを

通」（市民まちづく

資「もしもで考える地

（札幌市交通局）

HP 交通環境学習 http

sapporo.jp/sogokotsu

見札幌市役所

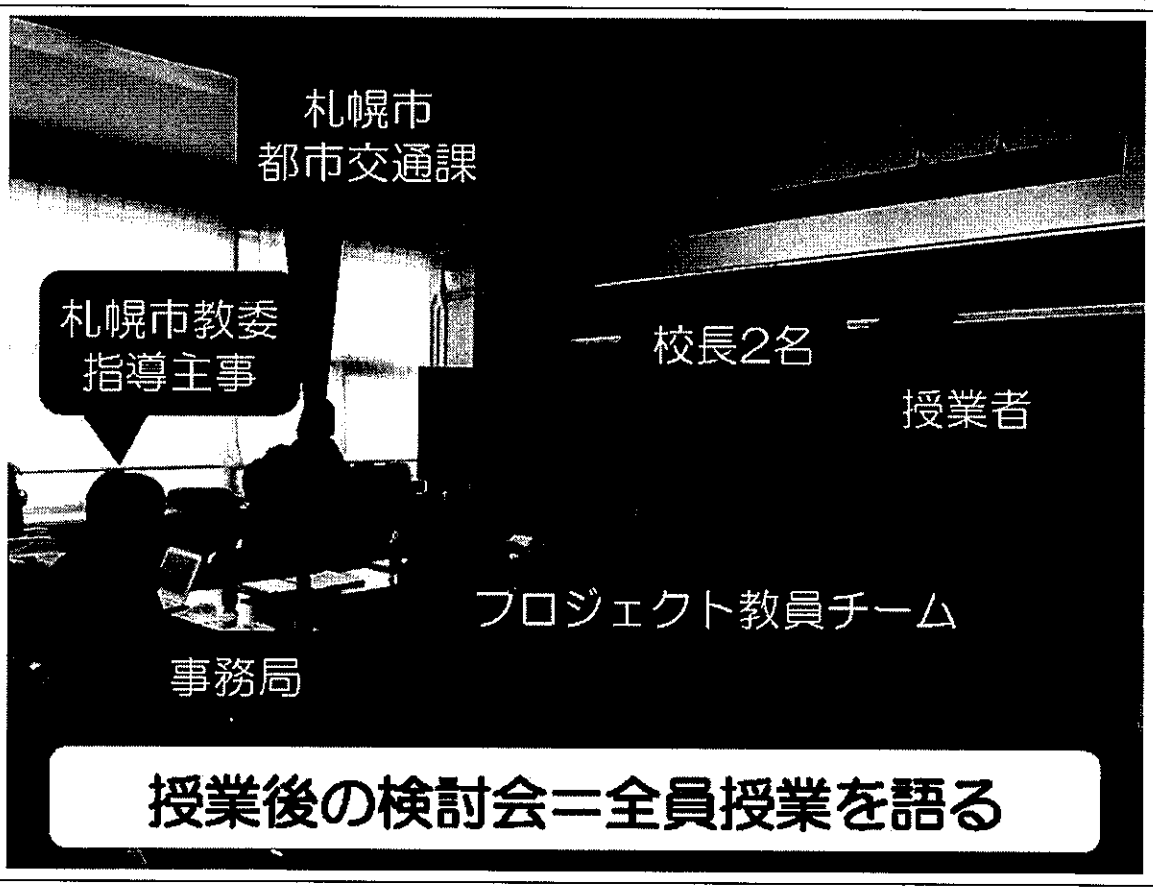
・1階に島義勇の銅像

知 発言や

から

よ

この授業を原型にして
札幌市カリキュラムへ



授業後の検討会＝全員授業を語る

まとめ

専門家との検討

副読本・指導書

授業

WEBでの情報提供

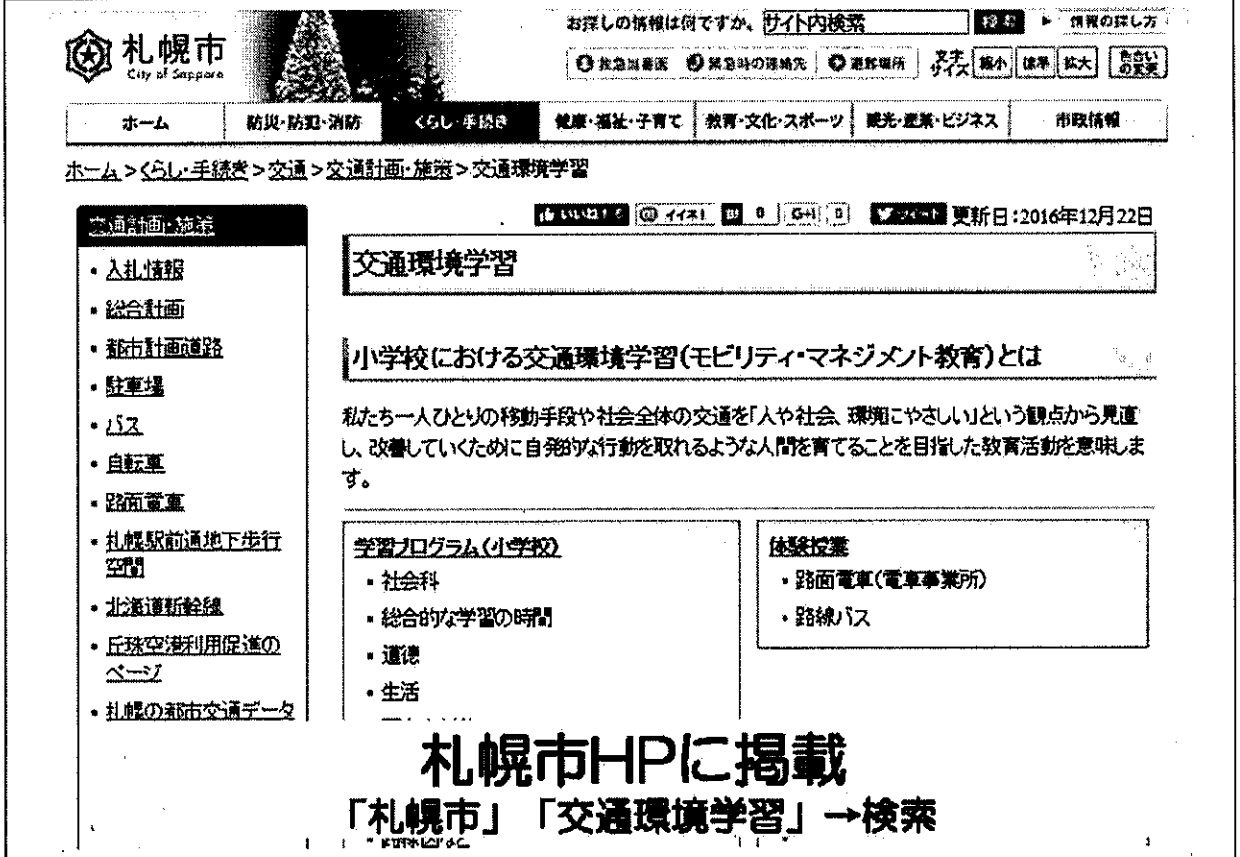
研修会開催

確かで、誰でもできる交通環境学習

札幌市の標準カリキュラムに搭載

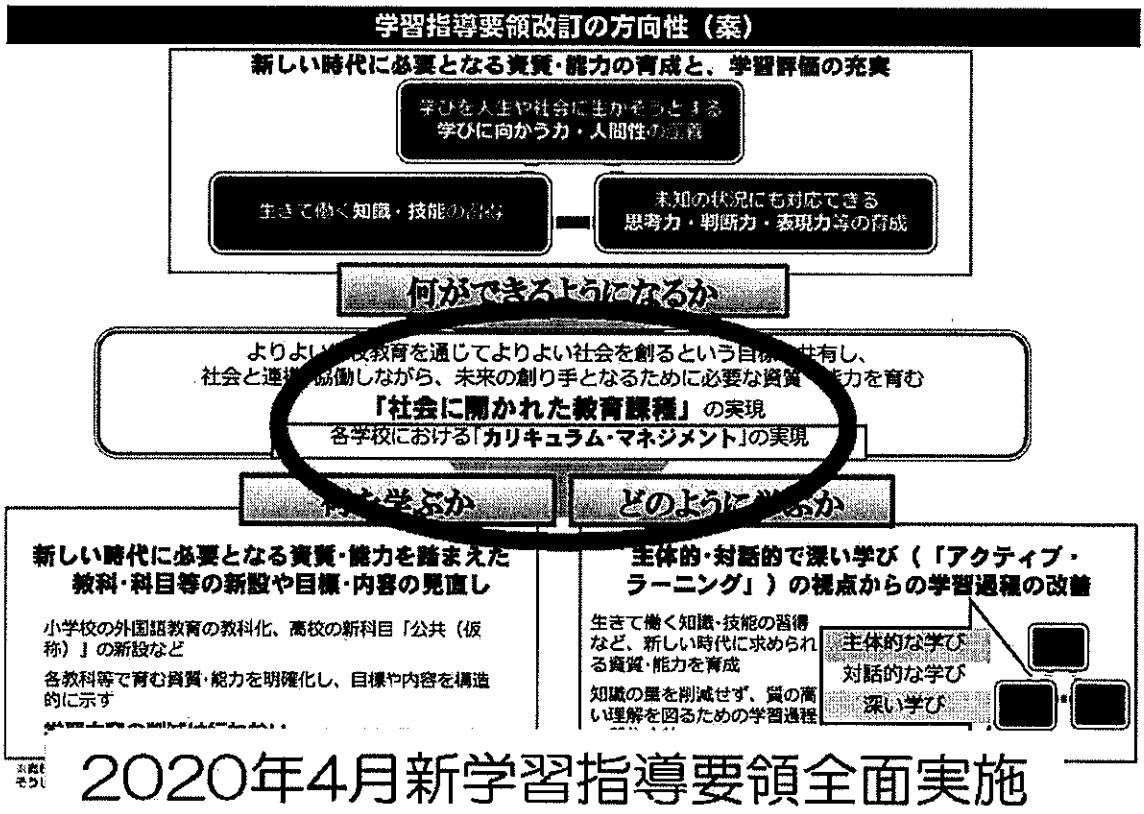
最終目標：市内全小学校でのMM展開

27



札幌市HPに掲載

「札幌市」「交通環境学習」→検索



これからの教育課程の理念

＜社会に開かれた教育課程＞

① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。

② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。

③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

「社会に開かれた教育課程」

30

次期学習指導要領

キーワード
①「社会に開かれた教育課程」
②「カリキュラムマネジメント」

↓

ますます、
MM教育の役割は大きい

課題とそれを超えるコツ

①学校の多忙化
　「〇〇教育」に疲れている現場
②社会科の苦手な教師が多い
　新聞も読まない若手教員
③理想的な授業はあるが…
　なかなか一般化しない
　平易で効果的な教材提供
④互いの壁を越える
　市役所＋つなぎ手＋学校
⑤楽しいWINWINの関係つくり

③意見交換議事録

	伊地知より、 「八戸らしいモビリティ・マネジメント教育推進事業」の事業概要を説明する。 引き続いて、「モビリティ・マネジメント教育の特徴と他地域事例」を紹介する。 新保委員より、 モビリティ・マネジメント教育の先進事例として、「札幌市におけるMM教育の取り組み（仮題）」の事例を紹介する。
大野	社会科と総合的な学習と連携させたい。この考えに基づき、小学校の教育研究会ではなく、『教科等研究委員』の中で進めたいと考えている。 教科等研究委員は3部会あり、「確かな学力のための授業づくり」では、国語、算数、理科、社会科、英語などある。当初この社会科で実施しようと考えていたが、もう一つの部会である「今日的課題研究分野」においての取り組みを考えている、こちらでは、プログラミング教育、道徳の教科化が始まることへの対応や、外国語活動、防災教育などを行っており、この中で『モビリティ・マネジメント教育』を来年度から実施したいと考えている。 社会科の教科書の関連で扱えるところもあるが、総合的な学習も入れたことは、『教科等~~と~~研究委員』では人選が困難であるため、柔軟性を持たせた人選をしながら、先生方の負担感のない研究にしたいとの思いもある。 また、来年度から、小学校は新しい学習指導要領に変わるが、そのキーワードである「カリキュラムマネジメント」においては、『横断的な学習』というものがあり、社会科と総合的な学習は結び付け安いということもあるため、幅広で行きたい。 社会科としてガチっと研究するのではなく、社会とも関連する側面もあるし、総合学習に関連する側面もあるとして、柔軟に研究していく形でいきたいと思っている。 4月にならないと先生方の異動も決まらないため、声かけできるのも年度が変わってからになる。委員の先生として決まるのは説明に合った通り5月ということになる。 29年、30年と出前教室を実践してくださった先生や、ある程度実績のある学校を中心にお願いしていきたいと考えているが、やったことのない先生でも出来るように間口を広げていきたいため「社会科」「総合的な学習」で実施とお伝えをした。
岡本	藤沢市の事例は、出来る限り各教科で関連付けてやる形で実施されている。 滋賀県の事例は、この小学校では、学年に20名位がバスで通学をしており、児童は日常バスに乗っている。学校の前にバス停があるため、バスに乗り駅まで行き、電車に乗って出かけ、またバスで戻るといったループで学習され、地域を見てまわる学習がされている。 滋賀県はこちらと似ている。元々は県の職員で出前授業がやられていたが、実施校数が限られてしまうため、「学校の先生方でやってもらえれば」ということで取り組まれたところが、八戸市と似ていると思う。 平成28年前から乗り方教室で実施されていたが回数が限られるので事業を活用して先生方が実施する方向になるよう取り組まれた。

新保	この４月から新学習指導要領が全面実施になる。要領の中心概念が「社会に開かれた教育課程」で、今度の学習指導要領の中では一番大事になっている。社会や世界の現状を幅広く視野に入れ、教育課程を介してその目標を社会と共有してくとなっており。学校の中に勉強を閉じていてはダメですよという話である。これからやろうとしているMM教育は新しい学習指導要領の核になりえる。 さらに「カリキュラムマネジメント」においては、今までは教科書に載っていないことは出来ないと言っていたことを、柔軟に考えてマネジメントしたら出来るのではないかというものである。 提言、コツとしては、「先生方の多忙化への対応を考えること」、「社会科の苦手な先生へのケアにも対応する。（目標は子供たちに伝わる事なので）一般の先生が出来ることが大切」、「行政と教育の壁を超える」ことも大事で、この二つはなかなか交じり合わない。交じり合わないと面白くなっていかない。この点も大事で、間に入っていくのは事務局ということになります。 働き方を考えることも必要で、八戸の先生方も大変苦労していると思う。 また、国はギガスクール（小１～中３の生徒一人に１台ＰＣを準備する）を推進しようとしている。これを視野に入れて進めることでＩＴを活用した授業やサポートは面白いと思う。 出前講座が進んでいるため、それをサポートする教材づくりを考えることもいいかもしれない。ビデオクリップもいいと思う。動画を一斉に見せるので、八戸の公共交通のビデをクリップが 10 本位あると色々な事に使えると思う。 さらに、選ばれた先生には「ご褒美」があってもいいと思う。札幌では、全国的な会議などに出席してもらい、日中は、発表や同じような活動をしている方々と意見交換をして、夜は社会勉強のための探検をするといったこと行ってきた。出かけた地域の人々との交流があれば、先生方も楽しみ、主体的に取り組むようにもなって行くようにもなる。
大野	副読本の作成後で残念なことは「使われないこと」である。札幌の事例では、みんなで使えるという所に共感出来た。 「必ずやらなければならない」と「配って終わり」では大きく違う。研究員の先生以外の多くの先生に広がることが大事かと思う。
伊地知	選ばれた先生は、実践した取り組みを他の先生方とシェアする場面はあるのか。
大野	研究員制度の課題。大きく意識している所は「周知活用」で、年１回の研究発表会がある。今年度は１月最終の木金２日で 160 名の先生が発表会に参加した。選択講座、中堅教諭の選択講座の単位取得ともしているため、ある程度の数を保つことが出来ている。 小教研の社会科部会の夏期講習会の場面で授業をやらせてもらう、中教研と連携するなど、様々な形で周知活用に努めている。MMもおいても同じイメージで考えている。
伊地知	研究会の中では、MMに限らず色々な事柄に関して、先進的な取り組を行っていると思うが、主体的に関わった先生はやりがいを感じたり、フィードバックをしてよりよい授業にしていると思うが、それを他の参加した先生が「なるほど」と上手く自分の形にしていくこと、普及の部分はハードルがあるのか。
大野	普及は指導主事側の役割で、研究員の各部会に担当者が付くので、「使ってもらう」という実践をやってもらうようにしたい。また、当初から計画をして、指導案も先生方が見ることが出来る掲示板にも載っているのでマネジメントも出来る。

	先生方は、すぐ自分でも出来そうなものは実践する傾向がある。先生方に負担がなく、子供たちが喜んでくれるもの、面白そうなものには反応がいい。 教科書には載ってないと実施しないという話はあるが、地域を学ぶ学習は、社会科にも、総合的な学習の中にも地域をテーマにした学習はある。どこの学校でも取り組まれているので、そこで路線バスを活用するということもある。 貸し切りバスは高価との話がありましたが、新しい学習指導要領と合わせて提案の仕方次第では、いいと言ってくれる先生はたくさん出てくると思っている。
伊地知	子供たちが喜びそう、授業がやり易そうとなるのは、取り組みのハードルが低い、ツールも充実しているということでしょうか。
大野	これをやればいいと、「うちの学校でもこのバスに乗れば」いいなどは分かればいい。 現在取り組んでいる学習に近くて、変えることが出来る。合わせることが出来るということであるとやり易い。
新保	「この仕事をやりなさい」となった時、行政では「やりません」とはならない、ありえないですが、学校ではありえる。教育課程の編成理念というものが学校にある。学習指導要領はある程度の幅もある。教科書もある。そこで「いいものがある」と伝えても、『いいですね。ウチは教科書でやっているので…』となる。これがある意味で教育の自由を担保していて、戦争の反省に立って教育委員会の独立性は作られていて、逆に言うと新たな課題がこうだから、これをやりましょうとなった時に弱いところがある。 いまどき、先生方はいじめや怪我があるとコテンパンにやられるので、神経の使い方が半端ない状況である。新しい物に気持ちを向けることは難しい。逆に言うと、「楽しくて」「面白そうで」「八戸のまちに必要だ」と、先生方の中に落ちていけば、むしろグッと動き出すことは大いにあると思う。
伊地知	八戸の先生方が取り組みやすい具体的な形は何かを、担当の先生方とワーキングの中で、担当の先生が決まってくる中で、前もって進学指導要領との関連性を先生方と共有できるよう事務局で整理して、取り組む入口づくりと、実際の形を作っていくところは先生方とやらないと事が及ばないことになると思っている。その点はワーキンググループの中で具体的に掘り下げて行きたいと思う。
吉田	MMにおける高等教育は行ってきているが、初等、中等の教育には疎いところがある。 一昨日、栃木県の足利市に行って立地適正化計画系の会議に出席をしてきた。 この地域は平成の一桁代に路線バスが全てなくたった地域で、市が肩代わりして広いエリアを３台のバスで移動をカバーしていた 11 年前からお手伝いして、現在バスは７台まで増え、利用者もちょっとずつ増えてきている傾向にはあるが、移動における公共交通の割合は 0.2%、90 数%が車となっている。そうなった時に、「このまちがどうなっていきたいですか」となった時に、発想がわかない。今も車で最適化されて便利な生活になっているため、これからこのまちをどうして行きたいかは全然発想がわかない。 「不便と感じたらどうしますか」と聞いたら『引っ越せばいい』とう回答で、まちに対する愛着がない。どこに住んでも車でどこにでも行ける車中心の生活になると、地域やまちを気にすることが全くない。そうならざるを得ない。そうなると、足利に住む小学生も車の生活があたりまえなので、まちに愛着はないと思う。 他方で、自身は仙台のまち中に住んでおり、小学校２年生の娘がいる。

	娘の担任の先生が「まち探検」をがんばって3回実施した。たまたま商店街にある小学校なので、子供がものすごく喜んで、まちの皆さんも喜んでくれた。 その後も娘は、嬉々として商店街に買い物に出かけたり、絵描き屋に行って絵の描き方を教えてもらったり、色々な人が色々な事を教えてくれるので楽しいと言っていた。 地域に学ぶ機会があると、子供たちはもの凄く喜ぶということを、娘を通じて感じた。「地域の中での学びと」MM教育の中でも結びついていけばいいと思う。 もう1点気付いたことは、札幌では広範囲に市街化区域にネットワークが確保されている。これは札幌の財産であると、新保先生は気づきを持たれたと思う。 同じように八戸の公共交通はこうだよ、「財産だよ」と言ってもらえる見せ方は何なのかと考えた時に、自分は16年と長く八戸の公共交通に関わってきたのでわからなくなっている。そこの所を、新保先生や大野先生に、逆に教えてもらいたいと思っている。
伊地知	実際に地域との関りの中で、吉田先生のお子さんの話を交えてお知らせいただいた。 先生方にフィットする情報の出し方の話もあった。 事務局においても、基本的には行政的な物の作り方、見せ方をしてきたので、どのようにすれば先生方の琴線に触れるのか、実はそのような目線で物を作ったことがない。 出前教室の資料は、子供たちに関心を持ってもらうよう工夫して作ってきたが、先生方にとってどんな事がピンっとくる切り口なのかを探りながら、アドバイスいただきながら考えて行かなくてはならない。 その延長線上に、「八戸らしさ」がおよそ見えてくると思う。それを手繰り寄せるように、ちょっとずつ研究授業を行い、場合によってはトライ&エラーもあるかと思うが、「八戸らしさ」を3人の先生と研究授業を行い、皆さんで探り当てて行こうというところです。
大野	実施回数は具体的に考えてはおりませんでしたが、最低年2回と考えておりました。
阿部	今日は他の地域の事例を知り、MM教育は交通を通じて、環境、地域、社会など多くの学びを提供できると実感した。 交通は地域との関りが大きいので、これから副読本を作成するにあたり、八戸らしさを生かせる特色のある物が出来るといいと考えている。
伊地知	現場からの意見を、厳しく、優しくチェックしていただければと思う。
阿部	札幌では公共交通以外にも社会科の副読本はあるのか。
新保	大きな事項が1つある。それは除雪についてであり、札幌市のホームページにもある。札幌は年間200億円の予算をかけて除雪をしているが、どんどん予算は増えている状況にあり、予算が増えると苦情が減るかと言えば、逆に苦情は多くなる。自分の家の除雪まで札幌市に求めるといった社会の空気が出来てきたので、これはまずいと感じた。 市としてやる、個人でやる、隣近所でやるという基本を学んでいないといけないので「雪学習プロジェクト」として副読本を作成し実施している。 内容は、MM教育と異なり、10月～3月にかけて「さっぽろ雪学習ニューズレター」を先生方に配布している。紙面は戦略的に考えて、紙面の3/4除雪に関連しない楽しみの内容（冬の暮らしのこと）として、残り1/4が雪対策（除雪）の話題となっている。

	先生方はそもそも除雪のことを何も知らない、まずは先生方に知ってもらって、「除雪は凄いんだよ」などと語ってもらえるようにトライアルを行って来ている。 「バスって凄いんだよ」といったトライアルなニューズレターもいいかもしれない。
佐藤	バスって面白いんだいよといった話が出ましたが、実際バス事業者からすると、乗務員不足といったことが八戸でも起こっていることも知ってもらいたい。社内では乗務員が足りないのでどの路線を辞めるかといった話にもなっている。そのような情報は、市民は知らない、交通は空気のような存在であって、乗らないけど今日も走っているといった感じであり、いつまでもあるといった存在になっている。厳しい状況も共有しながら、公共交通を使うと楽しみもあることを伝えていきたい。 娘が高校進学でバスを利用するようになった、バスを利用することでまちを歩く機会も増えて、自分が知らないお店の情報なども知るようになっている。 事業者はどのように関わっていけるのか、今後考えて行きたい。 どこの小学校か忘れたが、八食センターに行きたいと問い合わせをもらったことがある、詳細をまとめてお知らせをしたこともあった。ホームページだけを見てもわからないと思うので、色々と手助けできるといいと思っている。
伊地知	バスをわからない先生は、そのままで終わってしまうことが多いと思う。 最初の取り組みのハードルのところ、取り組みやすさのところの状況整理はMMで重要視するところでもありますから、「楽しい」という授業目線でやっていければいいと思う。
岡本	札幌での取り組みにおいて、ある先生は、元々はプロジェクトには入っていなかったが、たまたまバスを利用するためにバス停に行ったところ、廃線になるとの張り紙を見て、そういえば活動しているグループがあると思いだし、そこからプロジェクトに参加した先生もいる。また、活動していると、周りにも情報が入っていきますので、そこから参加するといった先生もありました。そのような広がり方もあるということです。 小平市の小学校の校長先生で、元鉄道の運転手をされていた先生がいて、模型などを置いているような、乗り物が大好きな先生なので、他の先生が校長先生に感化されて様々な取り組みを行った小学校もあり、色々なやり方もあります。 元々この取り組みは、環境対策で行ってきましたが、指導要領、利用促進、郷土愛、環境、地域の学習、キャリア教育など、そういったところにも繋がってくる。うまくいくと家庭への波及も期待できると思う。 私の方でも色々な情報提供をさせていただきたい。
伊地知	八戸らしさを見つける中でも、岡本様にはご助言をいただきたい。 今後について直近の活動 3月26日（木）午後：ワーキンググループを開催。場所、詳細時間は未定。 内容→新学習指導要領との整理と対応 以降の活動について 5月、7月：ワーキンググループ 10月：検討委員会 以上

2. 八戸らしいモビリティ・マネジメント教育ワーキンググループ

(1) WG構成員

検討委員会は、八戸市において十数年にわたり公共交通の調査、検討、各種利用促進策に通じている八戸市地域公共交通会議アドバイザー（福島大学経済経営学類国際地域経済専攻准教授）の吉田樹先生を委員長とし、教育委員会、交通事業者、本事業の助成団体である（公財）交通エコロジー・モビリティ財団により構成した。

※敬称略

構成団体	役職名	氏名
学識経験者	NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム 理事長	新保　元康（座長）
教育委員会	八戸教育委員会総合教育センター主任主導主事	大野　　勉
交通事業者	八戸市交通部運輸管理課営業グループＧＬ	阿部　敏彦（代理：矢口）
	岩手県北自動車株式会社南部支社乗合部部長	佐藤　欽一
アドバイザー	公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部交通環境企画課調査役	岡本　英晃
行政（委託者）	八戸市都市整備部都市政策課交通政策グループＧＬ	石橋　正一
	八戸市都市整備部都市政策課交通政策グループ主査	相模　将喜
事務局（受託者）	特定非営利活動法人まちもびデザイン事務局長	伊地知恭右
	特定非営利活動法人まちもびデザイン事務局	関下　和裕

(2) 第１回ワーキンググループ

第１回ワーキンググループは、新学習指導要領における「交通」の位置づけ・扱いについてとりまとめた。具体的には、社会科の「内容」「内容の取り扱い」において「交通」や「運輸」といったキーワードが使われている箇所をまとめると共に、総合的な学習の時間の「内容」と「交通」との関連を整理し各種意見交換を行った。

【日　時】令和２年３月26日（木）　15:30～17:10
【場　所】ポータルミュージアムはっち レジデンスＢ
【議　事】新学習指導要領とMM教育
～社会科、総合的な学習における「交通」の位置付けと可能性～　について

写真 2-3　第１回検討委員会

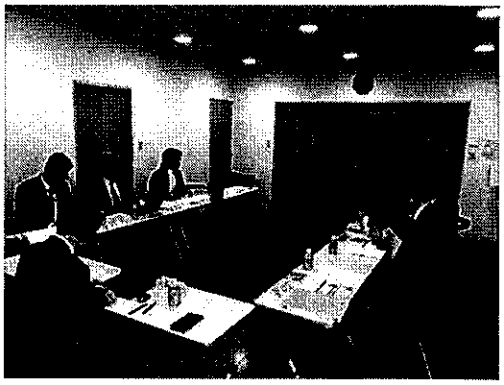


写真 2-4　第１回検討委員会（新保委員の発表）

①第１回 WG 会資料

第１回　八戸らしいモビリティ・マネジメント教育ワーキンググループ

次　第

令和２年３月 26 日（木）
八戸ポータルミュージアムはっち５階レジデンスＢ

１．開会挨拶
　八戸市都市整備部都市政策課交通政策グループ GL　石橋　正一

２．構成員紹介

３．議　事
　新学習指導要領と MM 教育
　～社会科、総合的な学習における「交通」の位置づけと可能性～　　について

４．意見交換

５．閉　会

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団助成事業

令和元年度第1回　八戸らしいモビリティ・マネジメント教育
ワーキンググループ
令和２年３月２６日（木）
八戸ポータルミュージアム はっち５階 レジデンスB

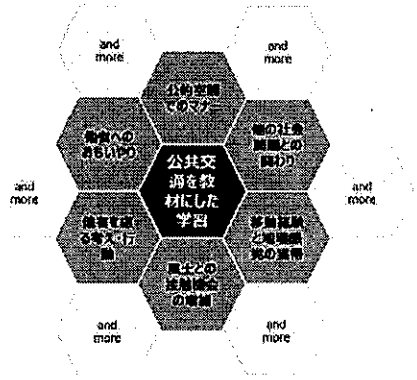
新学習指導要領とMM教育

社会科、総合的な学習における「交通」の位置づけと可能性

１．第1回検討委員会のふりかえり

そもそも、モビリティ・マネジメント教育（以下MM教育と略記）とは…

- 『移動・交通』の視点から、自分自身の生活、暮らしと社会との関わりを学ぶ。
- その上で、よりよい社会を築くための行動を主体的に考え、実践することを目指す。
- 例えば…
  - 公共交通ネットワークの広がりとまちの形の変化
  - 移動手段と環境問題の関わり
  - 物流ネットワークの広がりと暮らしの変化
  - 公的な場所（バス車内など）でのマナー　etc…



MM教育の効果

公共交通を教材とした出前教室を実施する中で、乗り方やマナーだけでなく、**多様な学習効果が得られる！**（これまでの実績を通じた実感）

本事業の目的・目標

- ◆ 教育委員会との連携を深めながら「MM教育・公共交通学習の意義」を共有するプラットフォームを構築する。
- ◆ プラットフォームをベースとして「八戸らしい授業プログラムの開発」、およびその授業実践をサポートする教材として「副読本（既存のものを補完する別冊を予定）」の作成を行う。

2

プラットフォームの構築

・関係機関におけるMM教育の意義の共有、進化を企図したプラットフォームを構築する。

➔検討委員会

・**具体の授業内容や副読本内容の検討の機動性を高める**ために、教育委員会（指導主事）と研究授業担当教諭、交通政策担当部署、バス事業者らによるワーキンググループを設置する。

➔ワーキンググループ

構成団体		検討委員会	WG
学識経験者	八戸市地域公共交通会議アドバイザー	委員長	
	NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム	○	座長
小学校関係	八戸市教育委員会　総合教育センター	○	○
	今日的課題研究分野担当教諭（R2年度に決定）	○	○
交通事業者	八戸市交通部	○	○
	岩手県北自動車株式会社南部支社	○	○
アドバイザー	公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団	○	○
行政（委託者）	八戸市都市整備部都市政策課	○	○
事務局（受託者）	特定非営利活動法人まちもりデザイン	○	○

3

R3年度までの事業全体の流れ（スケジュール）

時期	研究授業&副読本	ワーキンググループ	検討委員会
R2年2月		今日はココ！	・事業概要の確認 ・他地域事例の整理／先進事例の学習
3月		・八戸市及び新学習指導要領における学習目標・内容等の整理	
5月	担当教諭３名の決定		
7月		・研究授業内容の検討	
9月	★第1回研究授業		
10月	★第2回研究授業		
11月		・研究授業の成果と課題の整理	・研究授業の成果と課題のフィードバック方法 ・副読本トライアル版の内容検討
12月	（研究委員会発表会） ◆副読本トライアル版の作成		
R3年6月		・研究授業内容の検討 ・副読本トライアル版の精査	
8月	★第3回研究授業		
10月	★第4回研究授業		
11月	札幌公共交通学習フォーラム参加	・研究授業の成果と課題の整理 ・副読本の内容検討	
12月			・研究授業の成果と課題のフィードバック方法 ・副読本の内容検討
R4年1月	◆副読本作成		
2月	◆副読本作成 （研究委員会発表会）	・副読本の精査	
3月	◆副読本の製本・配布		・八戸らしい授業プログラム及び副読本の精査 ・事業終了後の展開、フォローについて

4

市教育委員会総合教育センターでの取扱いについて

・事業申請時には「教科等研究委員」における部会「確かな学力のための授業づくり」として社会科で研究的に取り組む想定だった。

➔ 柔軟な人選、新学習指導要領でもキーワードとなっているカリキュラム・マネジメントにおける「横断的な学習」の実現なども踏まえ…別の部会**「今日的課題研究分野」で取組むことに変更。**

➔ **MM教育を、社会科＋総合的な学習の両面からの課題研究、かつ横断的な課題研究と捉えて実施（担当：総合的な学習の教諭2名、社会科の教諭１名の計３名）**

5

2．新学習指導要領のポイント

・**現場の先生方に普段の授業の中で「公共交通を題材とした学習：MM教育」を実践していただく**には、新学習指導要領に則った学習目標・内容の検討が重要。

・そこで、４月から全面実施される新学習指導要領において、**「公共交通」と関連があると思われる箇所を抽出し、研究授業（および副読本）の目標・内容を検討する際の「拠り所」を整理する。**

※専門的な、一般的になかなか読み解きにくい内容なので、事務局認識の是非、過不足について、新保先生、大野先生からも補足をお願いいたします。

総則における改訂のポイント：全体的な話

Keyword	ポイント・留意点
社会に開かれた教育課程	学校教育を通じてよりより社会を創るという目標を学校と社会が共有し、各学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていくことを目指す。（関連：第1章総則／第2教育課程の編成／1）
カリキュラム・マネジメント	特に下記2つ。 ①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。 ②教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。（関連：第1章総則／第1小学校教育の基本と教育課程の役割／4）
教科間等のつながり	・子どもたちに必要な資質・能力がバランスよく育まれるよう、学校等段階間や教科等間の接続を図った教育課程編成について明記。（関連：第1章総則／第1小学校教育の基本と教育課程の役割／4） ・教科横断的な教育課程編成により、現代的な諸課題に対応できる資質・能力を育成する。（関連：第1章総則／および第2教育課程の編成／2）

6

（1）社会科における「内容」と公共交通 新学習指導要領

3学年

★以下、**青字・太字**は、改訂された箇所／下線部は特に交通に関する箇所

【内容（1）-イ-（ア）】
都道府県内おける市の位置、市の地形や土地利用、交通**の広がり**、**市役所など**主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物**の分布などに着目して、身近な地域や市の様子をとらえ、場所による違いを考え、表現すること。**

【内容（4）-イ-（ア）】
交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具**などの時期による違いに着目して、市や**人々の生活の様子を**とらえ、それらの変化を考え、表現すること。**

4学年

【内容（1）-イ-（ア）】
我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の**分布**、交通網や主な都市の位置などに**着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。**

5学年

【内容（4）-ア-（イ）】
大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。

【内容の取扱い（4）-イ】
（上記については）**情報や情報技術を活用して発展している販売、運輸**、観光、医療、福祉**などに関わる産業**の中から選択して取り上げること。

7

交通・運輸のキーワードが結構ある！！それぞれの「内容」や「内容の取扱い」について、
具体的な例を「小学校学習指導要領（平成29年告示）**解説** 社会編」から抜粋

3学年

【内容（1）-イ-（ア）】
都道府県内おける市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子をとらえ、場所による違いを考え、表現すること。

交通の広がりに着目するとは…
・主な道路や鉄道の名称や主な経路などについて調べること
・調べたことを手掛かりに、身近な地域や市の様子を捉えることができるようにする。（解説p.36）

場所による違いを考え、表現することは…
・例えば、駅や市役所の付近（中略）など、場所ごとの比較をしたり、主な道路と工場の分布、主な駅と商店の分布など土地利用の様子と、交通などの社会的な条件や土地の高低などの地形条件を関連づけたりして、市内の様子は場所によって違いがあることを考え（略）（解説p.37）

【内容（4）-イ-（ア）】
交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子をとらえ、それらの変化を考え、表現すること。

・駅や道路などの交通網が整備されてきたこと（中略）と土地利用の様子や人口が変化してきたこと（中略）などを基に、市や人々の生活の様子の移り変わりについて理解する
・交通の時期による違いに着目するとは、市内の鉄道や主要な道路などが整備される前や整備された後の市の様子、及び現在の市の様子について調べることである。（解説p.45）

8

（具体的なイメージ）

これは旧教科書
→ 次回WGで新教科書
の内容を要チェック！

【社会科教科書　3・4上　東京書籍／平成28年発行】

市の様子をまとめよう　けんさんたちは，調べた場所の様子について，みんなで話し合いました。

そして，それぞれの場所の様子について気づいたことを整理して，表にまとめることにしました。

「場所によって，たて物の様子や交通の様子がちがっていたね。」

「人の様子や土地の様子にもちがいがあったよ。」

「それぞれの場所ごとに，表にまとめてみようよ。」

	土地の様子	たて物の様子	人の様子	交通の様子
畑と家のまわり	・平らな土地が多い。 ・少しはなれると，緑もゆたか。	・高いビルが目立つ。 ・店や公共しせつがたくさんある。	・仕事や買い物に来る人が多い。	・広い道路が多い。 ・鉄道がたくさん通っている。
港と工場のまわり	・海の近くで土地がひくい。	・大きな工場がたくさんある。	・港や工場ではたらく人が多い。	・船が入る港がある。 ・かもつ列車が通っている。 ・近くに高速道路がある。
ハイパータウンのまわり	・小高い場所にある。	・家が集まってたっている（ニュータウン）。 ・大きな団地がある。 ・大きなショッピングセンターがある。	・住たくが集まっているところに人が多い。 ・ショッピングセンターなどに買い物に来る人もいる。	・車が多い。 ・近くに高速道路がある。
大河川にそった場所	・川が流れている。 ・平らな土地が広がり，田や畑が多い。	・たて物のほとんどが住たく。	・人のすがたが少ない。	・鉄道が多い。
山のふもと	・山が多く，森林が多い。 ・川が流れている。	・旅館やホテルがたくさんある。	・かん光客が多い。	・道路はあまりない。

9

【社会科副読本　3・4上　八戸市小学校社会科教育研究会編／平成29年発行】

市の様子をまとめよう　けんさんたちは，調べた場所の様子について，みんなで話し合いました。

そして，それぞれの場所の様子について気づいたことを整理して，表にまとめることにしました。

「場所によって，たて物の様子や交通の様子がちがっていたね。」

「人の様子や土地の様子にもちがいがあったよ。」

「それぞれの場所ごとに，表にまとめてみようよ。」

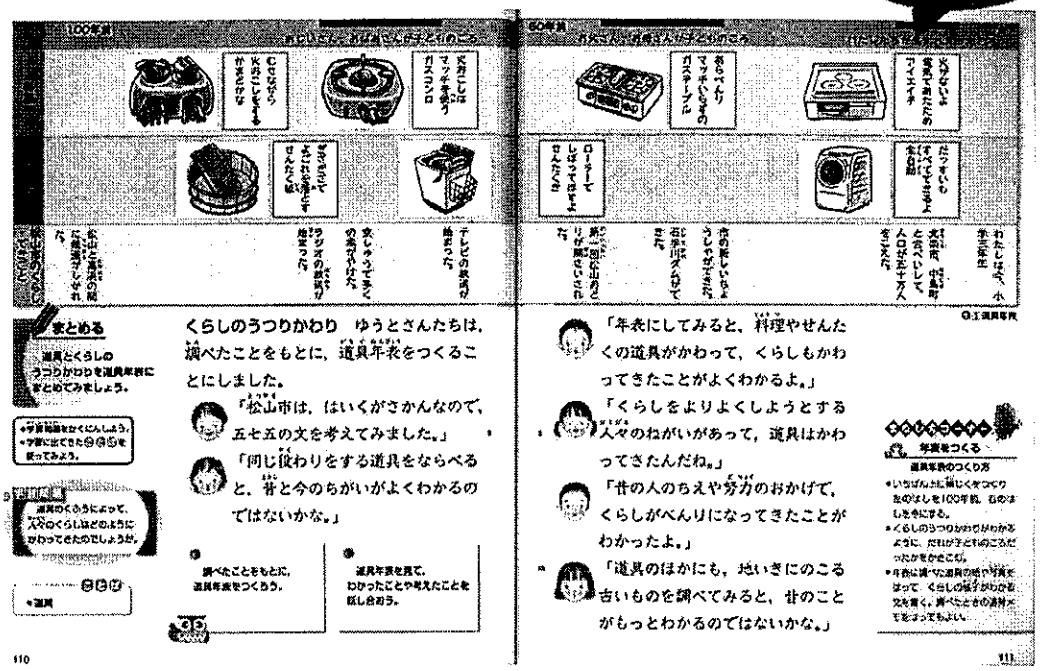
場所	土地の様子	たて物の様子	人の様子	交通の様子
本八戸駅のまわり	・駅あとの辺りは小高い丘になっている。 ・駅のまわりは平らでひくい。	・お城のあとや古いたてものがある。 ・市役所など公共しせつがたくさんある。	・仕事や買い物に来る人が多い。	・鉄道や道路がのびている。
[illegible]	・海の近くで土地がひくい。 ・海岸線がまっすぐになっている。	・大きな工場がたくさんある。	・港や工場ではたらく人が多い。	・船が入る港がある。 ・かもつ列車が通っている。
ハイパータウンのまわり	・小高い場所にある。	・家が集まってたっている。（ニュータウン） ・ショッピングセンターがある。	・住宅が集まっているところに人が多い。 ・ショッピングセンターなどに買い物に来る人もいる。	・近くに高速道路がある。
馬淵川にそった場所	・川が流れている。 ・平らな土地が広がり，田や畑が多い。	・たて物のほとんどが住たく。	・人のすがたが少ない。	・鉄道が多い。
山ふもと（「[illegible]」）のまわり	・山が多く，森林が多い。	・手打ちそば[illegible]や[illegible]，野菜の[illegible]がある。	・かん光客が多い。	・高速道路のインターチェンジが近くにある。

1　けんさんたちがまとめた表

10

【社会科教科書　3・4上　東京書籍／平成28年発行】

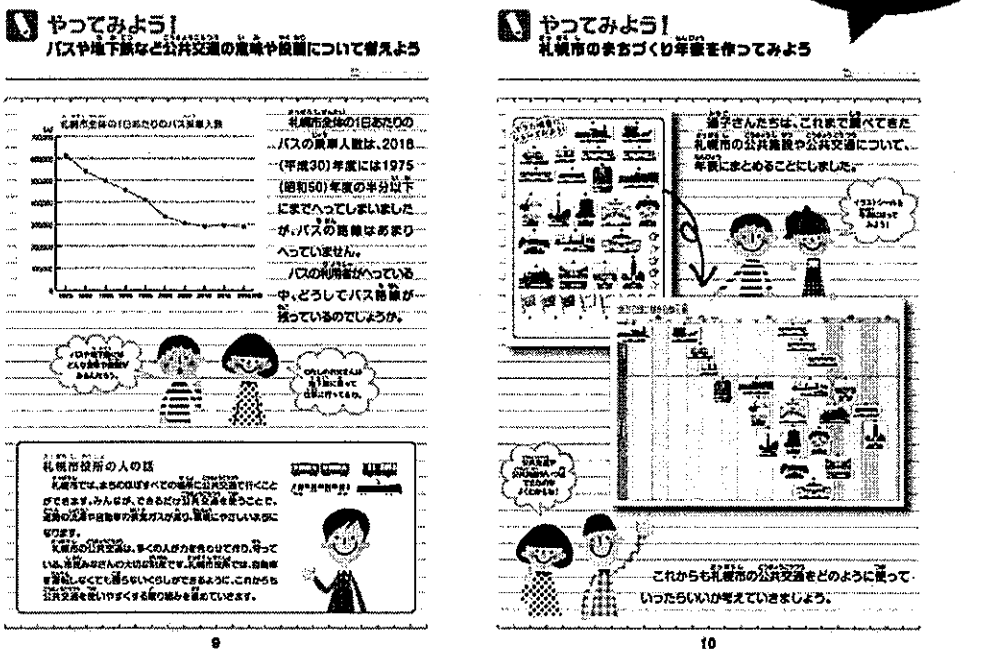
これが交通のうつりかわりになるのか！？



11

【みんなの乗り物　公共交通　３年生社会科／札幌市／令和２年発行】配布前のため**取注**

札幌市の例（最新版）



12

【社会科副読本　3・4下　八戸市小学校社会科教育研究会編／平成29年発行】

13

５学年

【内容（４）-ア-（イ）】
大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。

【内容（４）-イ-（ア）（イ）】
（ア）情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
（イ）情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

【内容の取扱い（４）-イ】
（上記については）情報や情報技術を活用して発展している販売、運輸、観光、医療、福祉などに関わる産業の中から選択して取り上げること。

情報の集め発信するまでの工夫とは…
・ニュースや天気情報、交通情報など多くの情報を収集し、意図をもって、分かりやすく伝えるよう編集・加工し（中略）インターネットなどの情報媒体を通して広く国民に伝えているし（中略）工夫や努力について調べること（解説p.89）

情報の種類に着目するとは…
・販売情報、気象情報、交通情報など産業が活用している情報の種類について調べること（解説p.89）

14

【情報を生かす札幌の公共交通　５年生社会科／札幌市／令和２年発行】配布前のため**取注**

15

（２）総合的な学習における「内容」と公共交通　新学習指導要領

第１の目標と課題設定の三つの要件

【第１の目標】
探求的な見方・考え方を働かせ、**横断的・総合的な学習を行う**ことを通して、よりよく課題を解決し、**自己の生き方を考えていく**ための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）探求的な学習の過程において、**課題の解決**に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
（２）**実社会や実生活の中から問を見いだし**、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
（３）探求的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、**積極的に社会に参画しようとする**態度を養う。

この『第１の目標』と『各学校における教育目標』、『各学校において定める目標』を達成するために、どんな課題を扱うのがいいのか？

【課題設定の三つの要件】
（１）探求的な見方・考え方を働かせて学習することがふさわしい課題であること
（２）その課題をめぐって展開される学習が、横断的・総合的な学習としての性格をもつこと
（３）その課題を学ぶことにより、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくことに結び付いていくような資質・能力の育成が見込めること

例えば・・・・

・国際理解、**情報**、**環境**、**福祉**、**健康**などの現代的な諸課題
・**地域の人々の暮らし**、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題

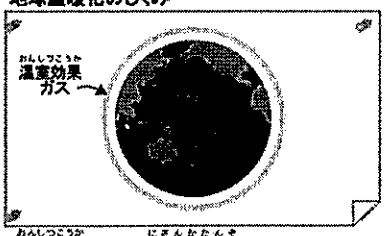
16

【目標を実現するにふさわしい探求課題】
・国際理解、**情報**、**環境**、**福祉**、**健康**などの現代的な諸課題
・**地域の人々の暮らし**、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題

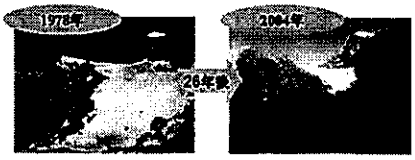
『公共交通・バス』という教材は、多様な切り口があり、これらの課題に多面的に適合できる！例えば…

公共交通を「環境」から捉える

地球温暖化のしくみ

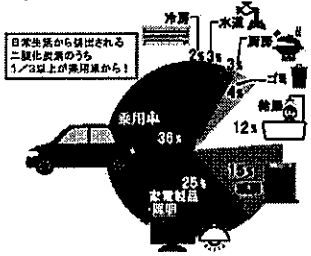


ヒマラヤの氷河

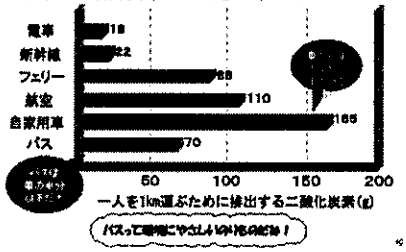


温室効果ガス＝二酸化炭素（CO2）

普段の生活から排出されるCO2



乗りものによって、出てくる二酸化炭素の量はちがうの？



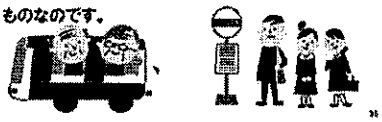
17

公共交通を「福祉」から捉える

バスには、どんな人がのっているの？

A お年寄りや学生（主に高校生）

お年寄りや、学生（高校生）などの、自由に運転できない人達が主にバスを利用しています。
自由に運転できない人達のためにも、バスは必要なものなのです。



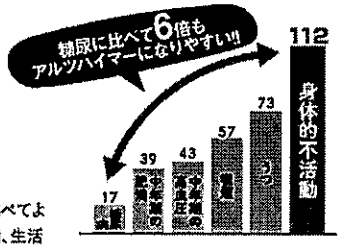
バスが少なくなると、こんなことになってしまいます…

公共交通を「健康」から捉える

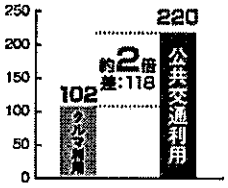
バスを使って健康に！

健康の基本は「よく身体を動かすこと」。
例えばアルツハイマーの最大の原因は運動不足です。
また、肥満や高血圧も大きな要因となっています。バスは車に比べてよく歩くので、消費カロリーが2倍になります！アルツハイマー、肥満、生活習慣病・・・バスに乗る機会を増やすだけで自然と改善できるかも！

アルツハイマー病の主な要因※1



往復15km離れた場所に車・公共交通で行く場合の消費カロリー※2



18

総合的な学習教育研究会での評価

・時期：平成26年度冬期講習会　・講師：伊地知・関下　・内容：「学校教育における公共交通学習の必要性」　・評価3.5（最高4.0）

・環境教育や公共のマナーなどへの応用、広がりということができるのはいいことだ。

・環境を守る視点からのアプローチが重要だと考えさせられた。

・様々な方向からのアプローチで総合の授業が充実すると感じた。

・公共交通学習は自分の将来を見据え、地域活性化、社会、環境等を子どもたちに考えさせる良い教材だと思う。

・八戸のことについて学ぶために、公共交通学習を利用してみるのもよいと思った。

・八戸の未来を考えた時、交通弱者、街づくりの視点から車社会を見直すことの必要性を感じた。

・平成２６年度に社会科見学で利用させてもらった。とてもありがたかった。冬休み前に児童が「長根リンクにバスで行く。」と張り切って言っていた。効果が早速出ているのを感じる。

・学校で１日乗り放題チケットを利用して市内見学をした６年生は良い学習をしたと思う。

・現代における公共交通機関、特に路線バス利用者の減少は目を見張るものがある。

・バスを利用したことのない児童が年々増えていることは実感していた。そのため、道徳の時間でも「席を譲る」という話題に対して実感がない。バスの利用について子どもたちと学びたい。

・公共交通学習の必要性、MM教育という新しい学習について初めて知って、とても参考になった。

・バスという公共交通をもとに町づくりや環境の学習へと広げられる授業スタイルを知ることができてとてもいい勉強になった。

・出前講座を依頼し、子どもたちに体験させたい。

・「総合」で地域や環境学習に取り組んでいるので、ぜひ「モビセン」の方にもご協力いただいて体験的な学習を組みたい。

・生活科で授業してもらいたい。今後、検討する。

・八戸の学習として３・４年生でも取り上げてみることができそうだ。調査等の活動で利用できそう。

・モビセンと学校のねらいとすることが合致したらどんどん活用するべき。

・MM教育は小学校から必要である。このような教材をどんどん推進したい。

・可能性がいろいろあると思うので、今後も活用させていただきたい。

・大人の問題は子どもからというのはよくわかる。忘れないで大きくなってほしい。

先生方からの視点で…

●広がりのある教材として評価！

[redacted]

19

3．ワーキンググループで検討する事項の整理

◆地域の教材としての特徴は何か？（“八戸らしい”MM教育を考える出発点）

➔ バスそのものが地域のモノなので、バス路線（どこに行けるか・何があるか）、利用者（どんな人が乗っているか）、バス会社（どんな人が運転しているのか、支えているのか）などを調べることを通じて、八戸を知る・考えることつながる。
➔ その他「八戸ならではのバスの特徴」は？
➔ バスロケーションシステム？　バス会社の協力による効率的な運行（八戸駅線）？？

◆社会科の、どの単元・どの内容で扱えば「現場で取組みやすいか」

➔ 上記の「地域の教材としての特徴」を踏まえ、先生が扱いやすい・取り組みやすい内容を検討する。
➔ 複数の単元・内容での研究授業を通じて、検討する。

◆総合的な学習の時間で、どのように取り扱えばいいか

➔ 各学校の目標に寄与するために授業が編成されるので、どこの学校にもあてはまる普遍的なものは難しいかも知れない
➔ が、バスという「地域の教材」が多様な側面から扱える（＝横断的な学習につながる）ことを示すためのモデルケースが必要。
➔ このモデルケースを意見交換・研究授業を通じて検討する。

20

②意見交換内容

	伊地知より、「新学習指導要領とMM教育　～社会科、総合的な学習における「交通」の位置づけと可能性～」について説明後、意見交換
新保	学習指導要領は概ね10年に1回変わる。4月から全面実施になるが今回の改定は結構大きい。1番のポイントは、これまで「よりよい個人を育てる」ことが学校教育の大きな目標だったが、「よりよい社会をつくるための教育」へと変化したことがポイント。 キーワードにある「社会に開かれた教育課程」は実に大事。これは一生懸命教育していい個人を育てればいい社会になるだろう、というものであるが、もっと社会に貢献していく仕組みを入れ込んでいかないと、これからもっと困難になる社会なのに大丈夫なのかと。世の中がどうなっているのかちゃんとわかってほしいという考え方に変わってきた。 1番の象徴的な例が社会科にある。6年生の授業は歴史を学んだあとに憲法、政治があり国際へと学習が進んできた（歴史専修）が、それが戦後初めて思いっきり変化する。まず先に憲法、政治を学ぶ。それから歴史、国際を学んでいくことになった。社会の形成者の学習をしっかりやろうとで、学習指導要領のいたるところに「社会に開かれた教育課程」と出てきている。 今、八戸がやろうとしていることはものすごく価値がある。違う側面からも話をすると、先生方も頑張っているが、先生と教科書だけで勉強していていいのか。もっと実際のまちの人たちと一緒に勉強していかないとだめでしょっていうのが「社会に開かれた教育」。まさにこの会は、教育委員会がいて、現場を知る元教師がいて、ずっと交通関係をやっている方がいて、市役所の人がいて、こうゆう中で新しい教育課程を考えることが必要ということ、新しい学習指導要領が求めているものを、今始めようとしている。 もう一つのキーワードである「カリキュラムマネジメント」を難しく考える必要はない。要は、教える内容がたくさんあるが、時間は限られている。だから合わせられるものは合わせてやる。教科間の繋がりはなくても合わせてやっていくというものです。
伊地知	これから始めようとしている、何かを始めようとするうえで、今、どうなっているかを正確に把握したいが、新しい教科書を手元で確認できないので、それはまた新しい先生方を迎えた次のワーキンググループの中で、教科書と副読本を両手に持って交通をこう扱っているなどと具体的な内容を確認して行きたい。学習指導要領がこう変わったけども、それを受けてどうなるかなど話をしていきたい。副読本は4月にできるものでしょうか？
大野	今を一生懸命作成しているところです。
伊地知	5～6月くらいですか？
大野	確認しておきます。
伊地知	次回は、これまでの教科書と副読本、新しい教科書と副読本を見比べつつ、かつ、我々の視点としてはこうゆうものをもう少し足せる、など具体的に議論していきたい。 あとは3名の先生方の個性やキャラクター、得意な授業や進め方があると思うので、「学習指導要領における対応としてはこうゆう風になっているけれども、先生個人としてはこうゆう角度だと活き活きと授業を作れる」といったようなことをワーキングの中で検討していければいいと思う。

	岡本さん、他地域では新学習指導要領の対応について情報はありますか。
岡本	まだなっていないです。
伊地知	札幌は元々このような気質でやっているから、この資料の例としてありますけど、このエコモ事業中において学習指導要領を意識しながら作っていこうというのは八戸が初めてでしょうか。
岡本	初めてです。
伊地知	他の地域ではツールやプログラムを磨いているといった活動状況でしょうか。総合学習で使う感じなのか、それとも出前教室なのでしょうか。
岡本	2年生の生活科が多い。あとは指導要領の変わらないところでやっていく。市の様子、県のつながりとか。
伊地知	いいものを作るというのは大前提で、先生方が理解してやってもらうと言うことを目指すにあたっては、おそらく学習指導要領にしっかり準拠するといったような。これからの流れの中に明確に位置付けてご理解を頂くというのも大切ですかね。
新保	2年生というのは、昭和の時代から乗り物の勉強があった。平成になり生活科へ変わり、バスの乗り方などの単元で根強く残っている。それもあり、ダイレクトにくっつくので、先生方もイメージしやすい。しかも、生活科の教科書にも少し載っている。だから分かりやすい。 ただ、我々がやろうとしていることはバスの乗り方を教えることではない。親しみを持ってもらう、よく理解してもらうのはいいのだけど、そこではなく、その先が大事で、大きな選択肢は2つ。 1つめは社会科でやる。2つめは総合的な学習でやる。といったことで、ここは今日1日では決まらない。次の会議でもう一度議論した方がいい。 ここからは私の考えになってしまうので、それぞれの立場で議論してほしい。 1番いいのは総合だと思う。今回の学習指導要領には「まちづくり」のワードが入っている。事例も載っていているので、それを使うという手はある。ある資料スライドでは、探求課題の中に「まちづくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織」というのが出ている。八戸市が願っている公共交通の利用促進を通じて、地域、市民が元気になり、賑わいが増していくというのが本質かと思う。 札幌では総合的な学習では行えていない。やりたいのではあるが。なぜかというと、札幌の総合的な学習の内容は、学校毎に決めて取り組みを行っている。社会科は全国どこに行っても同じであるが、総合的な学習は学校でとなっている。例えば外国人が多い学校においては国際をテーマに授業を進めることがある。学校においての教育目標は、学校（先生）が持つ得意分野を生かした学習となっている。まちづくりはいいテーマでも取り組んでもらえないことも考えられる。札幌はこれがあって総合的な学習での取り扱いが進まなかったため社会科で実施している。社会科で取り組むと時数（学習にかけられる時間）が少ない。総合的な学習の時間だとまとまった時間がとれる。 これは市教委と学校の関係性もある。市教委が各学校をグリップしていて、ハンドリングがしやすくなっていればやりやすい。例えば、「総合的な学習の時間75時間のうち、15時間をまちづくりに充てましょう。ただし、資料はこちらで用意しますよ」となれば面白くなる。これができれば全国初のすごいこと。責任は重くなり、福祉など八戸全体の未来を考えながらの学習で1番願っていることが叶

	う素晴らしいものになる。これが難しければ、社会科中心でやっていくしかない。
大野	八戸の中で行われている総合的な学習はこれまでの積み重ね・財産があって、それぞれの先生方が年を追うごとにブラッシュアップしており、共有されていっている。 一報で同じような活動を行っていたりもする。例えば、6年生であれば、修学旅行において、函館を調査し、八戸と比較するといったことも行っている、ここに交通の視点を加え比較をしたらどうかと提案した場合、賛同する学校は多いのではないかと思う。このような言い方の方がお願いしやすいのではないか。正面から行くと、学校側は抵抗があるので、「こうゆう切り口だと面白そう」「資料があるならやりやすそう」となればいい。 3年の社会科の地域学習も一緒で、そこでも取り組みやすいのではないかと思う。 気になるのは実際4月に動き出したときに、すでに年間計画で総合学習は何をやるのかが決まっているので、令和2年度に大きく違うことを行うのは難しいという点。このため、今やっていることの中で、絡められることを年間計画に基づいて、柔軟に変えられるところや手法としては取り入れ可能というところに入れていく。最初はその形になると思う。それらを受けて令和3年度は学校自体の総合計画もそれに合わせてスタートすることができるかもしれない。
新保	総合的な学習の時間だとえんぶりも入ってくるのか。
大野	はい。地域の素材を活かすということで、せんべい汁や豆しとぎだったり、田んぼでお米づくりだったり、それらを行っている学校が多い。
新保	プログラミングは？
大野	多くはない。教科の中でやりましょうとなっている。
伊地知	現地でしっかりやってもらおうと思うのであれば、今あるものの中で、うまくフィットさせていくのがよいのかなと。 まちづくりという視点であれば、八戸市としてはできるだけ広い視野で学んでもらうのか、より身近な落とし込んだ形がいいのか、何か意見等はありますか。
相模	まちづくりはいいと思う。でもそれは遠い将来の話として、近い将来としては、まずは現在の授業の内容・やり方に寄り添うことで進めていきたい。 都市計画などのことも教科、学年を上手く使い分けながら支援できるような素材を作っていければいいなと思う。積み重ねて先生方に上手く使ってもらえるような素材を作ることが大事なのではないか。 全学年ごとに使える素材を用意した方がよいのか。
新保	札幌は3年生だけであったが、来年度に向けて5年生の副読本を作った。 元々、公共交通の単元は3年生のまち探検の1単元だけだったが、今年の4月からは2単元になり、5年生も1単元となる。これまでと比較して、学ぶ機会が1回から3回に増える。 5年生は、情報のところで、suicaやバスロケーション、バスナビなど色々ある。それは学習指導要領にもあるし、親和性がいいので今回初めて作った。
伊地知	札幌はエコモ事業を活用して、全学年で色々なトライアルをした。

	抑えるべきポイントは一緒。ただ、答えは地域によって違う。ポイントを理解している新保先生がいらっしゃるので我々はゼロからやる必要はない。無駄のないように質を高めていければと思う。
新保	遠い将来かもしれないけど、まちづくりを考えるのは当然ある。それをやるとするなら、市長さんから選挙の公約などに「まちづくり学習に力を入れます」などと一文入っていれば、当選した時に教育委員会からも頼みますよ、となる。そうゆうことかもしれない。 現実に合ったものをやる、これが1番大事。 次に集まる先生方の雰囲気によっては現実的なものに8～9割の力が入れて、残りの1割はチャレンジングなものをやってみるということもあるかもしれない。 今生徒1人にPC1台となっているが、PCを与えてもコンテンツがないという課題がある。その時に本事業を通じてチャレンジしたものが「八戸まちづくり」のようなコンテンツになり、子供たちが自主的に学べるものであったらいいと思う。 口で言うのは簡単だが、作る方は大変だと思う。でも、そうゆうのもあるということ。 「これまでのまちづくり」と「交通」、「八戸はどのようにできて、これからどんな風になるのか」など交通と密接にくっつく。
大野	面白そうと思う先生方は多くて、でもいざゼロから始めるとなると、話は別になる。そこで、自分で苦労しなくてもバックアップしてくれる方々がいるとなると話は変わってくる。 指導主事と先生とで少しずつまちづくりを取り入れながらやることも出来ると思う。やってみてよければ広がっていく。
伊地知	実際に、行政の方々との情報交換やアドバイスを求めながら何かの授業を作っていくことはあるか。
大野	ゼロではないと思う。総合学習は先生方だけってゆうのは難しいので。周りの団体や地域の方々と連携して行うのがこれまでのやり方です。新学習指導要領の前から、地域や各団体と連携をしながら進めていた。
伊地知	八戸の場合、図南小は、ベースに南部バスに通い続けた歴史がある。立地的に恵まれた場合ではあったのですが、ことバス会社に限らず、バス路線で見れば多くの小学校が適合する。ここをベースに組み上げていく。 今までは行政、地元の方などが絡んできたが、ここに「バス会社」も入ってほしい。 多くの先生が身近に感じられる存在になればよい。
関下	鮫小学校3学年は、地域の形の学習後、バスで市庁の展望回廊まで行き、高いところから八戸の成り立ちを確認するというものがあった。もともとあるものにもフィットしやすいものもあるので、別の教科でも何とでもなるのかなと思う。
相模	やる時にあたって、先生方の課題というか、素材があれば楽という声に寄り添えられる。
伊地知	八戸の中で、出前教室がそこそこ定着しているのはなぜかというと、元々やっている社会見学などの際に、出前教室も行うことで、乗り方だけではなくマナーも学べて、＋αになることが多いからだと考える。雑な言い方をすると、「移動手段を確保してくれる、＋αもある、なんか丁度いいね」くらいの気持ちだと思

	う。それを一つひとつの学習効果、教材としての多面的な側面に共感いただき、少しずつ実のなるものになればいのかなとおもう。
関下	最初は「丁度いい機会だわ」というイメージ。我々の同行で引率者も増えるので。
伊地知	図南小学校は最初から学習としてとらえているので、毎年レベルアップもしている。 今日のワーキングは何か答えを出す、方向性を定める、というよりは何をどのような目線で考えていくべきかと言うことを共有し、皆様のお立場から話を頂くということに重きをおいたものでした。 次回、新しい先生方と臨んでそれぞれのご意見、お考え、得意分野などをお聞きして方向性などを議論できればいいと思う。
相模	知識として欲しいのは、学習指導要領について。前はどうだったのか、今はこう変わったというのがよく分からない。先生方とお話するのに、「前はこうだったのが、今はこうなった。これからこうしましょう」というような話し方がいいのかなと思った。
新保	そうだと思う。新旧の教科書をコピーして、みんなで情報を共有する。何回かやらないと腑に落ちてこない。次回はみんなで教科書をおさらいしていく。
大野	5～6月でないと、教科書の一般販売はない。総合教育センターに教科書、副読本があるので、貸出・コピーなどは協力できる。
新保	次回、バスマップを全員分用意して欲しい。バス路線図に市内の小学校も載っていてこれは素晴らしい。これは教材として使えるような気がする。
伊地知	次回はワーキンググループを7月に予定しています。3名の先生方、大下さんを迎えて行います。 以上

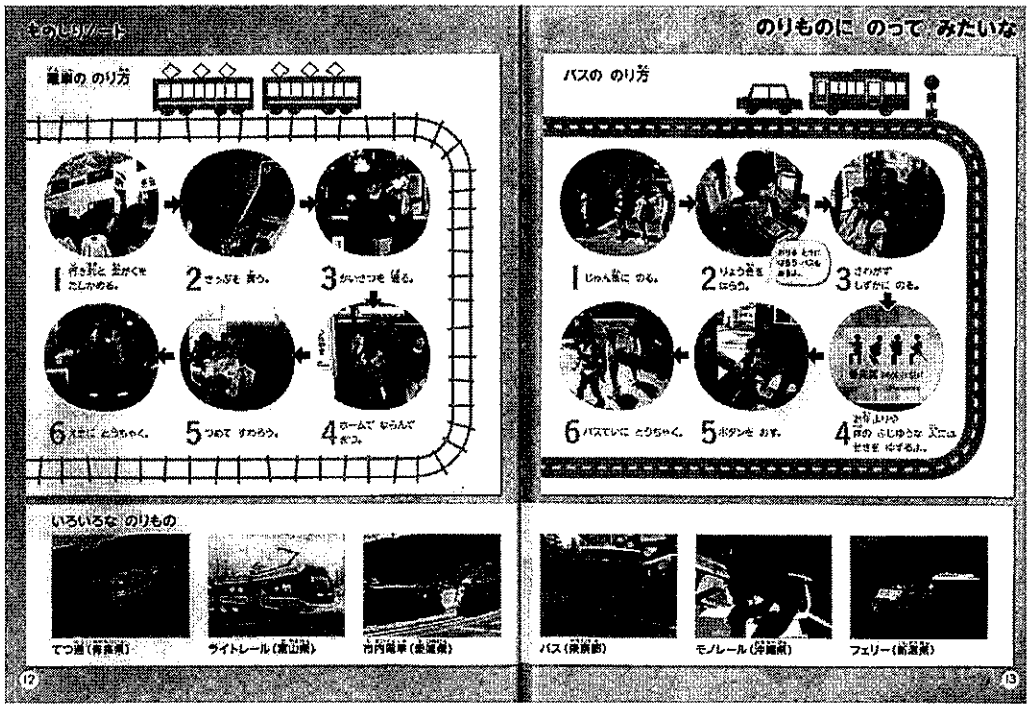
第3章 八戸市における社会科学習目標・内容等の整理・検討

本章では、八戸市の小学校教育において、現時点でどのように「交通」が取り扱われているのかを把握するために、市立小学校で採用されている生活科・社会科の教科書（東京書籍／現学習指導要領）、及び３・４年生の社会科の副読本（八戸市小学校社会科教育研究会編／現学習指導要領）から「交通」に関する記載がある箇所を抽出した。

なお、主要な部分は第２章の第１回八戸らしいモビリティ・マネジメント教育ワーキンググループの資料で整理している。

1. ２学年（生活科）での取扱い

生活科では、２学年（せいかつ下）の「町のすてき大発見」の単元において、「町たんけん」の中で電車やバスの乗り方が紹介されている。



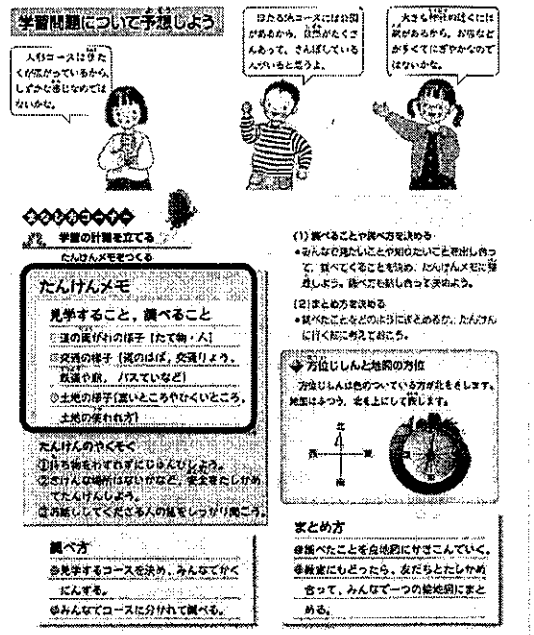
2. ３学年（社会科）での取扱い

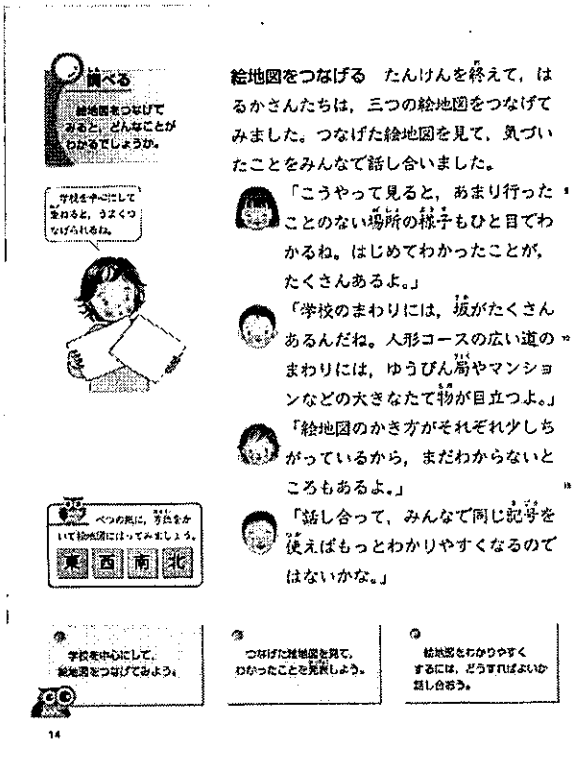
３学年の社会科では「わたしたちのまちみんなのまち」において「学校のまわり」を調べるさいに、周辺の交通の様子（道の幅、交通量、鉄道や駅、バス停など）をとらえるよう例示されている。また「市の様子」では、土地の様子や使われ方、建物の様子、人の様子、交通の様子を調べてまとめる際に、駅な港などが例示されている。

①わたしたちのまちみんなのまち／学校のまわり（教科書）

学習問題をつくる　はるかさんたちは，学校を中心にして学校のまわりの様子を調べるコースを考え，白地図にかきこみました。

また，みんなで見たいことや知りたいことを話し合って，学習問題をつくりました。





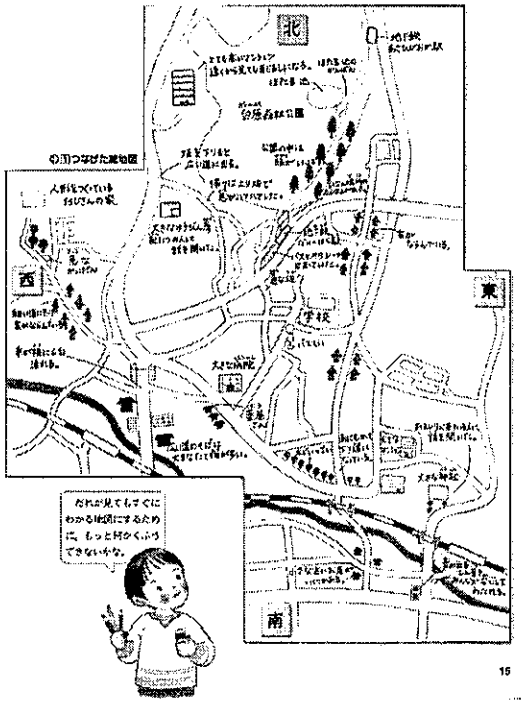
絵地図をつなげる　たんけんを終えて，はるかさんたちは，三つの絵地図をつなげてみました。つなげた絵地図を見て，気づいたことをみんなで話し合いました。

「こうやって見ると，あまり行ったことのない場所の様子もひと目でわかるね。はじめてわかったことが，たくさんあるよ。」

「学校のまわりには，坂がたくさんあるんだね。人形コースの広い道のまわりには，ゆうびん局やマンションなどの大きなたて物が目立つよ。」

「絵地図のかき方がそれぞれ少しちがっているから，まだわからないところもあるよ。」

「話し合って，みんなで同じ記号を使えばもっとわかりやすくなるのではないかな。」



②わたしたちのまちみんなのまち／市の様子（教科書）

まとめる
調べたことをもとに、市の様子をまとめてみましょう。

・学習問題をかくにんしよう。
・予習に出てきた❶❷❸を使ってみよう。

？問い
わたしたちの市には、どのような場所があり、それぞれどのような様子なのでしょうか。

❶❷❸
・交通　・畑
・ニュータウン
・田園　・森林

・市のさまざまな場所の様子を、表に整理しよう。
・調べた場所と学校のまわりの様子をくらべよう。

30

市の様子をまとめよう　けんさんたちは、調べた場所の様子について、みんなで話し合いました。

そして、それぞれの場所の様子について気づいたことを整理して、表にまとめることにしました。

「場所によって、たて物の様子や交通の様子がちがっていたね。」

「人の様子や土地の様子にもちがいがあったよ。」

「それぞれの場所ごとに、表にまとめてみようよ。」

それぞれの場所を、さまざまな様子に分けて整理するとわかりやすいね。

	土地の様子	たて物の様子	人の様子	交通の様子
住宅街のまわり	・平らな土地が多い。 ・少しはなれると、畑もゆたか。	・高いビルが目立つ。 ・店や公共しせつがたくさんある。	・仕事や買い物に来る人が多い。	・広い道路が多い。 ・鉄道がたくさん通っている。
工業地のまわり	・海の近くて土地がかくい。	・大きな工場がたくさんある。	・港や工場ではたらく人が多い。	・船が入る港がある。 ・かもつ列車が通っている。 ・近くに高速道路がある。
ハーバータウンのまわり	・小高い場所にある。	・家が集まってたっている（ニュータウン）。 ・大きな団地がある。 ・大きなショッピングセンターがある。	・住たくが集まっているところに人が多い。 ・ショッピングセンターなどに買い物に来る人もいる。	・車が多い。 ・近くに高速道路がある。
浅水川にそった場所	・川が流れている。 ・平らな土地が広がり、田や畑が多い。	・たて物のほとんどが住たく。	・人のすがたが少ない。	・鉄道が多い。
[illegible]	・山が多く、森林が多い。 ・川が流れている。	・旅館やホテルがたくさんある。	・かん光客が多い。	・道路はあまりない。

❶けんさんたちがまとめた表

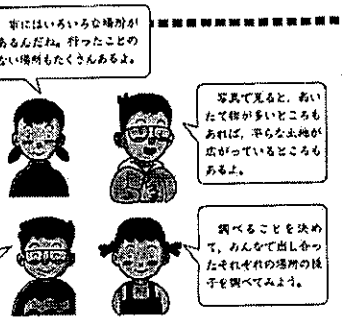
37

③わたしたちのまちみんなのまち／市の様子（八戸市副読本）

学習の進め方

学習問題をつくり、学習の進め方をかくにんしよう。

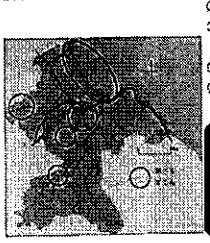
つかむ
気づいたことや思ったことをみんなで話し合い、学習問題をつくろう。



みんなでつくった学習問題

わたしたちの市には、どのような場所があり、それぞれどのような様子なのでしょうか。

○本八戸駅のまわりは、人もたて物も多いと思う。
○八戸港には、船がたくさんとまっているのではないか。
○浅水川にそった場所は、平らな土地が広がっているのではないか。
○八戸ニュータウンには、住宅が集まっているはず。
○蓮の駅「なんごう」のまわりは、自然がゆたかなのではないか。



調べること
○土地の様子や使われ方
○たて物の様子
○人の様子
○交通の様子（列車やバス、道路や車のりょう）

20

調べる
見たいこと、知りたいことを整理して調べよう。

調べ方　みんなで協力して調べよう。
○じっさいに行って調べる（見学、かんさつ、体けん、インタビューなど）。
○図書館をりょうしてしりょうを集める。
○インターネットを使ってしりょうを集める。
○手紙を書いて、ほかの学校や市役所の人などに質問する。

○○小学校　3年生のみなさま

わたしたちは、市の様子を調べています。同じ市でも、○○小学校のある地いきの様子はわかりません。学校のまわりの様子を教えてください。

（しつもん）
①港が近くにあるそうですね。まわりの様子を教えてください。
②港のちかくにある工場では、どんなものがつくられていますか。わたしたちの学校のある地いきの様子について、しつもんがあったら手紙をください。

○○小学校3年○組　○○より

❶ほかの学校に送る手紙のれい

まとめる
○調べたことを整理して、わかったことや考えたことをまとめてみよう。
○友だちと話し合ったり、まとめたりするときは、❶❷❸をヒントにしよう。

まとめ方
◆調べたことを、ノートやカード、表などにまとめよう。
◆わかったことだけでなく、考えたことも書くようにしよう。

いかす
○まとめたら、もっと知りたいことや、調べてみたいことを話し合って、これからの学習にいかしたり、だれかにつたえたりしてみよう。
○学習したことをもとに、ほかの学習にも目を向けよう。

21

まとめる

市の様子をまとめよう　けんさんたちは，調べた場所の様子について，みんなで話し合いました。

そして，それぞれの場所の様子について気づいたことを整理して，表にまとめることにしました。

・学習問題をかくにんしよう。
・学習に出てきたことばを使ってみよう。

学習問題
わたしたちの市にはどのような場所があり，それぞれどのようなようすなのでしょうか。

ことば
交通
港
ニュータウン
田畑
高林

市のさまざまな場所の様子を，表に整理しよう。

調べた場所と学校のまわりの様子をくらべよう。

「場所によって，たて物の様子や交通の様子がちがっていたね。

「人の様子や土地の様子にもちがいがあったよ。」

「それぞれの場所ごとに，表にまとめてみようよ。」

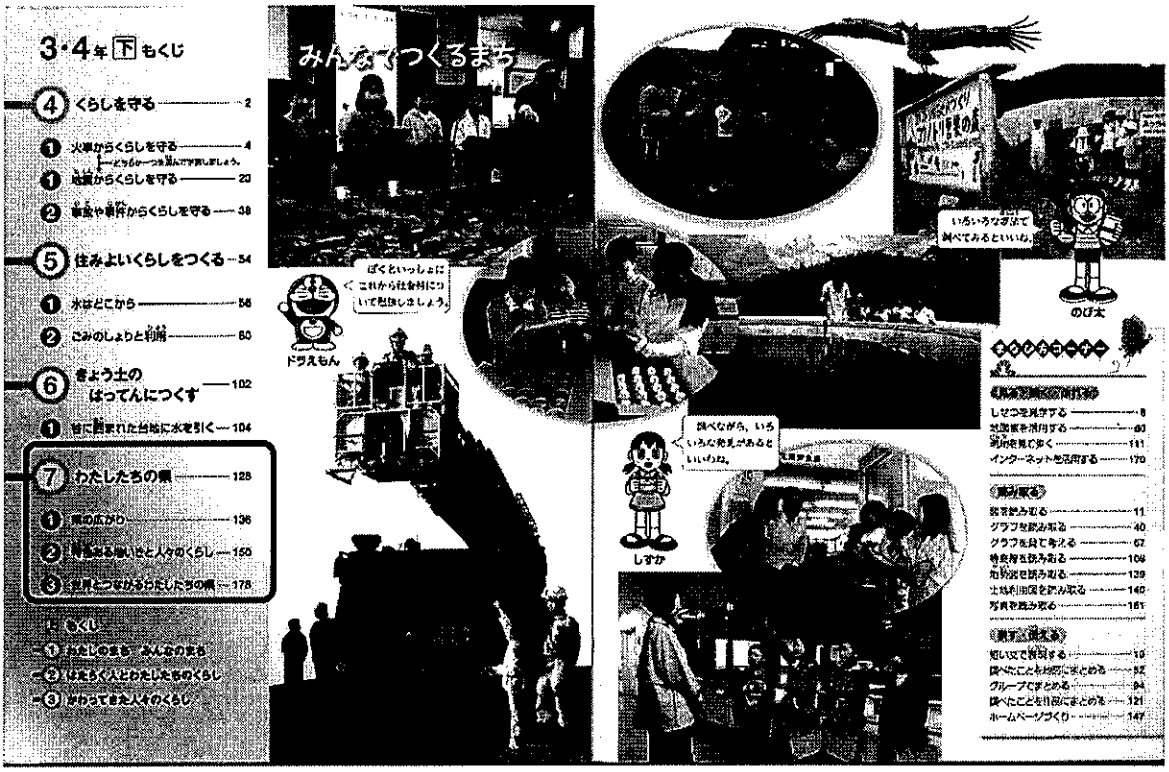
それぞれの場所をさまざまな様子に分けて整理するとわかりやすいね。

場所	土地の様子	たて物の様子	人の様子	交通の様子
木八手駅のまわり	・城あとのまわりは小高い丘になっている。 ・駅のまわりは平らでひろい。	・お寺のあとや古いたてものがある。 ・市役所など公共しせつがたくさんある。	・仕事や買い物に来る人が多い。	・鉄道や道路がのびている。
[illegible]	・海の近くで土地がひくい。 ・海岸線がまっすぐになっている。	・大きな工場がたくさんある。	・港や工場ではたらく人が多い。	・船が入る港がある。 ・かもつ列車が通っている。
ハチミュータウンの「まわり」	・小高い場所にある。	・家が集まってたっている。（ニュータウン） ・ショッピングセンターがある。	・住宅が集まっているところに人が多い。 ・ショッピングセンターなどに買い物に来る人もいる。	・近くに高速道路がある。
長沢川にそった場所	・川が流れている。 ・平らな土地が広がり，田や畑が多い。	・たて物のほとんどが低たく。	・人のすがたが少ない。	・舗道が多い。
高の原小学校のまわり	・山が多く，森林が多い。	・ショッピングセンターや駅，公園，野球の運動場がある。	・かん光客が多い。	・高速道路のインターチェンジが近くにある。

↑ けんさんたちがまとめた表

3.　４学年（社会科）での取扱い

４学年の社会科では「わたしたちの県」において「県のひろがり」を調べるさいに、県内の交通の広がるを調べる箇所がある。また「世界とつながるわたしたちの県」においても、新幹線が例示されている。



①わたしたちの県／県のひろがり（教科書）

調べる

県内の交通は，どのように広がっているのでしょうか。

◎①神戸市の様子　観光のまちである神戸には，高かん線，そのほかの鉄道，バスなどが集まります。

◎②県内の主な道路と鉄道の広がり

- 県内の主な道路や鉄道の広がりを調べよう。
- 港や空港の位置を地図帳でたしかめよう。
- 陸・海・空の交通の広がりについて話し合おう。

144

交通の広がり　けんさんたちは，兵庫県内の交通の広がりを調べ，道路・鉄道・港・空港について，わかったことを話し合いました。

「神戸や姫路など，主な都市が南部に多く，交通が発達しているね。」

「中国自動車道や山陽自動車道があり，県の東西の移動が便利です。」

◎③神戸空港

◎④神戸港

「播但れんらく道路は，県の南北の都市を結ぶ大切な道路です。」

「神戸淡路鳴門自動車道によって，淡路島とも結ばれているね。」

「新かん線で，東は大阪府や東京都，西は広島県や鹿児島県へ行けます。」

「神戸に港や空港があって，船や飛行機で，愛媛県，大分県，沖縄県，北海道などと結ばれています。」

交通

交通は，人やものを運ぶための大切な働きです。多くの人やものが集まる都市には，多くの交通路が集まって，人やものの動きをささえています。

- 県庁所在地の神戸市には，新かん線，高速道路，港，空港などが集まっています。
- 両都の都市を中心に，交通に交通が発達しています。

◎⑤けんさんたちのまとめ

②わたしたちの県／県のひろがり（八戸市副読本）

◎県内の主な道路と鉄道の広がり

◎空と海の交通のつながり

調べる

県内の交通は，どのように広がっているのでしょうか。

- 県内の主な道路や鉄道の広がりを調べよう。
- 港や空港の位置を地図帳でたしかめよう。
- 陸・海・空の交通の広がりについて話し合おう。

136

交通の広がり　あやさんたちは地図帳などを見て，青森県の道路・鉄道・海・空の交通の広がりについて調べ，わかったことを話し合いました。

「道路や鉄道は人口が多いところに集まっているね。」

「青森や八戸などの大きな市には新幹線や高速道路が通っています。」

「青函トンネルで本州と北海道がつながっているね。」

「2016年3月に新かん線が北海道までつながりました。」

◎東北新かん線

◎青森港

◎東北自動車道

◎青森空港

「青森空港があり，飛行機で北海道，東京都，愛知県，大阪府などと結ばれています。」

「青森港や八戸港には，ＬＰガスや鉄鉱石などのいろいろな物資が外国から運ばれてきます。」

「さまざまな交通によって，いろいろなところとつながっているんだね。」

ことば

交通

交通は，人やものを運ぶための大切なはたらきです。多くの人やものが集まる都市には，多くの交通路が集まって，人やものの動きをささえています。

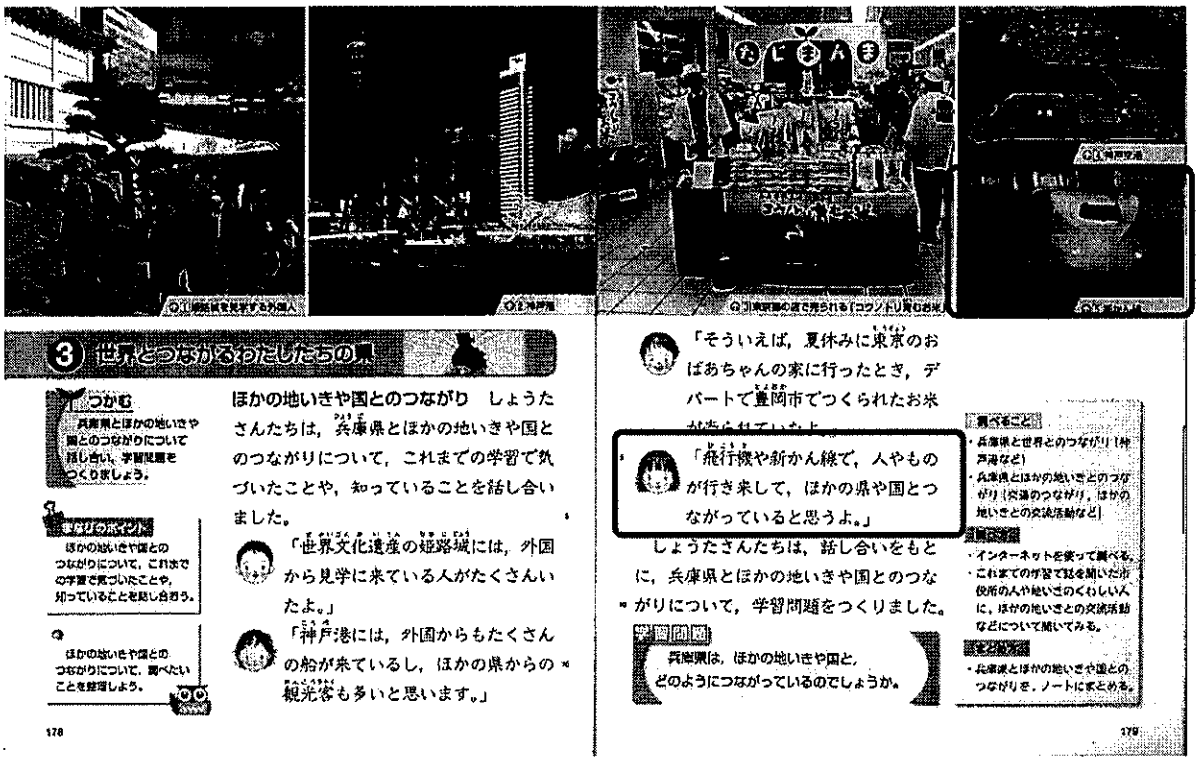
交通

- 県庁所在地の青森市には，新幹線，高速道路，港，空港などが集まっています。
- 青森市や八戸市などは，さまざまな交通によって，県内や県外の各地とつながっている。

◎あやさんたちのまとめ

137

③わたしたちの県／世界とつながるわたしたちの県（教科書）



3 世界とつながるわたしたちの県

つかむ
兵庫県とほかの地いきや国とのつながりについて話し合い，学習問題をつくりましょう。

まなびのポイント
ほかの地いきや国とのつながりについて，これまでの学習で気づいたことや，知っていることを話し合おう。

ほかの地いきや国とのつながりについて，調べたいことを整理しよう。

178

ほかの地いきや国とのつながり　しょうたさんたちは，兵庫県とほかの地いきや国とのつながりについて，これまでの学習で気づいたことや，知っていることを話し合いました。

「世界文化遺産の姫路城には，外国から見学に来ている人がたくさんいたよ。」

「神戸港には，外国からもたくさんの船が来ているし，ほかの県からの観光客も多いと思います。」

「そういえば，夏休みに東京のおばあちゃんの家に行ったとき，デパートで豊岡市でつくられたお米が売られていたよ。」

「飛行機や新かん線で，人やものが行き来して，ほかの県や国とつながっていると思うよ。」

しょうたさんたちは，話し合いをもとに，兵庫県とほかの地いきや国とのつながりについて，学習問題をつくりました。

学習問題
兵庫県は，ほかの地いきや国と，どのようにつながっているのでしょうか。

調べること
・兵庫県と世界とのつながり（神戸港など）
・兵庫県とほかの地いきとのつながり（交通のつながり，ほかの地いきとの交流活動など）

調べかた
・インターネットを使って調べる。
・これまでのが習で話を聞いた市役所の人や地いきのくわしい人に，ほかの地いきとの交流活動などについて聞いてみる。

まとめかた
・兵庫県とほかの地いきや国とのつながりを，ノートにまとめる。

179

4.　５学年（社会科）での取扱い

５学年の社会科では「わたしたちの生活と環境」において「環境を守るわたしたち」の中で、廃油から精製したBDF（Bio Diesel Fuel）で運行しているバスが紹介されている。

5年下もくじ

③ わたしたちの生活と工業生産 ―2
❶ 工業生産と工業地域 ―4
❷ 自動車をつくる工場 ―10
❸ 工業生産を支える ―36
❹ これからの工業生産とわたしたち ―48
④ 情報化した社会とわたしたちの生活 ―58
❶ 情報産業とわたしたちのくらし ―60
❷ 社会を変える情報 ―78
❸ 情報を生かすわたしたち ―92
⑤ わたしたちの生活と環境 ―100
❶ わたしたちの生活と森林 ―102
❷ 環境を守るわたしたち ―114
❸ 高度成長を続く ―128
もくじ
① わたしたちの国土
② わたしたちの生活と食料生産

ドラえもん

これからも新しい発見がたくさんあるから、楽しく学習しようね。

くらしを支える

学びのしかた ―15
インターネットを活用する ―94
年表のしかた ―119
グラフの読み方 ―6
グラフを比べる ―63
特ちょうをとらえる ―66
分類して考える ―67
ノートにまとめる ―70
新聞にまとめる ―85
意見にまとめる ―112

❶使い終わった天ぷら油の処理

❷天ぷら油リサイクルのキャラクター

❸京都市で回収した、使い終わった天ぷら油の量の変化

❹全リサイクルされた油で走るバス

❺京都市で使い終わった油を回収する場所の数の変化

調べる

環境を守るために市民はどのような取り組みをしているのでしょうか。

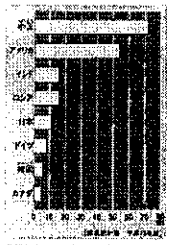
環境をもっとよくするために　りょうたさんたちは，京都市や市民が取り組んでいる活動について，さらに調べてみました。

「家庭で使い終わった天ぷら油など食用油を回収しています。その食用油で走っているバスがあると聞きました。」

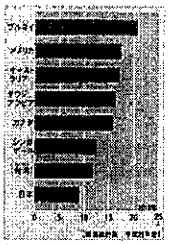
「そのままでは使えないので，加工してディーゼル燃料にしています。バスだけではなく，ごみ収集車にも使われているそうです。」

「市民の協力によって，しだいに回収場所の数が増えてきています。」

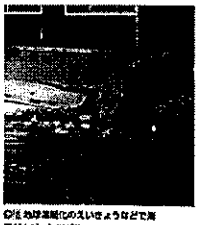
食用油の回収が始まったきっかけは，1997（平成9）年に京都市で開かれた，地球温暖化を防止するための国際会議でした。この会議では，世界に向けて「京都議定書」が発信されました。



❶各国の二酸化炭素排出量



❷各国の一人当たりの二酸化炭素排出量



❸地球温暖化のえいきょうなどで高波が上がったツバル

❹国内の二酸化炭素の排出される主な場所

「世界じゅうでこれ以上地球温暖化が進まないように，二酸化炭素の排出を減らす取り組みがされています。」

「国どうしの話し合いだけではなくて，わたしたち一人ひとりの努力も必要です。」

「走行時に二酸化炭素を排出しない電気自動車が，もっと広まればいいと思います。」

これからの世界は，京都議定書の取り決めをもとに，さらに二酸化炭素の排出を減らす方向に進んでいます。環境をよくするためには，わたしたちをふくめた社会全体の協力が求められているのです。

京都議定書　地球温暖化によって，大気や海水温が少しずつ上がり，海面に大きなえいきょうがあらわれています。世界じゅうの人々で協力して地球温暖化を防ぐために，まとめられた文書です。

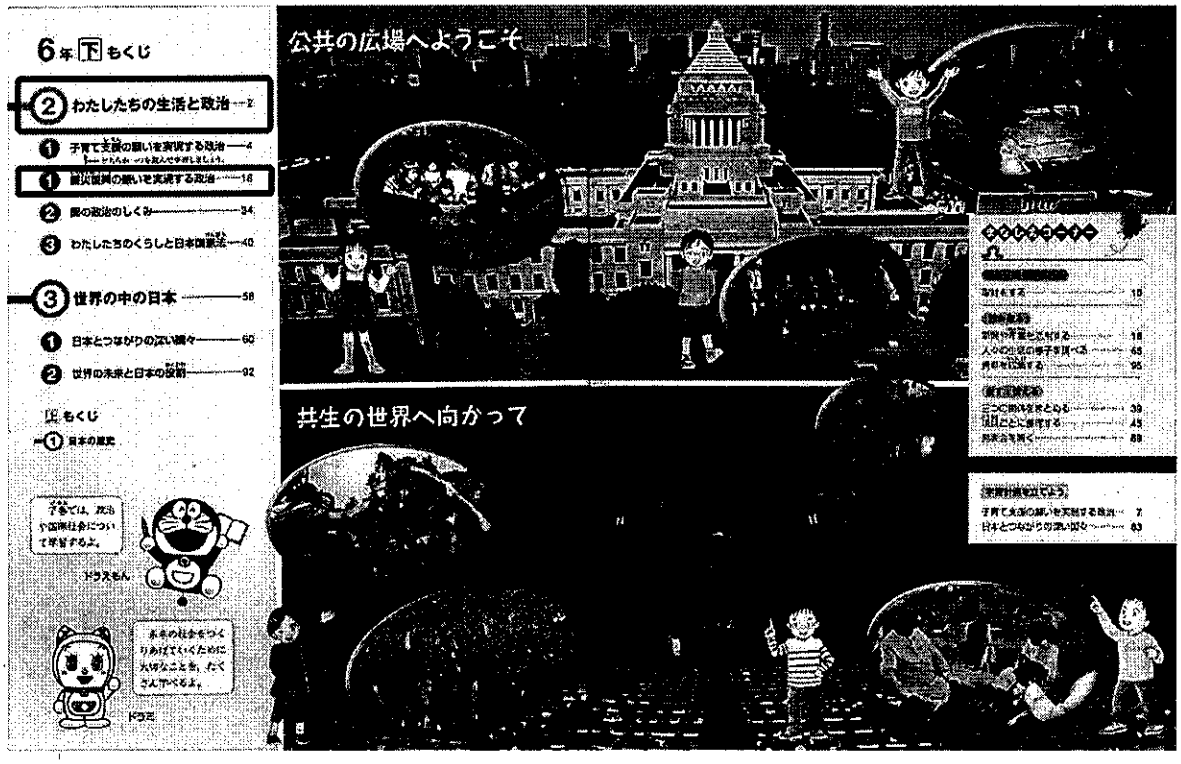
❺窓辺のカーテン（仮称）

まどの外に植えた植物で，日光がさえぎられます。

家族の人々は，環境をよくするため市民みんなで協力していることがわかりました。
身近の環境を守るための人々の協力についてまとめましょう。

5.　６学年（社会科）での取扱い

６学年の社会科では「わたしたちの生活と政治」において「震災復興の願いを実現する政治（子育て支援の願いを実現する政治、との選択制）の中で「ひろげる」の枠組みで、富山市の路面電車でまちを元気にする事例が紹介されている。



路面電車でまちを元気に

ゆいさんたちは，富山県富山市のまちづくりについて調べ，みんなで発表することにしました。

「富山市には，ライトレールという路面電車があります。」

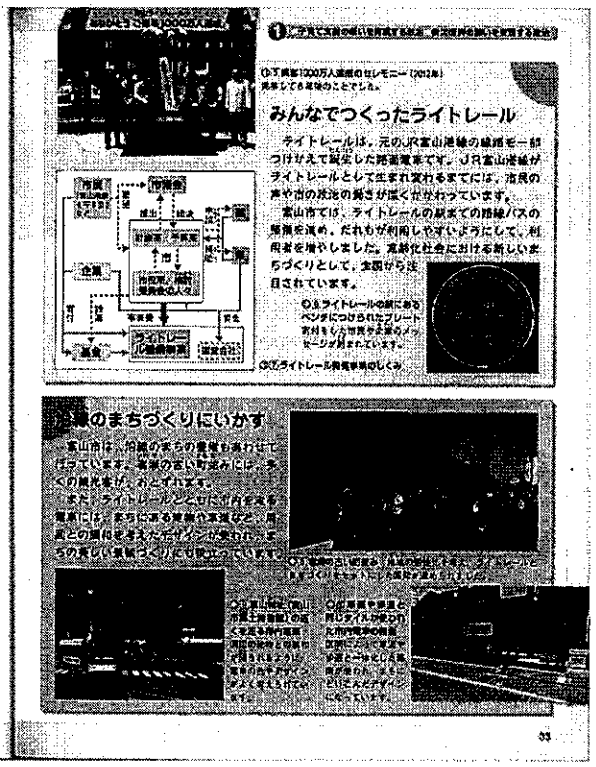
「1日に4000人以上の人が利用する，大切な公共の交通機関です。」

「ライトレールを降りると，すぐに乗り換えできるバスがあるね。」

「ライトレールは，どのようにしてつくられたのかな。」

ライトレールをつくる前に

利用者数が減ってきたJR富山港線は，廃止となりました。しかし，富山市では高齢化が進んでいて，若年者りを中心に，自動車を自由に使えない人の割合が増えています。だれもが生活しやすいまちづくりには，気軽に利用できる公共の交通機関が必要でした。



みんなでつくったライトレール

ライトレールは，元のJR富山港線の線路を一部つけかえて誕生した路面電車です。JR富山港線がライトレールとして生まれ変わるまでには，市民の声や市の熱意の強さが深く関わっています。

富山市では，ライトレールの駅までの市内バスの整備を進め，だれもが利用しやすいようにして，利用者を増やしました。高齢化社会における新しいまちづくりとして，全国から注目されています。

未来のまちづくりにいかす

第4章 新学習指導要領における学習目標・内容等の整理・検討

本事業では、「MM教育、公共交通を教材とした授業を現場の先生に行ってもらう」ことを目標としている。その目標達成に向けては「授業編成・授業の内容を考える上での根本」を正確に把握した上で、それに沿った形での研究授業を検討することが重要である。この「授業編成・授業の内容を考える上での根本」が小学校学習指導要領である。

そこで、本章では、令和2年4月から全面実施となる「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）：通称、新学習指導要領」について、その基本的な構造を把握すると共に、「交通」に関連する項目が、どのように位置づけられているかを把握し、「MM教育を授業で実施するには、どの学年・どの単元が適切なのか＝教育現場に普及しやすいのか」を検討する際の基礎資料を整理する。

1. 新学習指導要領のポイント

文部科学省では、学習指導要領を以下のように説明している。

◆学習指導要領
・全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省が定めるもの。
・学校教育法等に基づき、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準となる。

◆学習指導要領の構成
・教育課程全般にわたる配慮事項や授業時数の取扱いなどを「総則」で定め、各教科等のそれぞれについて、目標、内容、内容の取扱いを大まかに規定している。

出典：文部科学省 HP　https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/idea/1304372.htm（一部修正加筆）

また、学習指導要領は、おおむね 10 年に一度改訂されていおり、これまでの大まかな変遷の特徴は以下のとおりである（出典：同上）。

○ 昭和 33～35 年改訂
教育課程の基準としての性格の明確化（道徳の　時間の新設、系統的な学習を重視、基礎学力の充実、科学技術教育の向上等）

○ 昭和 43～45 年改訂
教育内容の一層の向上（「教育内容の現代化」）（時代の進展に対応した教育内容の導入（算数における集合の導入等））

○ 昭和 52～53 年改訂
ゆとりのある充実した学校生活の実現 ＝学習負担の適正化（各教科等の目標・内容を中核的事項にしぼる）

○ 平成元年改訂
社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成（生活科の新設、道徳教育の充実等）

○ 平成 10～11 年改訂
基礎・基本を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成（教育内容の厳選、「総合的な学習の時間」の新設等

一方、今回の改訂、新学習指導要領のねらいは次のように整理されている（出典：小学校学習指導要領（平成29年3月公示）解説）。

◆学習指導要領改訂のねらい

①教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでのわが国の学校教育の実績や蓄積を生かし、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指すこと。その際、子どもたちに求められるし資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視すること。

②知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する平成20年改訂の学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成すること。

③先行する特別教科化など道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成すること。

これを踏まえ、他の書籍による解説なども参考にしつつ、特に学習指導要領の理念的な位置づけである「総則」について、改訂のポイントを整理した。

総則における改訂のポイント：全体的な話

Keyword	ポイント・留意点
社会に開かれた教育課程	学校教育を通じて**よりより社会を創るという目標を学校と社会が共有**し、**各学校において**、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、**社会との連携・協働によりその実現を図っていく**ことを目指す。（関連：第1章総則／第２教育課程の編成／１）
カリキュラム・マネジメント	特に下記2つ。 ①**各教科等の教育内容を相互の関係で捉え**、学校教育目標を踏まえた**教科等横断的な視点**で、その**目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列**していくこと。 ②教育内容と、教育活動に必要な**人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせ**ること。（関連：第1章総則／第１小学校教育の基本と教育課程の役割／４）
教科間等のつながり	・子どもたちに必要な資質・能力がバランスよく育まれるよう、**学校等段階間や教科等間の接続を図った教育課程編成**について明記。（関連：第1章総則／第１小学校教育の基本と教育課程の役割／４） ・教科横断的な教育課程編成により、**現代的な諸課題に対応**できる資質・能力を育成する。（関連：第1章総則／および第２教育課程の編成／２）

端的に言えば（第１回ワーキンググループの新保座長の補足にもあるとおり）「よりよい社会を創るという目標」を「学校と社会が共有」し、人的・物的資源等を学校内のみに求めず、地域や社会と連携しながら授業を充実させること、その際、教科間・学年間の横断的な授業編成（カリキュラム・マネジメント）を通じて、教育全体の質を上げること、が求められている。

2. 新学習指導要領における社会科の「内容」にみる「交通」

前節では、学習指導要領の基本的な意義や今回の改訂のポイントを整理したが、理念や「総則」は大綱的なものであり、教科等の個別具体的な内容を把握する必要がある。そこで、これまでの事例（第5章参照）からもわかるとおり、MM教育との親和性が高い「社会科」における学習指導要領の「内容」および「内容の取り扱い」において、「交通」やこれに関連する項目がどのように記載されているかを把握した。

3学年

★以下、青字・太字は、改訂された箇所／下線部は特に交通に関する箇所

【内容（1）-イ-（ア）】
都道府県内おける市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子をとらえ、場所による違いを考え、表現すること。

【内容（4）-イ-（ア）】
交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子をとらえ、それらの変化を考え、表現すること。

4学年

【内容（1）-イ-（ア）】
我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。

5学年

【内容（4）-ア-（イ）】
大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。

【内容の取扱い（4）-イ】
（上記については）情報や情報技術を活用して発展している販売、運輸、観光、医療、福祉などに関わる産業の中から選択して取り上げること。

以上、散見されるこれらの交通や運輸等のキーワードについて、より具体的に記載されている「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編」を参考に、その中身を把握する。

3学年

【内容（1）-イ-（ア）】
都道府県内おける市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子をとらえ、場所による違いを考え、表現すること。

交通の広がりに着目するとは…
・主な道路や鉄道の名称や主な経路などについて調べること
・調べたことを手掛かりに、身近な地域や市の様子を捉えることができるようにする。（解説p.36）

場所による違いを考え、表現することは…
・例えば、駅や市役所の付近（中略）など、場所ごとの比較をしたり、主な道路と工場の分布、主な駅と商店の分布など土地利用の様子と、交通などの社会的な条件や土地の高低などの地形条件を関連づけたりして、市内の様子は場所によって違いがあることを考え（略）（解説p.37）

【内容（4）-イ-（ア）】
交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子をとらえ、それらの変化を考え、表現すること。

・駅や道路などの交通網が整備されてきたこと（中略）と土地利用の様子や人口が変化してきたこと（中略）などを基に、市や人々の生活の様子の移り変わりについて理解する
・交通の時期による違いに着目するとは、市内の鉄道や主要な道路などが整備される前や整備された後の市の様子、及び現在の市の様子について調べることである。（解説p.45）

5学年

【内容（4）-ア-（イ）】
大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。

【内容（4）-イ-（ア）（イ）】
（ア）情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
（イ）情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

【内容の取扱い（4）-イ】
（上記については）情報や情報技術を活用して発展している販売、運輸、観光、医療、福祉などに関わる産業の中から選択して取り上げること。

情報の集め発信するまでの工夫とは…
・ニュースや天気情報、交通情報など多くの情報を収集し、意図をもって、分かりやすく伝えるよう編集・加工し（中略）インターネットなどの情報媒体を通して広く国民に伝えているし（中略）工夫や努力について調べること（解説p.89）

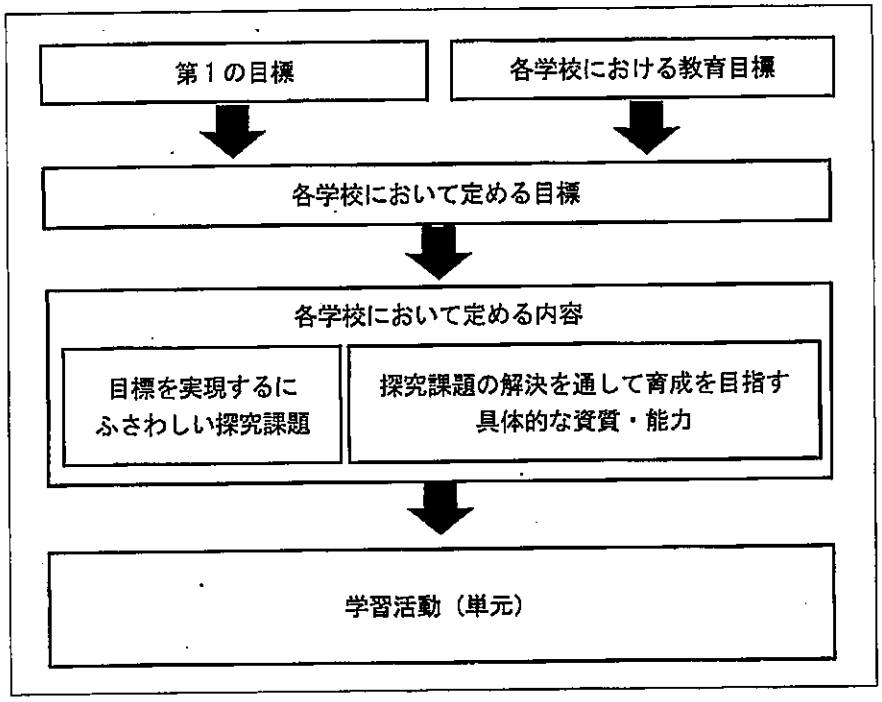
情報の種類に着目するとは…
・販売情報、気象情報、交通情報など産業が活用している情報の種類について調べること（解説p.89）

このような新学習指導要領に応じて、実際の新しい教科書がどのように構成されているのかは（本事業の工期内には新しい教科書を確認できないため）未だ不明であるが、次年度においては、この「内容・内容の取り扱い」と「教科書＝授業」の対応を踏まえた上でMM教育の研究授業内容を検討することが重要となる。

3. 新学習指導要領における総合的な学習の時間の「内容」にみる「交通」

総合的な学習の時間は、社会科と異なり学年ごとの具体的な内容が示されていおらず、新学習指導要領において総合的な学習の時間の「第１の目標」と、各学校が個別に定める科目を問わない全体的、理念的な「各学校における教育目標」にあわせて到達することを目指し、さらに下位の目標、総合的な学習の時間としての「各学校において定める目標」を設定している。そして、この目標に到達すべく各学校での内容を定め、具体な学習活動を計画・実施することになっている。

〈目標と内容と学習活動の関係〉



※出典：小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説／総合的な学習の時間編／文部科学省

以上を踏まえ、本節では、「第１の目標」を確認した上で、新学習指導要領の中で総合的な学習の時間において満たされるべき「課題設定の三つの要件」を整理する。そして、この要件を満たす対象・分野として例示されているものと、「交通」の関連性について示す。

第１の目標と課題設定の三つの要件

【第１の目標】
探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）探求的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
（２）実社会や実生活の中から問を見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
（３）探求的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

この『第１の目標』と『各学校における教育目標』、『各学校において定める目標』を達成するために、どんな課題を扱うのがいいのか？

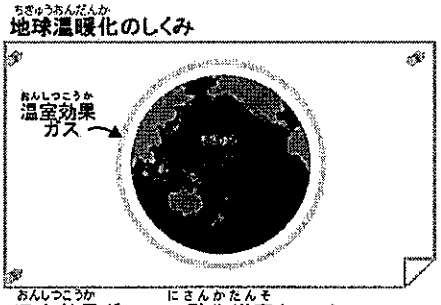
【課題設定の三つの要件】
（１）探求的な見方・考え方を働かせて学習することがふさわしい課題であること
（２）その課題をめぐって展開される学習が、横断的・総合的な学習としての性格をもつこと
（３）その課題を学ぶことにより、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくことに結び付いていくような資質・能力の育成が見込めること

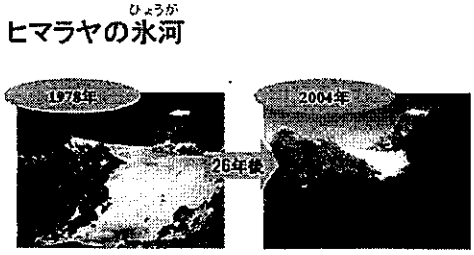
例えば・・・・

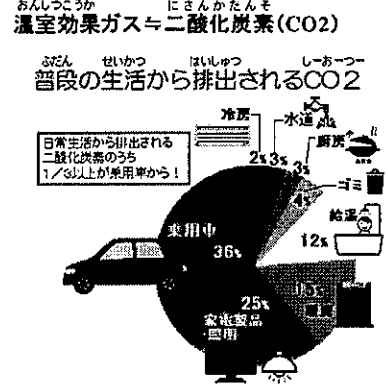
・国際理解、情報、環境、福祉、健康などの現代的な諸課題
・地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題

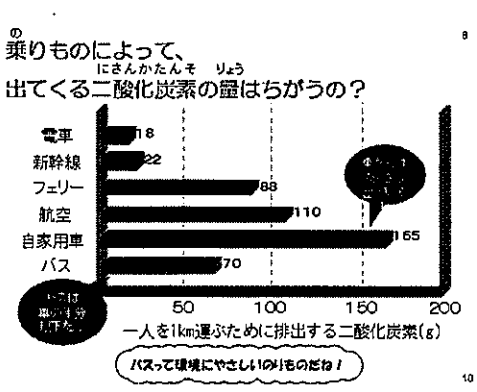
『公共交通・バス』という教材は、多様な切り口があり、これらの課題に多面的に適合できる！例えば…

公共交通を「環境」から捉える



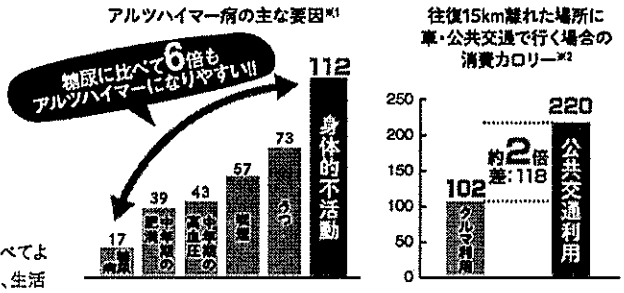






公共交通を「福祉」から捉える

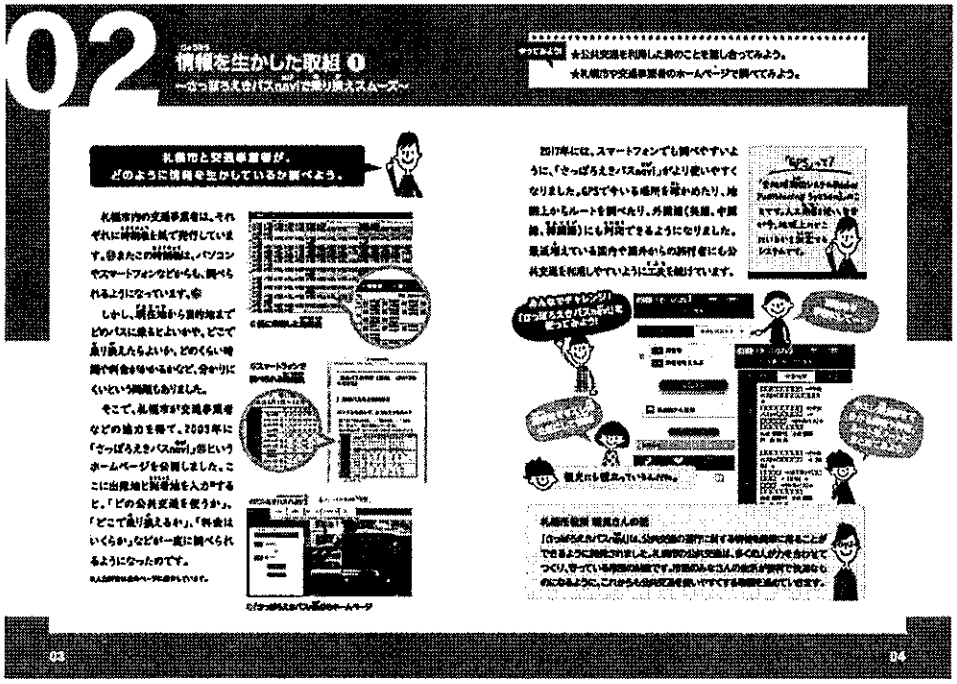
公共交通を「健康」から捉える



バスを使って健康に！

健康の基本は「よく身体を動かすこと」。
例えばアルツハイマーの最大の原因は運動不足です。
また、肥満や高血圧も大きな要因となっています。バスは車に比べてよく歩くので、消費カロリーが2倍になります！アルツハイマー、肥満、生活習慣病・・・バスに乗る機会を増やすだけで自然と改善できるかも！

以上のとおり、総合的な学習の時間において推奨されている課題設定「国際理解、情報、環境、福祉、健康などの現代的な諸課題」「地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題」を踏まえると、環境、福祉、健康、地域の人々の暮らしといった多様な側面から学習を深めることができる「交通」は、探究課題の素材・教材として有用であると考えられる。また、札幌市で令和２年度から５学年社会科で取り扱う「情報」については、総合的な学習の時間との親和性も高く、いずれにしても「交通」の教材としての価値は高いものと思われる。



なお「総合的な学習の時間」でMM教育を実施することの意義については、平成26年度に小学校教諭が学ぶ場「冬期講習会／総合的な学習研究会」で話題提供した際にも先生方から評価・確認されている。

・時期：平成26年度冬期講習会
・講師：伊地知・関下
・内容：「学校教育における公共交通学習の必要性」
・評価3.5（最高4.0）

先生方からの視点で…

●広がりのある教材として評価！ [redacted]

・環境教育や公共のマナーなどへの応用、広がりということができるのはいいことだ。

・環境を守る視点からのアプローチが重要だと考えさせられた。

・様々な方向からのアプローチで総合の授業が充実すると感じた。

・公共交通学習は自分の将来を見据え、地域活性化、社会、環境等を子どもたちに考えさせる良い教材だと思う。

・八戸のことについて学ぶために、公共交通学習を利用してみるのもよいと思った。

・八戸の未来を考えた時、交通弱者、街づくりの視点から車社会を見直すことの必要性を感じた。

・平成２６年度に社会科見学で利用させてもらった。とてもありがたかった。冬休み前に児童が「長根リンクにバスで行く。」と張り切って言っていた。効果が早速出ているのを感じる。

・学校で１日乗り放題チケットを利用して市内見学をした６年生は良い学習をしたと思う。

・現代における公共交通機関、特に路線バス利用者の減少は目を見張るものがある。

・バスを利用したことのない児童が年々増えていることは実感していた。そのため、道徳の時間でも「席を譲る」という話題に対して実感がない。バスの利用について子どもたちと学びたい。

・公共交通学習の必要性、MM教育という新しい学習について初めて知って、とても参考になった。

・バスという公共交通をもとに町づくりや環境の学習へと広げられる授業スタイルを知ることができてとてもいい勉強になった。

・出前講座を依頼し、子どもたちに体験させたい。

・「総合」で地域や環境学習に取り組んでいるので、ぜひ「モビセン」の方にもご協力いただいて体験的な学習を組みたい。

・生活科で授業してもらいたい。今後、検討する。

・八戸の学習として３・４年生でも取り上げてみることができそうだ。調査等の活動で利用できそう。

・モビセンと学校のねらいとすることが合致したらどんどん活用するべき。

・MM教育は小学校から必要である。このような教材をどんどん推進したい。

・可能性がいろいろあると思うので、今後も活用させていただきたい。

・大人の問題は子どもからというのはよくわかる。忘れないで大きくなってほしい。

第5章 他地域事例の整理・学習

MM 教育、交通環境学習は約 20 年をかけて国内で進化・普及してきている。本章では、特に八戸市と同様に（公財）交通エコロジー・モビリティ財団の自治体支援事業を活用した地域の中から、八戸での MM 教育実践において参考になると思われる事例についてとりまとめる。

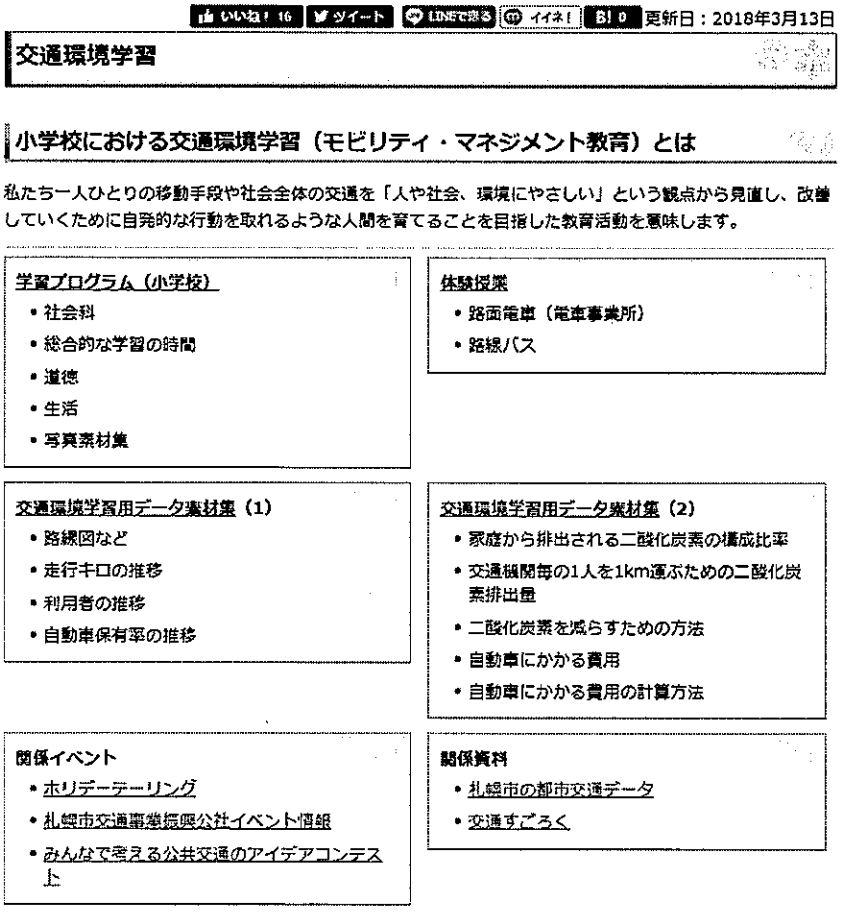
1. 北海道札幌市の事例

札幌市では、平成 23 年度から同事業を活用し、小学校全学年を対象とした研究授業（社会・総合的な学習）を実施した上で、科目・単元と MM 教育の親和性、それを担保とした現場での普及の可能性を踏まえた上で、「3 学年・社会科・市の様子の移り変わり」での実施・普及を目指し、副読本の作成、札幌市教育委員会が編纂する「教育指導書」への掲載などを行っている。

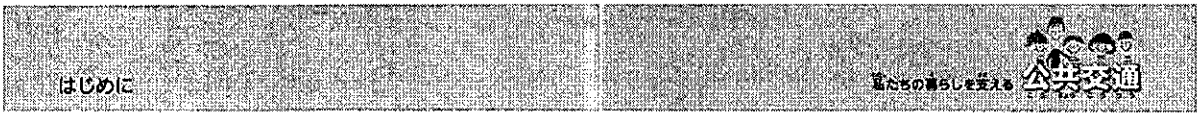
公共交通を学べる副読本の作成に留まらず、先生が指導・授業をつくる上で参考となる指導計画案、指導を根拠づける教育指導書への掲載、研究授業の積み重ね、その成果のフィードバック・共有の場としての検討会の継続、「札幌らしい交通環境学習フォーラム」の開催など、現場での普及に向けて多角的に取り組んでいる国内トップクラスの取組みである。

なお、令和 2 年度からは新学習指導要領への対応として 3 学年・社会科で時間を 2 時間に拡充するよう内容を充実させ、さらに「5 学年・社会科・情報」でも MM 教育を実現すべく、副読本・指導書を作成している。

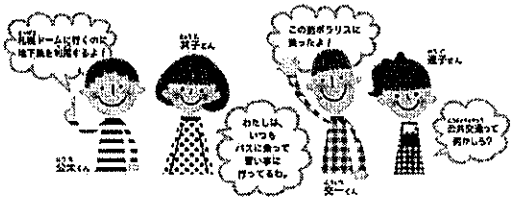
◆交通環境学習をサポートする豊富な資料・データ（札幌市 HP）

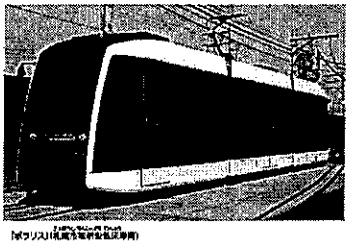


◆副読本



1 公共交通ってなんだろう




「ボラリス」（札幌市電中央線車両）

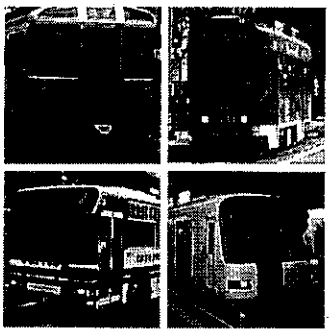
わたしたちが普段、移動するときに使う乗り物には、どのようなものがあるでしょう。

だれでも利用できる乗り物のことを公共交通と言います。

札幌市には、おもに、地下鉄、バス、路面電車、鉄道などの公共交通があり、いつでも、どこへでも行くことができます。

公共交通は、わたしたちのくらしにかかせないものです。みなさんは、どの公共交通にどのくらい乗ったことがあるでしょうか。

2 札幌市の公共交通



わたしたちがくらす札幌市は、約190万人が住む大都市です。

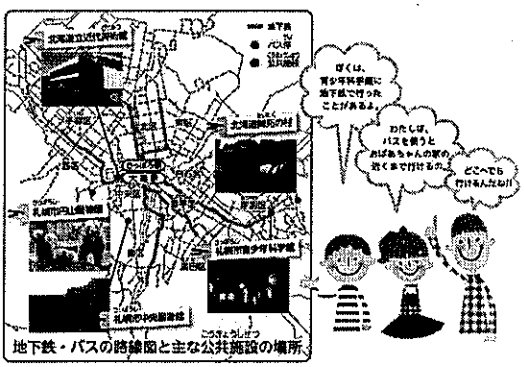
そのような札幌市で、子どもからお年寄りまで、たくさんの人が移動するのに便利な乗り物が公共交通です。

地下鉄、バス、路面電車、鉄道の4種類の公共交通がある都市は、札幌市のほかには、東京都・京都市・大阪市の3都市しかありません。札幌市は、日本の中でも移動しやすく、くらしやすいまちということができます。

みなさんは、公共交通とわたしたちのくらしの関係を考えてみたことがありますか。札幌市がくらしやすいといわれる理由を、この副読本を使って考えていきましょう。

公共交通とわたしたちのくらしの関係を考えてみよう。

1 札幌市に公共交通があると、どんなよいことがあるのだろう？



地下鉄・バスの路線図と主な公共施設の場所。

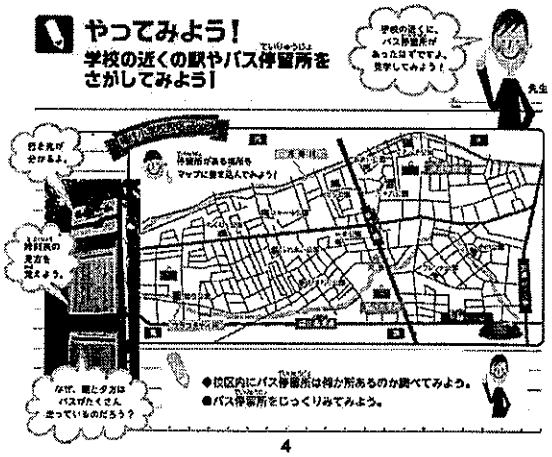
みなさんは、地下鉄の駅の名前をいくつ知っていますか。札幌市の地下鉄は、南北線（麻生～真駒内）・東西線（宮の沢～新さっぽろ）・東豊線（栄町～福住）の3つの路線に分かれており、全部で49の駅があります。地下鉄は、一度に750人もの人たちを運ぶことができます。地下を走っているので、雪がふる札幌市の冬でも時間通りに行きたいところへ向かうことができる便利な乗り物です。

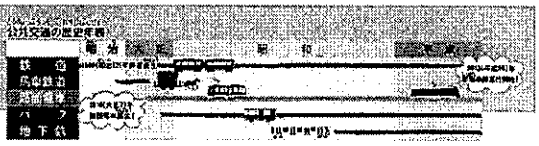
つぎに、バスの路線図をみてみましょう。札幌市には、たくさんのバス停留所があることが分かります。バスは、地下鉄では行けないところへも行くことができます。札幌市のバス停留所は、全部でおよそ2,000か所もあるのです。

札幌市の地下鉄、バス、路面電車、鉄道を使うと、まちのほぼ全ての場所に行くことができます。みなさんも、自分の身近にある地下鉄駅やバス停留所などを見学し、どこへ行けるのかを調査してみましょう。

また、地下鉄駅やバス停留所の近くには、だれでも利用することのできる公共施設が建てられていることが多いです。札幌市の公共交通は、みなさんが利用しやすいように工夫されているのです。

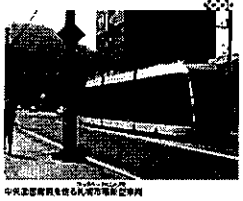
やってみよう！ 学校の近くの駅やバス停留所をさがしてみよう！





1 札幌市の路面電車の移り変わりを調べよう

共子さんのクラスでは、2枚の写真を比べて話し合っています。



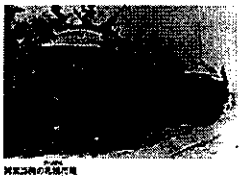
2013（平成25）年5月5日札幌市に1988（昭和63）年以来となる路面電車の新型車両が走り始めました。札幌市の路面電車はいつ頃から走っているのでしょうか。

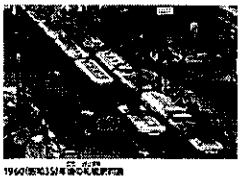
札幌市から支笏湖に向かう国道沿いにある藻南公園に、明治時代に石を切り出していた石切場の跡があります。石山でとれた軟石は、北海道庁や時計台など、札幌市の様々な建物に使われていた貴重な石でした。

1912（明治45）年の北3条3の電停　札幌停車場（札幌駅前）を行く馬車鉄道

1909（明治42）年にその石を運ぶ目的で馬車鉄道がつくられ、1912（明治45）年からは乗客も乗せて走るようになりました。

1918（大正7）年には札幌電気軌道株式会社により路面電車が5.3Kmの長さで開業しました。


開業当時の札幌市電


1960（昭和35）年頃の札幌駅前通

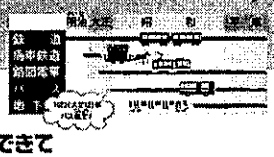
1927（昭和2）年には札幌市が、電車事業を買い取り、「札幌市電」となりました。

その後、路面電車は走る距離をのばし続け、1964（昭和39）年には25kmをこえました。

その頃の朝夕のラッシュ時にはほぼ1分ごとに電車が来ていました。停留場に止まれない電車が、5台も6台もつながっていたのは毎日のことでした。とくに北24条の停留場では、朝の通勤ラッシュ時に100mも乗客が列を作るほどの混雑ぶりでした。

わたしたちは路面電車についてもっと知りたいことを調べてみることにしました。

調べてみると、昔の路線の長さや、ササラ電車、新型車両のことなどたくさん分かりました。2015（平成27）年には、すすきのと、西4丁目の停留場の間がつながり、新しい時代の路面電車に生まれ変わる予定です。



12 札幌市のバスはいつ頃できて どのように変わったのか調べよう

現在活躍のバス

木炭バス

北海道中央バス

ジェイ・アール北海道バス

じょうてつバス

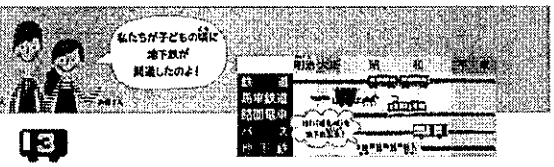
地下鉄の駅から遠くてもバスで行くことができます。札幌市のバスはいつ頃から走っているのでしょうか?

1923(大正12)年に札幌乗合自動車株式会社が16人乗りの車両を5台使って運行を始めました。1930(昭和5)年には市営バスが走り始めました。その当時は「バス」とはいわずに「乗合自動車」とよばれていました。一人で乗るのではなく、たくさんの人が「乗り合わせる」車という意味です。

バスには運転手の他に「車掌」がいてバスに乗るときに、一人ひとりが車掌にお金を渡して、乗車券(きっぷ)を買っていました。

また、1938(昭和13)年には燃料節約のために木炭から発生するガスでバスを動かす「木炭バス」も登場しました。

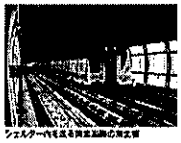
市営バスは、長い間市民に親しまれてきましたが、2004(平成16)年までにジェイ・アール北海道バス、北海道中央バス、じょうてつバスに路線をゆずりわたし、現在は、民間のバス会社が札幌市内のバスの運行を担っています。



13 札幌市の地下鉄はいつ頃できて どのように変わったのか調べよう

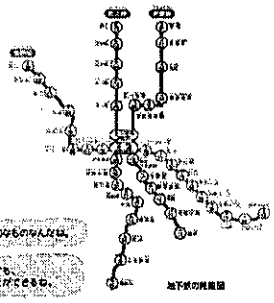
1972(昭和47)年に札幌オリンピックが開催されることとなり、札幌市に全国で4番目となる地下鉄がつくられました。

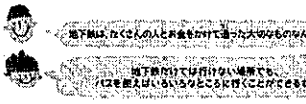
札幌市の地下鉄は、はじめに、1971(昭和46)年に北24条ー真駒内間の南北線が開通しました。次に、1976(昭和51)年に東西線が琴似ー白石間で、東豊線は1988(昭和63)年に栄町ー豊水すすきの間で営業を開始しました。その後、いずれの路線も延長され、いまの営業区間は3路線で48kmとなっています。


シェルターでもぐる真駒内駅の南北線

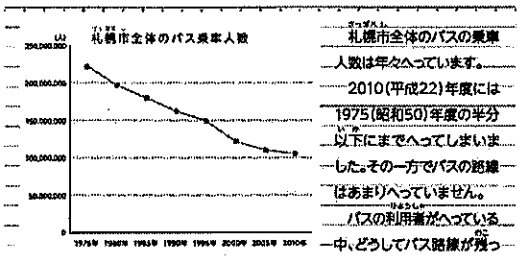
札幌市の地下鉄の特徴は大きく2つあります。その一つは自動車と同じようなゴムタイヤで走っているということです。ゴムタイヤの走行は鉄の車輪を使うより騒音が少なく、乗り心地もよいというよさがあります。

もう一つは平岸ー真駒内間でシェルターを採用したということです。世界でも例を見ないほどの降雪量がある札幌市では、外を走る電車は、雪対策が重要です。外にシェルターをつくることで、雪の対策にもなり、さらに、地下に地下鉄を走らせる工事より費用が安くすむというよさがありました。


地下鉄の路線図



やってみよう! バスや地下鉄の意味や役割について考えよう



札幌市全体のバスの乗車人数は年々へっています。2010(平成22)年度には1975(昭和50)年度の半分以下にまでへってしまいました。その一方でバスの路線はあまりへっていません。バスの利用者がへっている一中、どうしてバス路線が残っているのでしょうか。

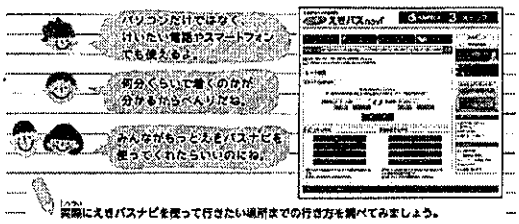
札幌市役所の人の話

札幌市では、まちのほぼ全ての場所に公共交通で行くことができます。みんなが、できるだけ公共交通を使うことで、道路の混雑や二酸化炭素の出る量が減り、環境に優しいまちになります。

札幌市の公共交通は、多くの人が力を合わせて作り、守っている、市民みなさんの大切な財産です。札幌市では、自動車を運転しなくても困らない暮らしができるように、これからも公共交通を使いやすくする取り組みを進めています。

やってみよう! えきバスナビを使ってみよう

通子さんたちはえきバスナビを使って、札幌市内の行きたい場所への行き方を調べてみました。

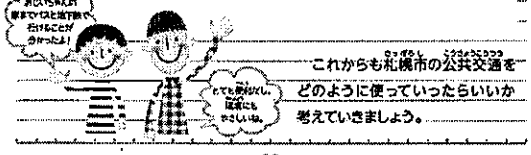


実際にえきバスナビを使って行きたい場所までの行き方を調べてみましょう。

行きたい場所を(□)に書いてみましょう

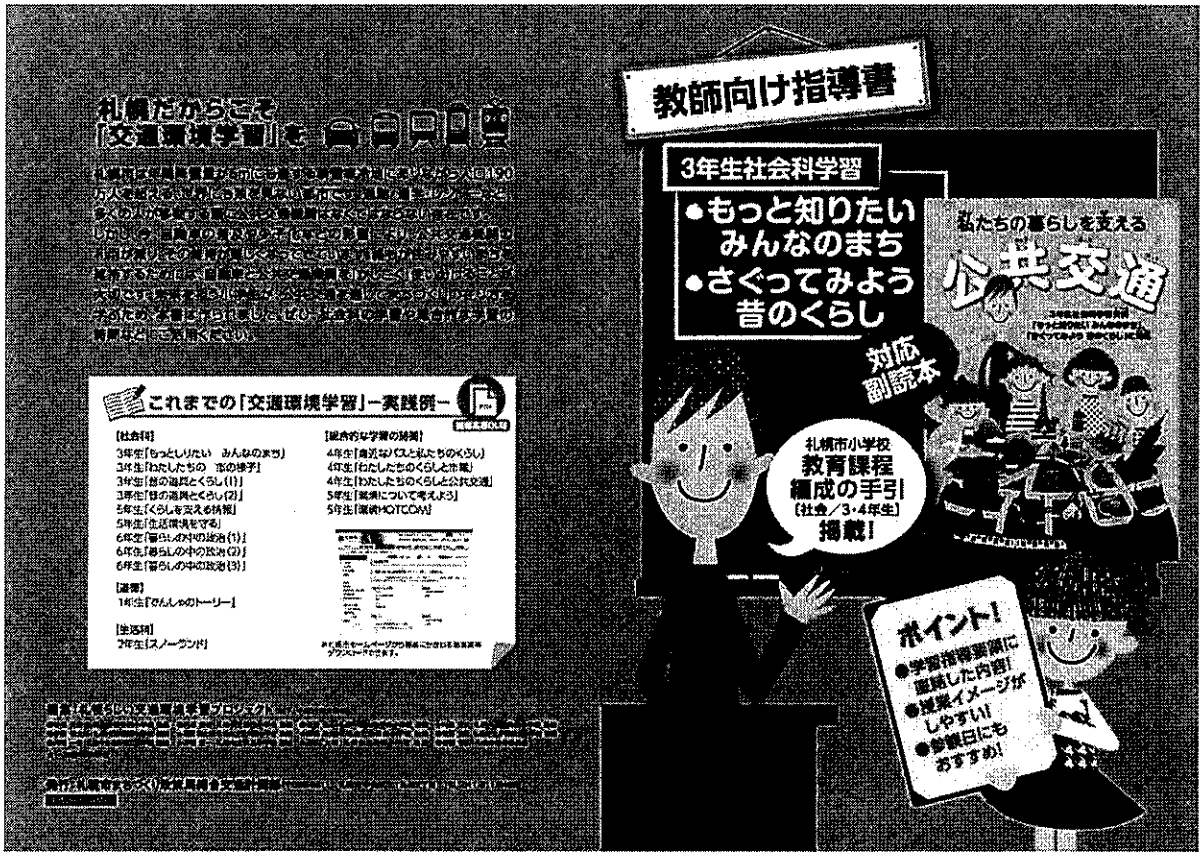
自分の家 ➡ ＿＿＿＿＿＿＿＿ まで

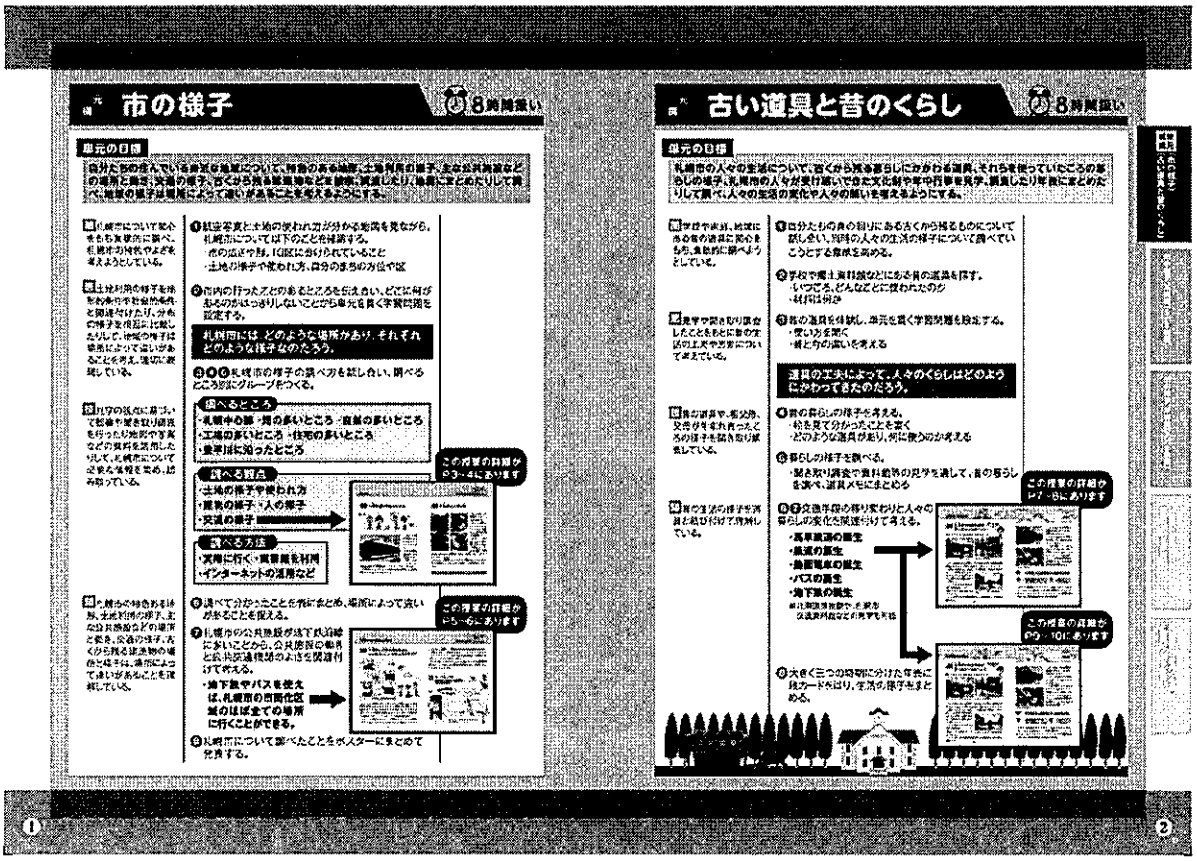
えきバスナビに調べたことをここに書いてみよう。



これからも札幌市の公共交通をどのように使っていったらいいか考えていきましょう。

◆教師向け指導書（板書の書き方、ポイントなど副読本を活用するためのサポートツール）





市の様子　本時案

5/8時間

本時の目標

札幌市にどのような公共交通があるのかを調べる活動を通して、4つの乗り物の特長が分かる。

●札幌市にはどんな公共交通があるのだろう
（今月乗った人）

鉄道	地下鉄	バス	路面電車
30人	35人	32人	25人

みんな様々な公共交通を利用している

札幌市の公共交通には、どんなよさがあるのだろう?

鉄道
- たくさんの人が乗れる
- 札幌市以外にも行ける
- 快適なのもあって便利

地下鉄
- たくさんの人が乗れる
- 雪や雨でも大丈夫
- 速い地下鉄がすぐ来る

バス
- いろいろな場所に停留所がある
- 新千歳空港に行くものもある

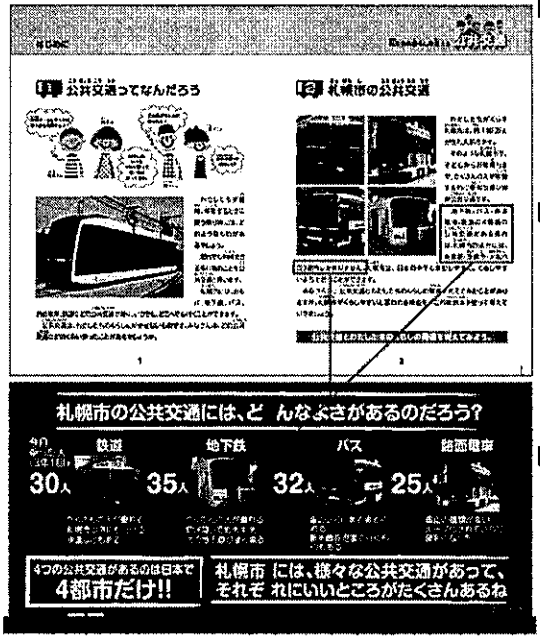
路面電車
- 市内の移動が多い
- ループ化されてさらに便利になった

4つの公共交通があるのは日本で4都市だけ!!

札幌市には様々な公共交通があって、それぞれにいいところがたくさんあるね。

授業のポイント

- 公共交通とは
  不特定多数の人々が利用する交通機関。航空機やフェリー、タクシーも含まれます。
  ここではまくの人がいつでもどこでも安い値段で利用できる4つの公共交通機関を取り上げます。
- 身近にない交通手段で実施する際には、札幌市ホームページの資料や写真もご活用ください。
  札幌　交通環境学習　で検索をしてください。



導入

●生活経験から、札幌市には様々な公共交通があることに気付く。

T 札幌市で走っている公共交通は、どのようなものがありますか?
C 鉄道、地下鉄、路面電車、バスです。
C ぼくは地下鉄に乗って、札幌駅に行ったことがあります。
C 私は、出かける時はまずバスに乗ります。
T 様々な公共交通を利用していますね。それぞれ、どのようなよさがあるのでしょうか。

展開

●札幌市の4つの公共交通のよさや違いについて考える。

T どのようなよさがありましたか?
C バスは家の近くを走っています。
C 路面電車は最近ループ化されて、行きたい場所に早く行けるようになりました。
C 鉄道は一度にたくさんの人が乗れます。
C 地下鉄も路面電車と同じように、一度にたくさんの人が乗れます。
→それぞれのよさを話し合った後に、4つの公共交通があるのは日本で4都市だけという事実を提示することで「私たちの自慢のまち、札幌」の意識を高めます。

まとめ

○4つの公共交通のよさを話し合うことで、曽我様々な公共交通を利用して生活をしていることに気付き、4つの公共交通がある札幌市により愛着をもつ。

【子どものふり返り】
C 札幌市には、地下鉄やバス、路面電車などたくさんの公共交通があることが分かりました。
4つの公共交通があるのは日本で4都市しかないので、札幌市に住めてうれしいです。これからも公共交通をたくさん利用したいです。

市の様子　本時案

7/8時間

本時の目標

札幌市の公共施設が地下鉄沿線に多い理由を考えることを通して、地下鉄のよさと公共施設の働きを結び付けて考えるとともに、公共交通を使えば札幌市の市街化区域のほぼ全てに行けることが分かる。

公共施設は地下鉄の近くに多いよ

公共施設は、どうして地下鉄の駅の近くに多いのだろう?

公共施設のよさ
- 子どももお年寄りも体の不自由な人も
- やすく　楽しめる
- みんなが使う場所

地下鉄のよさ
- 渋滞がない
- 時間通りに行ける
- 雨の日や寒の日も15分に何本も走る

便利

公共施設は様々な人が利用する場所だから地下鉄の近くにあると便利なんだね。

「西岡の森」や「さとらんど」は地下鉄の駅の近くにないよ。

バスや鉄道、市電と組み合わせて使えば さらに便利

札幌市のバス停は約2,000か所

公共交通機関を利用すれば札幌市のほぼ100%に行くことができるなんてすごいね。

授業のポイント

- 公共施設が地下鉄の駅の近くにあるよさを様々な立場や状況から考えるだけでなく、「地下鉄の駅の数」「バス停の数」に着目させ、地図を用いながら学習を展開すると、どんな所にはんでいても移動できるよさにまで学びを深めることができます。
- 別冊本P4「やってみよう」を参考にして学校の近くの駅やバスの停留所を調べる活動へと広げることもできます。

導入

●公共施設が地下鉄の駅の近くにあることに気付き、その理由について関心をもつ。

T 札幌には地下鉄の駅がいくつあるでしょう?
C 20? 30?
T 40駅あります。(地下鉄路線図を白地図に位置付ける)
T 札幌にはどんな公共施設がありましたか?
(公共施設を札幌市の白地図に位置づける)
C 地下鉄の駅の近くに公共施設が集まっているよ。

展開

●公共施設が地下鉄の駅の近くにある理由を「公共施設の役割」「地下鉄のよさ」という2つの視点から考える。

【公共施設の役割について】
C みんなが利用できるようにするためだと思います。
T 「みんな」とは、例えばどんな人でしょうか?
C 子どもです。 C お年寄りです。
C 体の不自由な人です。

【地下鉄のよさについて】
T でも、地下鉄より車の方がほく移動ができて、便利なのではないでしょうか?
C 地下鉄は車よりたくさんの人が乗れます。
C 渋滞がなく、時間通りに行くことができます。
C 環境に優しいです。

●札幌市における公共交通機関の広がりとその利便性を結び付けて考える。

T 「西岡の森」や「さとらんど」は地下鉄の駅の近くにありませんが…?
C バスがあります。
T 本当に行けるのでしょうか?地図で確かめてみましょう。(バス路線を提示する)

まとめ

○公共施設が地下鉄の駅の近くにある理由を公共施設の役割と地下鉄のよさとを結び付けて捉える。

【子どものふり返り】
C 公共施設が地下鉄の駅の近くにあるのは、誰でも、いつでも利用できるようにするためだということが分かりました。バスや電車、路面電車を使えば札幌市のどこへでも行くことができるなんてとても便利だなと思いました。

古い道具と昔のくらし　本時案　5/8時間

本時の目標

路面電車の開通による市民生活の変化を考える活動を通して、路面電車が果たしてきた役割に気付き、昔の暮らしの様子や乗り物のよさを考えることができる。

路面電車が走るようになって、人々のくらしはどのように変わったのだろう？

ルート
・長くなった
・行き先が増えた
・近くなった

時間
・行き先までの時間が短くなった
・速くなった

便利で快適に

大きさ
・大きくなったから多くのお客さんや荷物を乗せられる

乗り心地
・ゆれが少なくて快適になった
・においがなくなる

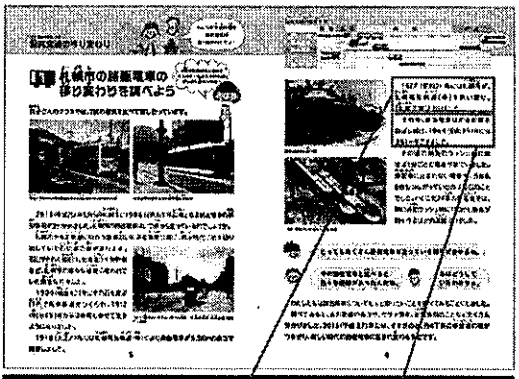
道具の時と同じだね！

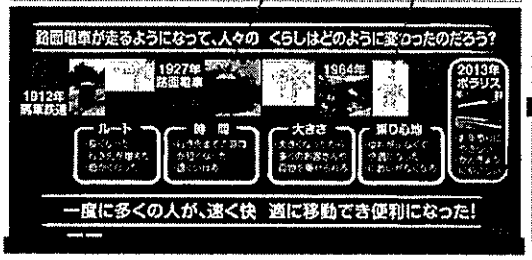
最近は新型車両や路線のループ化も!!

路面電車が走るようになって、一度に多くの人が速く快適に移動でき、くらしが便利になった。

授業のポイント

- 馬車鉄道時代と開通当時の路面電車時代の路線図を活用し、人々のくらしの変化を考えるようにします。
- 昔の道具の手間と関連付け、新しい乗り物になると便利になることを捉えるようにします。
- 新型車両やループ化などを取り上げることで、路面電車が人々の生活を便利で快適なものにし、現在、そして未来へと受け継がれていくことに気付かせることもできます。





導入

●馬車鉄道と路面電車の違いを考えることで、公共交通ができた当時の人々の生活の様子に関心をもつ。

T（馬車鉄道の写真を提示）気付くことはありますか？

C 馬が車を引いています。

T 今と比べて気付くことはありますか？

C 時間がかかりそうです。

C あまり多くの人は運べなさそうです。

T（路面電車の写真を提示）今から90年くらい前に路面電車になりました。人々のくらしはどのように変わったのでしょうか？

展開

●路面電車が走るようになり、便利で快適になったことを「ルート」「時間」「大きさ」「乗り心地」など複数の視点から考える。

T 路面電車が走るようになって、人々のくらしはどのように変わったのでしょうか？

C 馬車鉄道の時より行き先が増えています。

C 一度に多くの人を乗せることができるようになっています。

C 移動時間も短くなりました。

→馬車鉄道と路面電車の路線図を提示し、比較することで、便利になったことを捉えるようにします。

まとめ

☆新しい乗り物になることで、人々のくらしが便利で快適なものになっていったことが分かる。

［子どものふり返り］

☆路面電車が走ることで人々の生活が便利で快適になったことがわかりました。昔から受け継がれていたものが残っていて、今もさらに便利にする改良が行われているのがすごいと思いました。

古い道具と昔のくらし　本時案　7/8時間

本時の目標

地下鉄開通後の市民の暮らしの変化を調べる活動を通して、公共交通の充実による市民生活の向上について考え、適切に表現することができる。

1960年代の市の様子
・人口が100万人を超える
・交通機関の発展や快速

地下鉄が開通！

本時

・1971年に開通
・地下鉄は開通線の進行から開通

地下鉄ができて、市民のくらしはどのように変わったのだろう？

たくさんの人を運べる
・一度に多くの人を運べる
・ゴムタイヤで揺れもよい
・多くの観光客が来てもよい

便利で快適なくらしに！

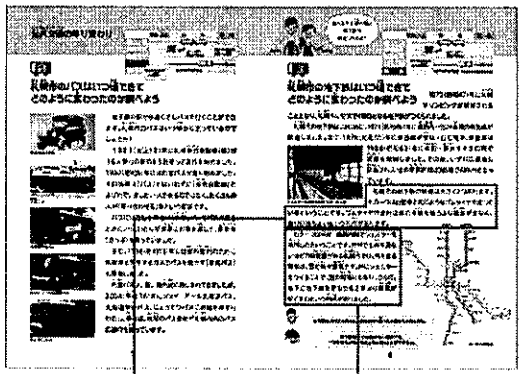
いつでも運行できる
・雪が降っても影響がない
・時間通りに運行できる
・通勤ラッシュを解消できる

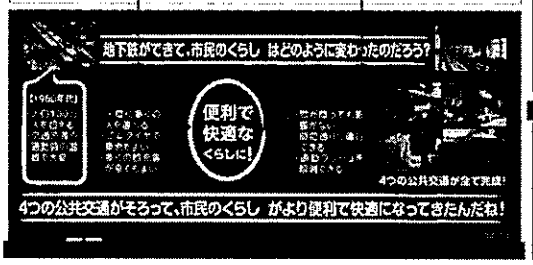
地下鉄ができて、どんなときでも快適に移動できるようになったんだね。

4つの公共交通がそろって、市民のくらしがより便利で快適になってきたんだね。

授業のポイント

- 1966年に1972年冬季札幌オリンピックの開催が決定しました。オリンピックの開催に合わせ、地下鉄はもちろんのこと、14の鉄道路線の新設や都市環境の整備など、札幌市のまちづくりが大きく進められました。
- 札幌市は現在、2026年のオリンピック・パラリンピックの招致に向けて、準備を進めています。今の世の中のほぼやニュースと関連付けながら授業を進めると、子どもたちの理解がより深まります。





導入

●地下鉄ができる前後の生活の様子を比較し、地下鉄の開通が考えた生活への影響について関心をもつ。

T（地下鉄がなかったころの通勤ラッシュの写真を提示して）この写真から、どんなことが分かりますか？

C たくさんの人が乗っています。

C 路面電車の数が、今よりも多いです。

C みんなが路面電車に乗ろうとするから、今とは違ってかなり混雑していたと思います。

C 今よりも通勤に時間がかかって、大変だったと思います。

T では、地下鉄ができると、市民のくらしはどのように変わったのでしょうか。みんなで調べてみましょう。

展開

●地下鉄の開通による市民生活の向上について、「たくさんの人を運べる」「いつでも運行できる」という2つの視点で考える。

T 地下鉄ができて、市民のくらしにどのような変化がありましたか。

C 一度にたくさんの人が移動できるようになりました。

C 雪が降っても時間通りに移動することができます。

C 車で移動するよりも、早く到着することができます。

C 渋滞も少なくなると思います。

→地図帳・車など、既存の交通機関や移動手段と比較すると、地下鉄のよさを実感できます。

→地下鉄だけでは移動できない地域があることにも触れることで、4つの公共交通がそろったことの価値に気付くことができます。

まとめ

☆4つの公共交通のよさが生かされていることで、自分たちのくらしがより便利で快適なものになっていることに気付くことができる。

［子どものふり返り］

☆地下鉄ができて、雪が降っても時間通りにたくさんの人が移動できるようになったことが分かりました。4つの公共交通がそろっている札幌市は、とても便利なまちだと思いました。

◆指導案

３年生［社会_市の様子の移り変わり］（北海道教育大学附属札幌小学校）

札幌らしい交通環境学習とは、「モビリティマネジメント教育」に着目し、「交通」の中に存在する「社会的ジレンマ問題」を通じ、広く、環境意識や公共の精神を醸成することを目的としています。初等教育における学習教材として適することが、これまでの研究事例等で明らかとなっています。

※「モビリティ・マネジメント」とは、市民が「過度に自動車に頼る状態」から、「公共交通などを含めた多様な交通手段を適度に（かしこく）利用する状態」へと少しずつ改善していく、コミュニケーションを中心とした持続的な一連の取り組み

実施校	北海道教育大学附属札幌小学校	実施日	2017年8月28日（月）
科目/単元名	社会「市の様子の移り変わり」（新内容）［13時間扱い　本時9/13］	指導者	樋渡　剛志

［指導計画］

1．教材にかかわって

①学習指導要領の位置づけ

［小学校学習指導要領　社会編（平成29年3月公示）］

●第３学年の内容（４）

（４）市の様子の移り変わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　次のような知識及び技能を身に付けること。
（ア）市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解すること。
（イ）聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。
イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
（ア）交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。
（内容の取扱い）
ウ「人口」を取り上げる際には、少子高齢化、国際化などに触れ、これからの市の発展について考えることができるよう配慮すること。

内容（４）は、現行学習指導要領の「古くから残る暮らしに関わる道具、それを使っていたころの暮らしの様子」に関する内容を改めたもので、今回の改訂で整理された３つの区分のうち「②歴史と人々の生活」に区分される内容である。また、「内容の取扱い」については、少子高齢化等による地域社会の変化に関する教育内容が見直されるなどした結果、新たに示された部分である。

これらを踏まえ、本実践では、「交通」「人口・まちの広がり」「公共施設」「生活の道具」の４つの観点の時期による違いに着目して、札幌市や人々の様子の変化を捉えられるようにすることを目指す。また、少子高齢化など札幌市全体の変化の傾向を大まかにとらえ、市の発展に関心をもち、将来ついて考えたり討論したりする。

②モビリティ・マネジメント教育の視点から

子どもたちは、通学する時に公共交通機関を利用し便利さを実感している。その一方で、自動車の方が公共交通機関に比べて移動が速かったり楽だったりすることも感じている。また、公共交通機関が生まれてから身の回りにあり、あることが当たり前だと考えている。

そのような子どもに対し、以下のような教師のかかわりを通して、まちづくりにおける公共交通機関の役割を考えるとともに、「交通」を窓口にしながら、未来の札幌について３年生の子どもなりに考える姿を目指す。

(1)観点の一つに「交通」を加え、札幌市や人々の生活の変化を捉えられるようにする。例えば、交通の発達によって人々の生活がどのように変わるか考えるよう促す。そうすることで、「速く楽に遠くに行けるようになったんだね。」のように、交通の発達が人々の生活をより便利にしていることに気付くようにする。

(2)「まちの広がり」と「公共交通機関の路線の広がり」の関連性に気付くようにする。本時では、まちの広がりが分かる３つの時期の地図に、交通の路線の広がりが分かるような地図を重ねる。そうすることで、「まちの広がりと交通の広がりは関係しているんだ」のように、それらの関連性に気付くきっかけを作る。

(3)少子高齢化など将来の札幌市が直面する課題について、交通と関連付けて考えられるようにする。本時後半では、交通の発展による利便性を捉えた子どもに、50年後の人口減少を予測したグラフを提示する。そうすることで、「お年寄りが増えていく札幌市の未来にとって、交通がますます重要になりそうだ。」という見通しを引き出す。

札幌らしい交通環境学習を推進していく上で、札幌市都市交通課と北海道開発技術センター、教育現場が連携をして取り組んできた。平成23年度から取り組みを行い、本実践が27本目の実践である。「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、今後も更なる連携体制を築いていく。

③資料の活用

○丘珠空港「札幌いま・むかし探検ひろば」～札幌市の過去から現在の移り変わりがわかる写真・統計資料
○「まちの広がりと公共交通機関の路線の広がり」スライド　○札幌市の未来の姿が分かる統計
○札幌市のビジョン　○交通網の広がりを表す地図　○公共交通テキスト　など

2. 単元にかかわって

●単元の目標

・札幌市の移り変わりを年表にまとめる活動や子ども同士の話し合いを通して、これからの札幌市の発展に関心をもち、持続可能な社会について考えようとする態度を養うようにする。
・札幌市の移り変わりを４つの観点で調べることを通して、市や人々の生活が時間の経過によってより便利に使いやすく移り変わってきていることを理解し、調べたことを年表にまとめることができるようにする。
・交通の時期による違いに着目して子ども同士が観点と観点を関連付けて話し合うことを通して、市や人々の生活の様子の移り変わりを捉え、それらの変化の理由を考え表現することができるようにする。

●単元の構成

札幌市の移り変わりをつかむ【2時間】

子どもの主な活動

第１次　どんなことが移り変わってきたかな？

開拓初期の写真と現在の写真から、変わってきたものやことを見つけよう！

[redacted]

人も増えているんじゃないかな。
乗り物がないけど、今はあるよ。
人口・まちの広がり
公共交通
公共施設
生活の道具
建物が増えているよ。
使っている道具も違うんじゃないかな。

どのようにして、札幌市と人々の生活は変わってきたのかな？

札幌いま・むかし探検ひろばに行って調べよう！

どんなことを調べるか、探検計画を立てよう！

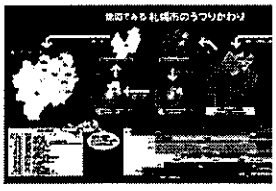
人口 まちの広がり
公共施設
公共交通
生活の道具

それぞれの観点で調べたら、札幌市の様子と変化が分かりそうだよ！

どのように移り変わったのかを

第２次　札幌市の移り変わりを視点ごとに調べよう！

４つの観点で札幌市の移り変わりを調べまとめよう！



調べてまとめる【6時間】

子どもの主な活動

調べたことを、４つの観点でまとめよう！

	明治　大正　昭和　平成
人口 まちの広がり	合併してだんだん大きく。人口はだんだんと増加。
公共施設	集中して作っている時期がある。
公共交通	まちの中心から遠くまで。
生活の道具	便利に生活したいという思いが道具に。

札幌市が広くなって、人口が増えてきたことが分かってきたよ！

本時

まちの広がりと公共交通の広がりを関連付ける【6時間】

第3次　交通に着目して、まちの移り変わりを考えよう！

昭和25年（1950）

昭和49年（1974）

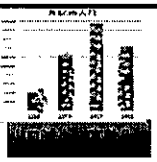
平成29年（2017）

まちの広がりと交通の広がりは関係しているのかな？

	昭和	平成
人口 まちの広がり	中心に。	遠くも。
	市電で移動しやすいまちの大きさ！	だから、誰でも移動しやすい！
公共交通	市電だけ。	どこにでも。

まちが広がって、遠く遠くにも移動できるように交通も広がっているんだね！

これからどんなまちになっていくのかな？



誰もが過ごしやすいまちにしていきたいなぁ。

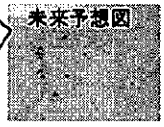
交通が大切になりそう。

誰もが過ごしやすいまちづくりをするためには、公共交通が大切になりそうだね。

年表にまとめる【3時間】

第4次　札幌市の移り変わりを年表に整理し、未来を想像しよう！

住むところは真ん中に集まるのかな。

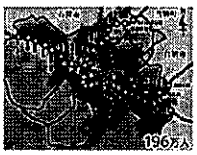
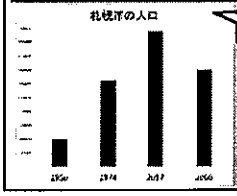


これからもずっと、誰もが住みやすい札幌市にしていきたいな。

3. 本時の目標と学習展開

●目標

・現在の公共交通の路線図と過去の公共交通の路線図を比較（交通の時期による違いに着目）することを通して、まちの広がりと公共交通の広がりが関連付いていることを捉え、既習や調査を活用してその理由について表現する。

学習展開	教師のかかわり
前時までに子どもたちは、札幌市の人口・まちの広がり、公共交通、公共施設、生活の道具の変化に着目して調べ、大まかにまとめている。	
昭和25年(1950)　 昭和49年(1974)　  平成29年(2017)	○現在の公共交通の路線図と過去の公共交通の路線図を比較することで、まちの広がりと公共交通の広がりの関係性に目が向くようにする。
まちの広がりと公共交通の広がりは、関係があるのかな？ 関係がありそう！ 人口・まちの広がり：昔は中心だけがまちだった。／札幌市が段々広がっていったからだよ。／中心から離れたところもまちになった。 おじいちゃんがあまり移動しなかったって。／小さいところが中心の外側にできている。／あいの里も畑だったけど、まちになった。 人口は31万人だよ。／人口は120万人だよ。／人口は196万人だよ。 人口が増えたから、まちが真ん中より外側に広がっているよ！ だって…：まちが小さかったから、移動しなくてよかったんだよ！／行きたいところに行けるように交通が発展していることが言えそうだよね！／車がない人でもお年寄りでも、誰もがどこにでも行けるように交通ができているんだよ！ 交通：市電と鉄道だけで十分だったんだよ。／オリンピックの時に地下鉄に乗って移動したって！／人が住んでいるところに交通が必ず広がっているよ！ まちが広がって、速く遠くにも移動できるように公共交通も広がっている！	○「まちの広がりと公共交通の広がりがぴったり関係していそう」という子どもの思いに、「本当に関係しているのかな？」と投げかける。そうすることで、「関係しているよ！だってね…。」と見通しをもって取り組む姿を引き出す。 ○どの視点に着目して変化を捉えているのかを子どもに問い返し明らかにすることで、まちの広がりを多面的に捉え、公共交通の広がりと関連付けて話し合う場を構成する。 ○まちの広がりと公共交通の広がりを十分に捉えてきた子どもたちに、2060年の札幌市の人口予測を提示する。人口が、1980年くらいにまで減る事実に着目させることで、公共交通に目が向くようにする。
 これからどんなまちになってほしいかな？ 札幌にも問題があったなんて思ってもいなかった。 みんなが住みやすいまちになってほしい。／交通はますます重要になってきそう。 人口が減ると、まちはどうなっていくのかな？ 札幌市のこれからについて、考えていきたいなぁ！	○人口の減少と交通網の関係に着目させてから「これからの札幌市はどのようになっていってほしいか？」と問うことで、未来の札幌市について考える姿を引き出す。

板書計画

まちの広がりと公共交通の広がりは、関係があるのかな？

まちが広がっている！　重なる。　50万人減　みんな52歳 先生77歳

人口 まちの広がり：中心にまちがある。31万人／段々広がって 120万人／離れたところも。196万人／人が減るとまちは昔みたいに戻る？ 140万人

人口が増えたから、まちが真ん中より外側に！

交通：そこまで必要じゃなかった。全部が中心にある。／市電と鉄道で十分。／行きたいところに行ける。行きたいところが遠くに。／オリンピックの時に地下鉄に。／誰もがどこにでも行ける。車のない人でも。お年寄りでも。／人が住んでいるところに交通が。／お年寄りも増えてくるって聞いたことがあるよ。／公共交通が重要になりそう。

まちが広がって、速く遠くにも移動できるように公共交通も広がっている。

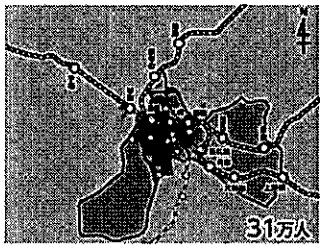
やっぱり、まちと公共交通は関係しそう？！
人口が減ると、まちはどうなっていくのかな？

3

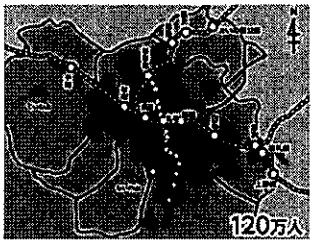
4. 本時で活用する資料

●本時で活用する資料

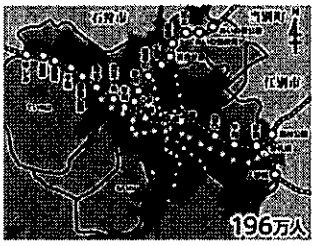
札幌市の市域と公共交通路線図



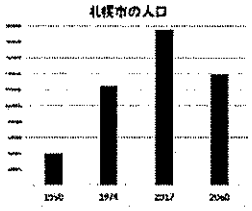
昭和25年（1950）



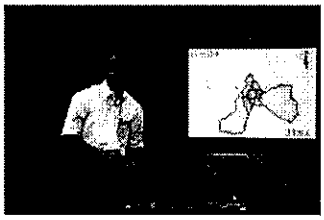
昭和49年（1974）

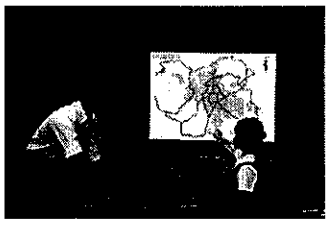


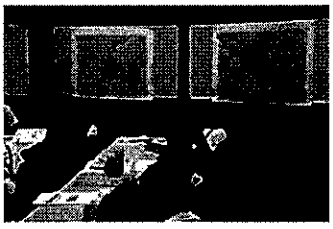
平成29年（2017）

札幌市の人口	公共交通テキスト
	

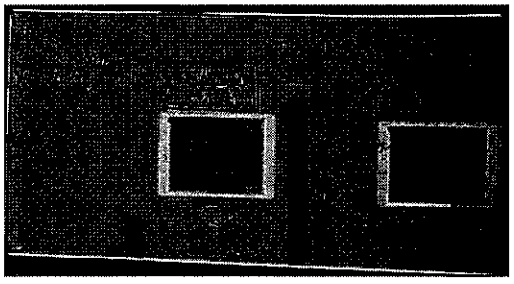
●本時の様子

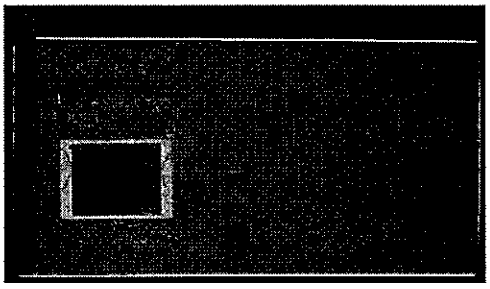






［本時の板書］





◆札幌らしい交通環境学習フォーラム

多くの小学校教諭に知っていただくために・・・

『札幌らしい交通環境学習フォーラム』を開催

●開催日時：2013年7月4日（木）13：30~17：00

●対　　象：札幌市内の小中学校教諭

●場　　所：札幌市立山の手南小学校

100名
を超える参加者

●プログラム：

- 13：30 ～ 14：15（45min）　公開授業①（授業者：佐野教諭【4年生】）
  『身近なバスと私たちの暮らし』
- 14：20 ～ 15：05（45min）　公開授業②（授業者：栗原教諭【6年生】）
  『暮らしの中の政治～市電から札幌市の政治がみえる～』

- 15：20～16：00（40min）　公開授業　意見交換会
  「交通環境学習の方向性～環境意識や公共の精神の醸成を目的として～」
  ［進行］薗野指導主事　［授業者］佐野教諭・栗原教諭

- 16：10 ～ 17：00（50min）　パネルディスカッション
  「札幌らしい交通環境学習～学習教材としての『交通』とは～」
  ［コーディネーター］新保　元康氏（札幌市立幌西小学校　校長）
  ［パネリスト］高野　伸栄氏（北海道大学大学院工学院　准教授）
  白井　純仁氏（㈱アドバコム代表取締役）
  服部　彰治氏（札幌大通まちづくり株式会社　取締役統括部長）
  新津　順一氏（札幌市市民まちづくり局総合交通計画部公共交通担当部長）

2. 北海道帯広市の事例

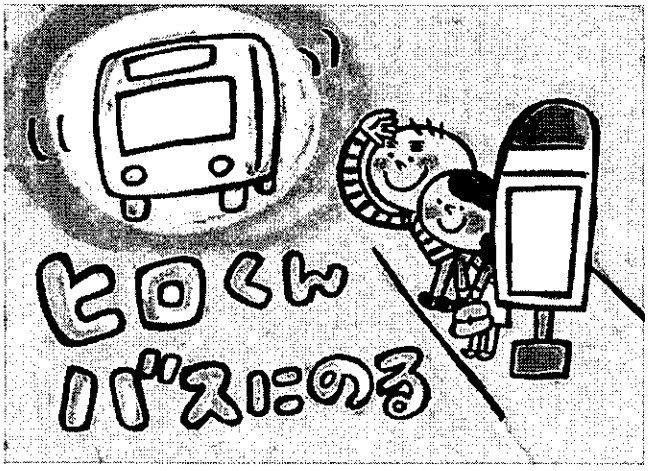
帯広市における「交通環境学習」は小学生と高齢者を対象とした出前講座等によるプログラムで、平成19（2007）年からバス事業者、再生燃料事業者、行政（北海道運輸局、帯広市）によって運用されてきた。帯広市教育委員会の「環境学習」に位置付けられており、帯広市が事務局となって、申し込みのあった小学校や団体、帯広市帯広シニアサークル受講者に対して実施している。これまでに小学生では延べ70校・団体の5,099名（2007～2019年）、高齢者では延べ844名が受講した（2009～2019年）。

小学生向けプログラムは、当初は高学年（4年生以上）が対象の交通（移動手段）と環境問題をテーマとした内容であったことから、低学年でも実施できるプログラムを希望する声がよせられるようになったことや、出前講座で対応できる数には限界があることから、小学校において自主的に「交通と環境」を学べる仕組みを作るべく、平成26～28年度に交通エコロジー・モビリティ財団の支援を受けて教材を作成した。教材は指導案、スライド資料、ワークシート、写真・動画素材等で構成されており、作成にあたっては、小学校教諭による授業実践や討議を経て、1～6年の各学年の既存教科（社会科、生活科等）で利用できるように検討をすすめた。平成29年度以降は従来の出前講座を継続実施しながら、各学校で取り組んでもらうための広報等を行っている。

◆各学年で学習内容の整理

1学年・2学年	3学年・4学年	5学年	6学年
身近な乗り物に関心をもち、「みんなでつかうもの」のよさや、ルール・マナーに気づく。 安全なバスの乗り方を知る。　など	地図や資料から、まちの様子がわかり、身近なバス路線や駅の役割、自分のまちや近隣の地域とのつながりを知り、愛着をもつことができる。 交通と環境の関係に関心をもちながら、地域で取り組む再生エネルギーについて知り、自らはたらきかけることができる。	自動車によって生活が便利に変化してきたこと、また一方で環境負荷の要因となっていることを知り、これからの使い方を考える。	自分の生活には地方公共団体や国の政治が反映されていることを知り、公共施設や乗り物の役割を考える。 交通と環境の関わりを考える。

◆低学年用には紙芝居を作成



◆指導案

指導案（4学年）　社会科

フォルダ4

学習名：ごみの処理と利用

目標	<単元の目標> ごみの処理や利用にかかわる対策や事業に関心をもち，ごみの処理や利用と自分たちの生活や産業が深くかかわっていること，これらにかかわる対策や事業が計画的，協力的に進められ，地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解するとともに，地域社会の一員としてごみの減量やリサイクルなど自分たちにできることを考え，進んで協力しようとする。 <本時の目標> ごみを減らすために自分や帯広市にできることを考える。 （社会的な思考・判断・表現）
概要	<単元の概要> ごみの処理や利用の活動から学習問題を見いだし，施設・設備を調査・見学したり，資料を活用したりして調べたことをノートや作品などにまとめることを通して，その対策や事業が地域の人々の健康の維持・向上に役立っていることを自分たちの生活と関連づけて考え，適切に表現できるようにする。 <本時の概要> 単元をつかむ段階で「分別して出され、しゅう集されたごみは、どのようにしてしょりされるのだろう」という学習問題を設定し、問題解決のための見学学習や調べ学習、そして、資料の読み取りを行ってきた。本時の学習は今までの授業で得た知識や情報をもとに、「ごみの処理」について自分なりの考えをもつ場面となっている。グループ学習のなかでは、「級友の考えを聞き」「認め合いながら」「情報の修正や書き込み」という時間を設定した。一人学びの充実はもちろんのことではあるが、級友の考えと自分の考えを比べることで、見方や考え方が広がり、より学びが深まることを期待している。

●単元全体の評価

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
①ごみの処理にかかわる対策や事業に関心をもち，意欲的に調べている。	①ごみの処理にかかわる対策や事業について，学習問題や予想，学習計画を考え表現している。	①調べたことをノートや作品などにまとめている。	①ごみの処理と自分たちの生活や産業とのかかわりを理解している。
②地域社会の一員として，ごみの減量や資源の再利用などの取り組みに協力しようとしている。	②ごみの処理にかかわる対策や事業が，地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを自分たちの生活と関連づけて考え，適切に表現している。	②施設・設備などを観点に基づいて見学・聞き取り調査を行ったり，地図や統計などの資料を活用したりして，ごみの処理にかかわる対策や事業について必要な情報を集め，読み取っている。	②ごみの処理にかかわる対策や事業は計画的，協力的に進められ，地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。
行動観察・記録分析	発言・記録分析	発言・記録分析	発言・記録分析

20

単元における本学習時間の位置づけ

時間	主な学習活動	関	思	技	知
1	家庭のごみの出し方や、種類別のごみの量のグラフから考えたことを話し合う。	○		○	
2	ごみ置き場を見学して，気づいたことを発表し合う。		○		○
3	ごみのゆくえを考えながら，学習問題をつくる。		○		
4 〜 7	清掃工場を見学して，わかったことをワークシートに整理する。 ○燃やした後に残った灰のゆくえについて話し合う。 ○ごみを燃やした後の灰がどのように処理されるかを調べる。 ○ごみを燃やした時の熱をどのように利用しているかを調べる。		○	○	○
8･9	資源物や粗大ごみのリサイクルについて，リサイクル施設を見学して調べる。 身のまわりにリサイクルがないかを考え，発表して話し合う。	○	○		
10	「ごみのしょりのうつりかわり」のイラストと，「市の人口の変化」のグラフを関連付けて，考えたことを発表し合う。		○		
11	ごみの処理が抱える新しい問題について調べ，わかったことを発表し合う。		○		
12	ごみを減らすために，家庭・学校・商店・地域がそれぞれどのような取り組みを行っているかを調べ，発表し合う。		○	○	○
13 本学習	ごみを減らすために自分にできることを考え，発表し合う。	◎	◎		
14	これまでの学習でわかったことや考えたことを発表し合う。	○	○		

本学習の評価	ごみを減らすために自分や帯広市にできることを考えることができたか（社会的な思考・判断・表現） 〈評価のポイント〉 ①授業のまとめをノートに記入することができたか。（ノート） ②級友の考えや取り組み方を共感的に受け止め、多様な視点をもって課題解決に取り組むことができたか。（ノート） ③自分の考えと級友の考えを比べ、関連付けながら、グループ学習を行っているか。（行動観察）

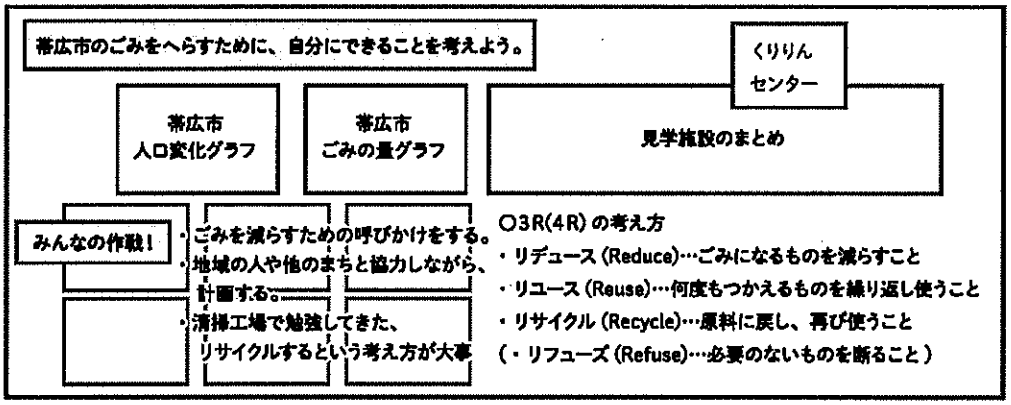
使用教材	4-001 4-002 2-104	スライド「乗り物とエネルギーのお話」 動画 くりりんセンター（板書掲示）	フォルダ2　フォルダ4

21

本時の展開

	学習活動	評価	教師の支援と留意点
導入	1. 前時の振り返りをする。 ○3R(4R) の考え方 ・リデュース (Reduce)…ごみになるものを減らすこと ・リユース (Reuse)…何度もつかえるものを繰り返し使うこと ・リサイクル (Recycle)…原料に戻し、再び使うこと (・リフューズ (Refuse)…必要のないものを断ること) ○ごみ処理の問題 見通す ・ごみの分別、費用、処理しにくいごみの問題… →ごみ処理に関わる様々な問題…解決できないかな?	知①	○資料の掲示(ICT の活用) ～ごみ処理に関する写真資料やグラフを掲示し、今までの学習を想起させる。
展開	2. 課題を提示する。 帯広市のごみをへらすために、自分にできることを考えよう。 3. 今までの学習を振り返りながら、自分にできること(方策、作戦)を考える。 ごみを減らすための呼びかけをするよ。 ・清掃工場で勉強してきた、リサイクルするという考え方が大事じゃないかな。 ・地域の人や他のまちと協力しながら、計画するのがいいのではないかな。	思②	○資料の準備と一人学びの充実 ～机間指導の中で、書けない児童への支援、励ましを行う。補助簿を利用し、全体交流や評価などに活かす。
	4. グループ学習をする。情報の交流をし、グループでの方策(作戦)を練る。	思②	○グループ学習の活用 ～ミニホワイトボードを使い、意見をまとめさせる。
	5. 全体交流をする。情報を全体で共有し、比較したり、関連づけたりする。	思②	○児童の考えの板書 ～関連・比較・総合する。
終末	6. 本時で学んだことを自分の言葉でノートにまとめる。 (例) ごみ処理の問題を解決するためには、 学び合う ○○することが重要だと考えた。理由は△△だからです。 振り返る	思②	○振り返りの場面設定 ～全体から個に戻す。児童から出た言葉を黒板に板書していく。
	7. ごみ処理について、バス会社の取り組みを紹介する。 ・天ぷら油から燃料を作ることができる→バイオディーゼル燃料という。 ・帯広市でも走っている。		○学び直し ～視点を広げる。日常生活と関連付ける。

板書計画



22

3. 神奈川県藤沢市の事例

神奈川県藤沢市では、平成26年度に策定をした「藤沢市交通マスタープラン」において、環境にやさしい交通まちづくりを目指す上で環境負荷が小さい自転車や公共交通の利用促進につなげる重点プロジェクトとしてMMの推進を掲げている。その中でも特に効果的な子ども達を対象に、教育課程と連携をしたMM教育の検討を始めた。

藤沢市に適したMM教育の確立に向けて、「藤沢市地域公共交通会議MM教育検討会」を設置し、モデル校における取り組み内容やMM教材の検討、藤沢市MM教育実施手引書の内容について検討を行った。

◆取組み内容

①モデル校によるMM教育検討授業の実施（6校10クラス／3か年）
②交通環境学習教材の検討
③藤沢市MM教育についての周知・説明活動

◆成果

✔MM教育の実施手引書の作成：MM教育の概要を示す理論編、授業計画や教材等をまとめた実践編、MM教材を収録した資料編
✔MM教育の進め方を確立：6つのプロセスによる段階的な進化を明示
✔MM教育の特徴を整理：①子どもたちが公共交通（バス、電車）のことを知って利用できるようになる　②先生が社会科や理科、体育（保健領域）といった教育課程の授業の中にMMの要素を取り入れることができる。
✔先生が子どもたちの公共交通の利用状況に応じて授業内容を変更できる。

◆MM教材の作成

・ふじさわ交通マップ　　・ふじさわ交通すごろく
・バスと電車の乗り方ガイドブック　　・行動記録カード　等

3.『藤沢市MM教育』の概要

本市では、公共交通を利用できる環境が充実しているため、公共交通を利用することを中心として段階的に学習理解を進めていく『藤沢市MM教育』を確立しました。

(1) 目的

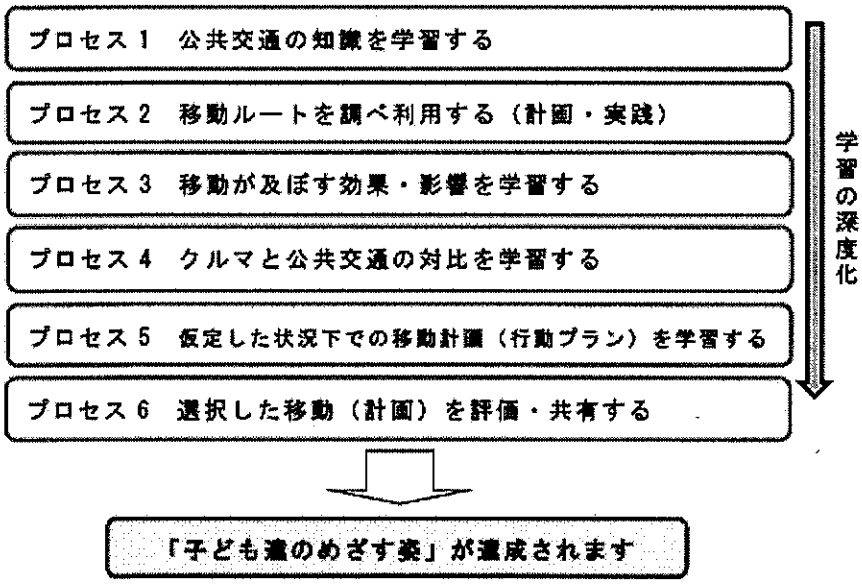
本市MM教育では、次に掲げる「子ども達のめざす姿」の実現を目的としています。

～子ども達のめざす姿～

- TPOにあわせて、移動手段を考え、公共交通、クルマ、自転車、徒歩等を「かしこく」使うことができる。
- 地球環境問題などの社会的な影響や健康などに配慮し、自発的に移動手段を選択して行動をすることができる。

(2) 進め方

本市MM教育では、次の6つのプロセスに沿った学習を進めていくことで学習の深度化が進み、全てのプロセスを経ると目的が達成できるようになっています。

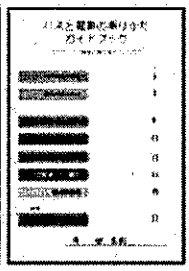


(3) 特徴

本市MM教育の特徴は次のとおりです。

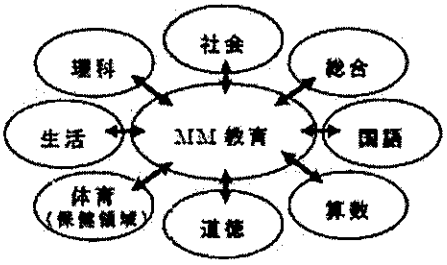
特徴１：知識と実践の構成によるMM教育の展開

交通のことを知って、　　利用して理解を深める



特徴２：教育課程と連携したMM教育

様々な教育課程と連携が可能なため、授業カリキュラムを大幅に変更する必要はありません。



（例）
公共交通の学習をする　→　【社会】
旅行に行くなら「公共交通」か「クルマ」かを題材としたディベート　→　【国語】
歩くことと健康の関係を知る
→　【体育（保健領域）】
環境にやさしい移動方法を考える　→　【理科】
校外学習の行き方を学習する
→　【総合的な学習の時間】

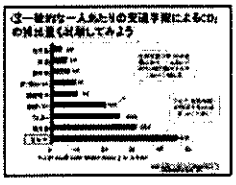
特徴３：児童の公共交通の利用状況を踏まえたMM教育

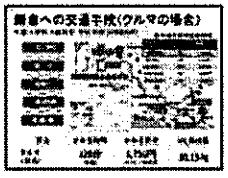
→地域特性等から児童の公共交通の利用状況を考慮した授業です。

＜授業の実施例＞

公共交通を利用する機会が多い場合…

→公共交通利用の実践、それによる手段間での運賃、CO_2の比較をメインとする。





公共交通を利用する機会が少ない場合…

→公共交通の使い方の知識習得、公共交通利用の実践をメインとする。

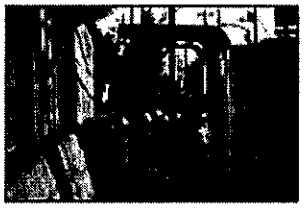
5

(4) 実施例

本市MM教育の代表的な取組み事例は次のとおりです。

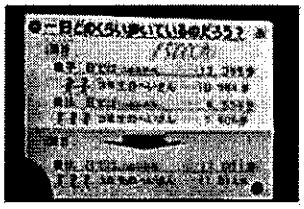
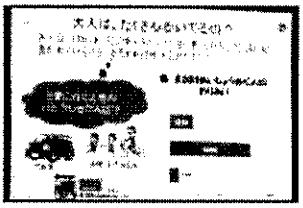
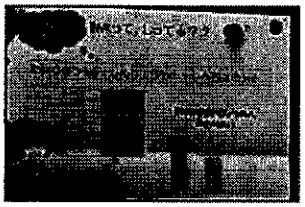
①校外学習と連携をした取組み

【授業概要】
- 藤沢市の状況や公共交通の状況、公共交通の利用方法について学習した上で、校外学習の機会を捉えて実際に公共交通を利用します。
- 校外学習の後には、公共交通を使ってみてどうだったかを振り返ります。



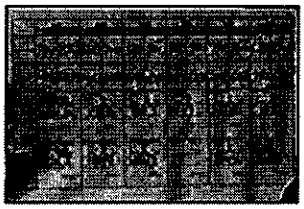
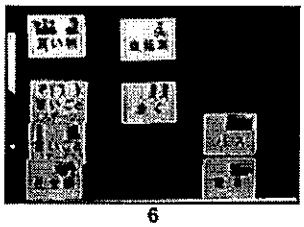
②歩くことと健康の関係を知る取組み

【授業概要】
- 万歩計を使用し、児童が日常の生活でどのくらい歩いているかを学習します。
- 歩数と健康との関係を学習し、健康のためにどのくらい歩く必要があるか、公共交通を使うとどのくらい歩くのか、を学習します。

③環境にやさしい移動方法を考える

【授業概要】
- 公共交通やクルマを使うと、どのくらいの時間やお金がかかるのか、また二酸化炭素をどのくらい出すのかを知り、時と場合に応じて、どのような移動手段がよいのか、環境にやさしい移動手段はなにか、を学習します。

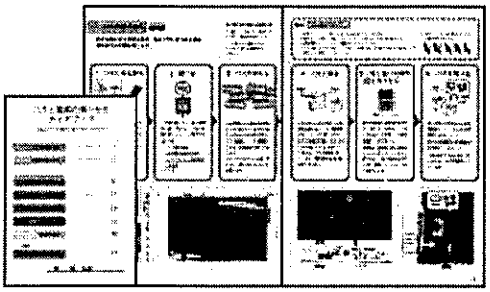



6

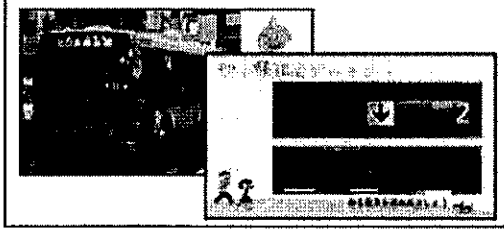
(5) 授業教材

これまでに作成した授業教材については、全データを小学校でアクセスできるパソコン内から引用し、活用できるようになっています。

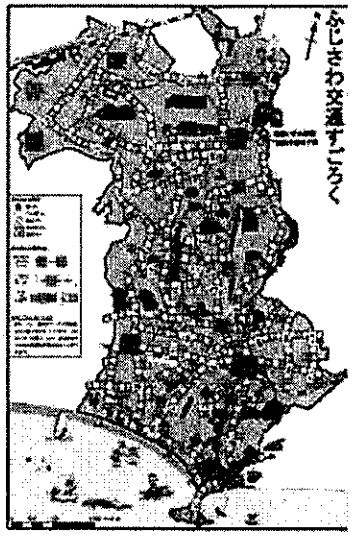
●乗りかたガイドブック



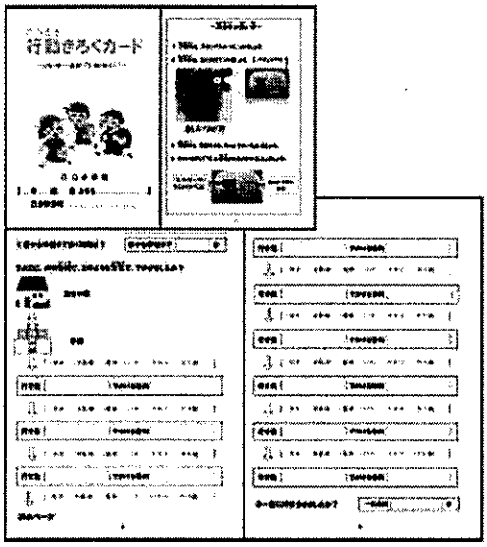
●乗りかたパワーポイント



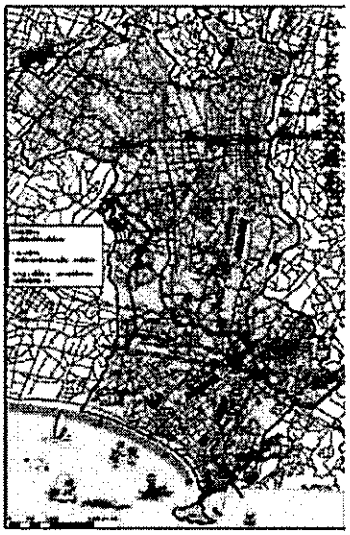
●ふじさわ交通すごろく



●行動きろくカード



●ふじさわ公共交通まっぷ



7

(6) 実施手引書

『藤沢市 MM 教育』の内容を実施手引書としてまとめ、市内全小学校 35 校に対して各 4 部配布しています。

第１編　理論編　実施理念と進め方
第２編　実践編　実施事例集　（6 校、10 学年分を掲載）
第３編　資料編　活用教材集

(7) 推進に関する課題と対策

本市 MM 教育の市内全小学校での推進にあたり、考えられる課題とその対策です。対策については、その実現に向けて、現在検討を行っております。

課　題①

MM 教育に関する周知は、各小学校長が集まる「校長会」や各小学校からの担当者が集まる「人権・環境・平和担当者会」での説明を行ってきたが、それ以外の先生の認知度が不明である。

対　策①

ひとり一人の先生に対し、周知用リーフレットを配布する。

課　題②

MM 教育の教材はカラー版の資料が多いが、小学校ではカラー印刷ができないために、MM 教育の実施を敬遠されてしまうという懸念がある。小学校側からは、カラー版教材をあらかじめ配布して欲しいという声もある。

対　策②

使用頻度が高いことが想定される教材は、各小学校にあらかじめカラー版の資料を配布する。

4. 今後の進め方

(1) 役割分担

MM 教育を継続していくためには、①～④が重要です。

① 先生が MM 教育を行う、しっかりとした位置付けがある。
② 授業を行った先生の意見を反映し、進め方や教材等の改善を図る。
③ 進め方や教材は適宜更新を行う。
④ 先生が MM 教育に関する最新の情報を得る機会がある。

これらのことを踏まえ、本格実施時の役割分担を次のとおりとしています。

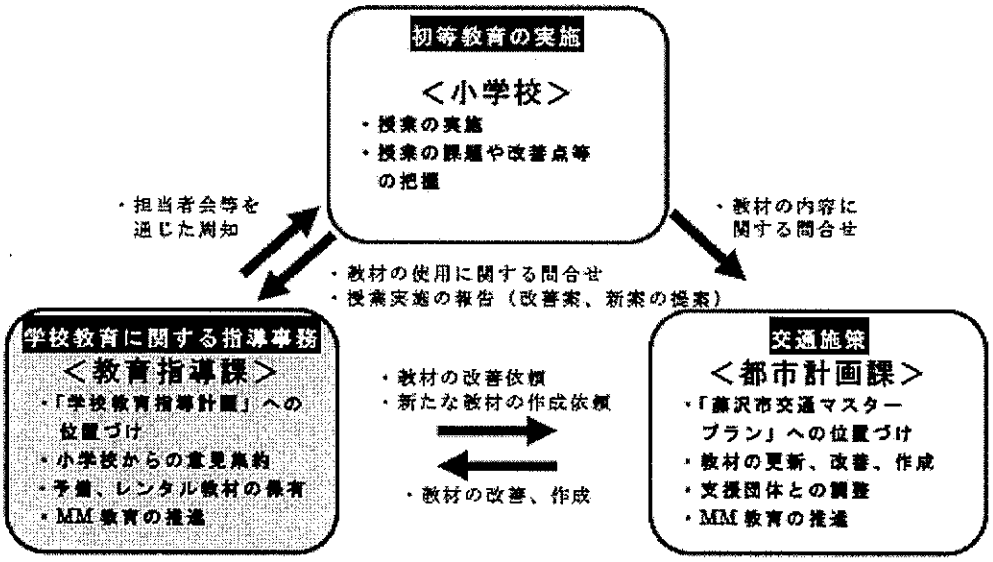


図　MM 教育の役割分担

(2) 進行管理

本教育を継続するために、各主体が役割分担を明確に認識し、ＰＤＣＡサイクルによる進行管理に取り組みます。

なお、３年経過時にはMM教育実施校からの報告を踏まえ、総合的な見直しを検討します。

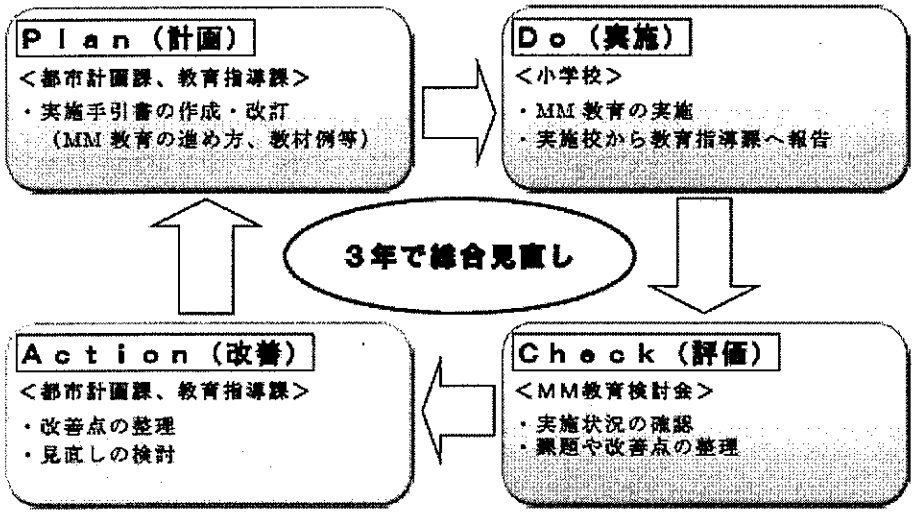


図　MM教育の進行管理

第6章 今後の進め方

1. 今年度の位置づけと課題

本事業は（公財）交通エコロジー・モビリティ財団の助成を受けながらR3年度まで継続していく。今年度は、事業の概要・目的・趣旨を関係者で共有し、具体的な目標「研究授業の実施と副読本の作成」を目指すにあたり、特に先進地（特に札幌市）の事例も参考としながら検討を進めてきた。

具体的には、「小学校の現場で先生がMM教育を行う」ために、授業編成の根拠となる新学習指導要領（R2年4月から全面実施）において「交通」に係る箇所を整理した上で、MM教育との親和性が高い科目・内容を確認した。あわせて、八戸市で採用している生活科・社会科の教科書（東京書籍／現行の学習指導要領に沿ったもの）、および八戸市教育委員会が作成している「３・４学年社会科副読本」において、これまでどのように交通が取り扱われてきたかを確認した。

これらは、MM教育の内容検討および普及を目指すにあたっての「現在地」を確認するためのものだが、このうち「教科書での交通の取り扱い」については、新学習指導要領に沿った教科書を（新年度に入るまでは）確認できていないことから、次回のWGにおいては、「旧教科書（現教科書）と新教科書の相違：特に交通の視点から」を詳細に確認する必要がある。

2. 次年度以降の検討内容

R2年4～5月に、実際に研究授業を行い、八戸らしいMM教育の中身を協働で検討していく担当の先生が決定することから、次回以降のWGにおいては「現在地を踏まえた上での今後の方向性」を具体化していくことが必要である。

R3年度までの事業全体の流れ（スケジュール）

時期	研究授業&副読本	ワーキンググループ	検討委員会
R2年2月			・事業概要の確認 ・他地域事例の整理／先進事例の学習
3月		・八戸市及び新学習指導要領における学習目標・内容等の整理	
5月	担当教諭３名の決定		
7月		・研究授業内容の検討	
9月	★第1回研究授業		
10月	★第2回研究授業		
11月		・研究授業の成果と課題の整理	・研究授業の成果と課題のフィードバック方法 ・副読本トライアル版の内容検討
12月	（研究委員会発表会） ◆副読本トライアル版の作成		
R3年6月		・研究授業内容の検討 ・副読本トライアル版の精査	
8月	★第3回研究授業		
10月	★第4回研究授業		
11月	札幌公共交通学習フォーラム参加	・研究授業の成果と課題の整理 ・副読本の内容検討	
12月			・研究授業の成果と課題のフィードバック方法 ・副読本の内容検討
R4年1月	◆副読本作成		
2月	◆副読本作成 （研究委員会発表会）	・副読本の精査	
3月	◆副読本の製本・配布		・八戸らしい授業プログラム及び副読本の精査 ・事業終了後の展開、フォローについて

具体的には、社会科と総合的な学習の時間での取り扱いの違いを踏まえ、分野横断的な編成・内容にすることも視野にいれつつ、担当の先生方の得意分野等に応じた研究授業の内容を検討し、事務局側においては、指導計画案の作成や必要なデータの作成を支援する。なお、R2年度の授業編成はすでに決定していることから、社会科・総合的な学習の時間のいずれにおいても、その内容に応じた形での検討が必要だと考えられる。研究授業実施後は、授業の進行のしやすさ、児童の反応、必要な教材（ツール）の検討などをとりまとめ、これを反映した「副読本トライアル版」を作成する。

また、R2年度中に、研究授業の成果・課題を踏まえた「次年度、R3年度の授業編成」を検討することができれば、R3年度はよりチャレンジングな研究授業を実施することも期待できることから、WG内だけでなく、総合教育センターとの蜜な連携の下、計画的な事業の遂行が必要である。副読本については、このR3年度の研究授業の成果も踏まえて、R3年度末にかけて内容の精査を行っていく。加えて、R3年度は、札幌市など先進地での授業や交通環境学習フォーラムの視察、MM教育の事例発表が行われる日本モビリティ・マネジメント会議での取組み経過の発表などを通じて、情報収集だけでなく担当の先生方の主体的・積極的な取組みを支援することも重要である。

なお、検討委員会においては、研究授業の実践を通じて得られた成果・課題、それらを踏まえた授業内容および副読本への反映方法などについて、WGで重ねられた議論について報告し、全体のとりまとめの方向性を検討していく。

最後に、本事業ではR3年度末にMM教育の実施を支援する「副読本」を作成し、副読本とあわせて「モデル授業内容・指導計画案」を広く八戸の教育現場に発信・共有することが可能となるが、他地域の事例をみても、「実際のMM教育の普及」には時間を要し、ツール・授業のブラッシュアップについても継続的に取り組んでいくことが重要である。同様に、教材・データ作成等の支援も継続が望まれる。本事業においては、この「事業終了後の在り方：検討方法・支援方法」を見据えながら進めていくことが不可欠である。